

琵琶湖博物館 年報

第 22 号

2017 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2018 年 8 月



---

## ごあいさつ

---

2017年度は琵琶湖博物館にとっては開館20周年後の最初の1年ということになります。琵琶湖博物館のリニューアルは3期6年の計画で進んでおり、2017年度は第2期リニューアル計画の初年度にあたりますが、いずれにせよ2017年度はリニューアルが成功の途上にあるかどうかを測る年度ということになります。つまり2017年度の年報に記されているさまざまなデータを冷静に判定することによって成功の途上にあるかどうかを測ることができます。さまざまな数字などを見てみますと、リニューアル事業によって通常の博物館的業務に若干の支障がなかったとは言えないにせよ、概ねリニューアルは成功の途上にあると言えます。博物館の基本的な業務である研究的業務については研究発信において論文数などに低下がみられます。文科省科学研究費など外部研究資金の獲得数などにも同じ傾向がみられますが、これはリニューアル事業と研究的業務の重なったことによりやむを得ない側面もあったかと思われます。それほどリニューアル事業が琵琶湖博物館にとっては大きな事業である証拠ではありますが、この成功が自信となって、若干落ち込んだ論文発信数や外部資金獲得などは回復していくだろうと思われます。

年報は「Ⅰ 博物館機能の強化」と「Ⅱ 新琵琶湖博物館の創造」そして「Ⅲ 環境の整備」の3つの項目で構成されています。Ⅲはいうなれば琵琶湖博物館の施設利用や組織、そして利用状況などが記されています。Ⅱはリニューアルの状況を記したもので、2017年度では、ミュージアムショップのリニューアルと企画展示室におけるわくわく体験スペースのリニューアルなどが特筆に値することです。第2期のリニューアルは交流空間のリニューアルが中心的なテーマで、引き続きディスカバリールーム、大人のディスカバリー、そして野外に樹冠トレイル建設という準備に入っています。

Ⅰの項目では博物館の中心的事業である資料収集、研究活動、展示活動がどのようになされたのかが詳しく記されています。資料収集・整理・活用は博物館事業の根幹をなすものでありますが、資料の概数は968,775件となり、100万件に到達するのはもはや時間の問題であります。受贈、受託などは質の高い資料が提供されていて、今後の展示や閲覧の活用などが内外から強く望まれています。

琵琶湖博物館は特長として総合研究と共同研究という館員が内外の研究者とともに取り組む研究方法を採用しています。2017年度には総合研究1件、共同研究9件が実施されていますが、そのうち共同研究6件は2017年度より新たに開始されたものです。総合研究も2018年度を最終年度としており、このことを含めて琵琶湖博物館の研究体制も世代交代をしつつあると言えます。専門研究はいうなれば個人研究ですが、このなかから将来、共同研究や総合研究につながることを期待できる研究も数多く申請されています。

琵琶湖博物館は市民参加型の博物館活動を重視していることは、開館以来の基本的なコンセプトであります。この活動はⅠの項目の4「体験と交流を促す博物館」および5「対話と応援ができる博物館」の2節で2017年度の内容が詳しく説明されています。一般入館者へのサービス、博学（博物館と小学校・中学校との連携）連携、企業連携などの2017年度の実績がわかります。

琵琶湖博物館の活動記録の報告は、私たち博物館員の社会的責任です。琵琶湖博物館の活動を日頃から積極的に支援してくださっている多くの方々に厚くお礼申し上げますと共に、本年報を是非ご覧になっていただき忌憚のないご意見、ご批判を賜りますようお願い申し上げます。

2018年8月24日

滋賀県立琵琶湖博物館  
館長 篠原 徹

# 目 次

ごあいさつ	1
<b>I 博物館機能の強化</b>	
<b>1 資料が活用できる博物館</b>	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	4
(2) 資料の活用	9
(3) 資料保管	12
<b>2 研究を進めて活かせる博物館</b>	
研究推進	
(1) 総合研究	14
(2) 共同研究	14
(3) 専門研究	15
(4) 研究審査委員会	16
(5) 研究助成を受けた研究	16
(6) 研究員の受け入れ	18
研究発信	
(1) 公表された主な研究業績	19
(2) 新琵琶湖学セミナー	22
(3) 研究セミナー・特別研究セミナー	23
(4) 琵琶湖博物館ブックレット	25
研究交流	
(1) 協力協定に基づく連携	25
(2) 研究機関との連絡活動	28
(3) 海外活動	29
研究部活動	
(1) 研修	29
(2) 薬品の管理	30
(3) 研究備品の管理	30
<b>3 新たな参加と発見ができる博物館</b>	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	31
(2) 企画展示・水族企画展示	35
(3) ギャラリー展示・トピック展示等	38
(4) 集う・使う・創る 新空間	41
展示交流	
(1) フロアートーク	41
(2) ディスカバリールームのイベント	41
(3) 展示交流員と話そう	42
(4) デジタルサイネージ	43
博物館連携	
(1) 滋賀県博物館協議会	44
(2) 烏丸半島活性化連携事業	44

<b>4 体験と交流を促す博物館</b>	
一般利用者へのサービス	
(1) 観察会・見学会等	45
(2) 講座	46
(3) 体験教室	46
(4) 体験学習	47
学校連携	
(1) 学校団体	48
(2) 教育指導者等研修	52
企業連携	53
研修・実習	
(1) 国際交流	53
(2) 視察対応	55
(3) 博物館実習	56
<b>5 対話と応援ができる博物館</b>	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	57
(2) はしかけ制度	59
地域交流活動への支援	
(1) 博物館内での支援活動	76
(2) 地域での支援活動	78
(3) 質問対応	79
(4) ありがとう交流会	80
琵琶湖博物館環境学習センター	
(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供	81
(2) 環境学習の交流の場づくり	81
情報発信活動	
(1) 地域発見！参加型移動博物館	82
(2) インターネットを利用した館外への情報提供	83
(3) 印刷物	84
<b>II 新琵琶湖博物館の創造</b>	85
<b>III 環境の整備</b>	
<b>1 拠点としての施設整備</b>	
(1) 利用者用施設の整備	87
(2) 情報システムの整備	87
(3) 来館者アンケート調査	87
<b>2 柔軟な運営組織</b>	
(1) 組織	91
(2) 職員	92
<b>3 社会的支援と新しい経営</b>	
(1) 利用状況（2017年度入館者数）	96
(2) 広報活動	98
(3) 予算	111
<b>4 存在基盤の確立</b>	
(1) 琵琶湖博物館協議会	112
(2) 企画・計画	112
<b>IV 2017年度をふり返って</b>	
<b>1 研究部</b>	114
<b>2 事業部</b>	115
<b>3 総務部</b>	116

# I 博物館機能の強化

## 1 資料が活用できる博物館

### 資料整備活動

琵琶湖とその集水域および淀川流域をはじめ、日本・世界の湖沼周辺地域において自然と文化にかかわる物や情報といった資料を体系的に収集・整理し、活用するとともに、次世代まで確実に保存することをめざしている。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について、収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。また、保存や維持管理のための技術、方法の開発にも努めている。

収蔵資料は、博物館職員による収集をはじめ、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって受け入れられ、必要に応じて速やかに利用できるよう、各資料区分の体系にしたがって整理を行っている。以下に2017年度の資料整備および利活用状況を示す。

#### (1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微生物標本、水族資料（生体）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2017年度末現在で、博物館登録資料は554,559で、収蔵概数は968,775となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

#### 1) 収蔵資料数

2018年3月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2017年度登録数	2017年度受入総数
地学	58,952	78,985	2,006	3,797
動物	152,068	356,640	10,488	564
植物	87,910	188,344	1,000	0
微生物	9,812	69,802	9,812	1,954
水族（生体）	15,278	15,278	18,014	18,014
考古	0	1,429箱と392	0	0
歴史	2(件)	211(件)	0	0
民俗	6,721	6,837	0	0
環境	0	45箱と770	0	2
図書	143,100と 4,950タイトル	148,300	1,435	2,872と 63タイトル
映像	75,766	101,742	0	42
合計	554,559	968,775	42,755	27,308

【各分野別の詳細】

地学標本	2017年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	515	0	0	0	515	515		43,268	47,300
岩石・鉱物	39	0	0	0	882	882		10,171	21,385
堆積物	1,452	0	0	0	2,400	2,400		4,262	9,000
プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,251	1,300
小 計	2,006	0	0	0	3,797	3,797		58,952	78,985

動物標本	2017年度							累 積		
	登録数	採集	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料	収蔵概数	
脊椎動物（魚類除く）	21	11	0	0	11	22		3,672	4,004	
内 訳	哺乳類骨格標本	9	0	0	0	9	9		893	893
	哺乳類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		76	76
	哺乳類（その他）	0	0	0	0	0	0		870	870
	鳥類骨格標本	4	4	0	0	1	5	骨格標本 4	241	241
	鳥類乾燥標本（巢、卵、レプリカ等含む）	8	7	0	0	1	8	仮剥製標本 6、部分剥製標本 2	1,015	1,015
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0	0		43	43
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0	0		11	11
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0	0		23	40
	爬虫類（その他）	0	0	0	0	0	0		90	90
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		7	7
	両生類剥製標本	0	0	0	0	0	0		0	0
	両生類液浸標本	0	0	0	0	0	0		36	351
	両生類（その他）	0	0	0	0	0	0		367	367
魚類（淡水魚類）	436	0	0	0	0	0		57,003	85,588	
内 訳	乾燥骨格およびアクリル包埋標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本の維持管理、データベースの修正などをおこなった	2,678	2,678
	DNA分析用標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本を維持管理、データベースの修正などをおこなった	3,723	3,723
	その他の液浸標本	436	0	0	0	0	0	新規に提供された標本および前年度までの未登録標本を整理し、データベースへ436件を新規登録した	50,602	79,187
昆虫	0	20	0	0	54	74		67,015	234,899	
内 訳	昆虫液浸標本	0	1	0	0	0	1	以前に寄贈された資料を整理し、登録できる状態にする作業を進めている	12,504	31,065
	昆虫乾燥標本	0	19	0	0	54	73	滋賀県産標本の整理、宮田彬コレクションの登録作業	54,511	203,834
貝類	77	12	77	0	300	389		14,424	17,467	
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	9,954	54	6	0	19	79		9,954	14,682	
小 計	10,488	97	83	0	384	564		152,068	356,640	

植物標本	2017年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	1,000	0	0	0	0	0	標本受入・登録・ラベル貼付・収蔵・管理・収蔵庫燻蒸	87,910	188,166
植物液浸標本	0	0	0	0	0	0		0	0
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
小 計	1,000	0	0	0	0	0		87,910	188,344

微生物標本	2017年度							累 積	
	登録数	作成・撮影数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	8,420	1,945	0	0	0	1,945	データベースの作成・登録	8,420	6,886
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	31
珪藻プレパラート	1,392	5	0	0	0	5	データベースの作成・登録	1,392	1,392
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	25,324
珪藻顕微鏡写真デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	25,251
微小生物顕微鏡写真デジタルファイル	0	4	0	0	0	4		0	10,052
微小生物動画ファイル	0	0	0	0	0	0		0	866
小 計	9,812	1,954	0	0	0	1,954		9,812	69,802

水族資料 (生体)	2017年度							累 積	
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開	登録資料	収蔵概数
脊椎動物	11,301	675	106	6,511	4,009	11,301		14,037	14,037
内 訳	哺乳類	33	0	0	0	33		35	35
	魚類	11,248	655	106	6,511	3,976		13,954	13,954
	両生類	9	9	0	0	0		14	14
	爬虫類	7	7	0	0	0		29	29
	鳥類	4	4	0	0	0		5	5
無脊椎動物	6,713	4,758	943	1,012	0	6,713		1,241	1,241
内 訳	昆虫類	0	0	0	0	0		0	0
	貝類	1,080	125	0	955	0		916	916
	甲殻類	5,044	4,044	943	57	0		203	203
	扁形動物	589	589	0	0	0		122	122
小 計	18,014	5,433	1,049	7,523	4,009	18,014		15,278	15,278

考古資料	2017年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0		0	1,394(箱)
木器等(棚置き数)	0	0		0	357
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	26
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
展示用大型資料	0	0		0	6
瓦・金属製品	0	0		0	21(箱)と3
小 計	0	0		0	1,429(箱)と392

歴史資料	2017年度						累 積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	0	0	0	0	0		2	163
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	0	0	0	0		0	41
その他	0	0	0	0	0		0	7
小 計	0	0	0	0	0		2	211

民俗資料	2017年度				累 積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	0	0	0		4,133	4,140
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	0	0		2,588	2,589
二次資料	0	0	0		0	108
小 計	0	0	0		6,721	6,837

環境資料	2017年度					累 積	
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	2	0	2		0	74
生活用具類	0	0	0	0		0	37
民具類	0	0	0	0		0	22箱と630
二次資料(レプリカなど)	0	0	0	0		0	23箱と25
海外の湖沼船	0	0	0	0		0	4
小 計	0	2	0	2		0	45箱と770

図書資料	2017年度					累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	725	55	2,013	2,068	11月末まで館外利用者サービスとして開架図書約10,000冊、雑誌57件の整備。その他書籍ワケレス、コピーサービス(有料)。資料整理として蔵書点検19,000点、ニュースレターの整理、図書整備約1,000冊	89,000	92,000
文献	321	0	321	321		54,100	56,300
雑誌	389	389 (63タイトル)	94	483 (63タイトル)		(*)4,950 タイトル	
小 計	1,435	444 (63タイトル)	2,428	2,872と (63タイトル)		143,100と 4,950タイトル	148,300

(\*)ニュースレターを含まない。博物館関係の雑誌を含む

映像資料	2017年度							累 積	
	登録数	撮影数	移管数	寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	0	0	0	PhotoCD記録データの媒体変換、PhotoCDのフィルム対応リストの作成	75,766	92,931
動画資料	0	0	0	0	42	42		0	8,811
小 計	0	0	0	0	42	42		75,766	101,742

## 2) 寄贈者および提供者

敬称省略(点数)

### 【地学資料】

岩石・鉱物：谷脇俊之(295) 小谷富士夫(585) 長 朔男(2)

化石：谷脇俊之(120) 小谷富士夫(4) 北村 浩(695)

堆積物：産業総合研究所 (2400)

【動物標本】

哺乳類骨格標本：朽木いきものふれあいの里 (4) 西村有巧 (1) 武部進次 (2) 不明 (1)

鳥類乾燥標本：須藤明子 (1)

昆虫乾燥標本：石田未基 (9) 市川彰彦 (1) 小林圭介 (2) 武田 滋 (41) 中井克樹 (2)  
中川 優 (14) 八尋克郎 (3) 山中賢樹 (1)

魚類液浸標本：水産試験場 (1)

貝類液浸標本：石田未基 (11) 馬淵浩司 (77) 水資源機構 (300)

【水族資料】

千歳水族館 (99)

【民俗資料】

勝部自治会 (1) 彦根市古沢町 (1) 近江八幡市大房町 (1)

【図書資料】

伊谷純一郎 (172) 川那部浩哉 (29) 篠原 徹 (43) 橋本鉄男 (661) 用田政晴 (83)  
秋山廣光 (79) 河合崇欣 (31) 松野孝一 (1) 森口佐紀子 (1) 丁野永正 (1) 小坂育子 (3)  
藤井五郎 (2) 辻 彰洋 (1) 藤岡康弘 (1) 中島経夫 (1) 中野正俊 (1) 嘉田由紀子 (1)  
景観隊 (1) 滋賀県生活協同組合連合会 (2) 三嶺の森をまもるみんなの会 (1) 琵琶湖汽船 (1)  
山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会・伊藤 博 (2) 中野總志 (9) 勝部自治会 (2)  
中生代植物研究会・寺田和雄 (1) 南びわ湖巡り研究会 (2) 近畿大学水産研究所 (1)  
高橋啓一 (164) 戸田 孝 (10) 渡部圭一 (1) 大塚泰介 (8) 大久保実香 (4)  
芦谷美奈子 (19) 北浦孝雄 (3) 八尋克郎 (3) 里口保文 (1) 金尾滋史 (1)  
橋本道範 (1) 亀田佳代子 (2)

3) 購入資料

なし

4) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	137
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	32
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	117
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira ssp.</i>	120
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	125
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	76
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	277
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus atremius atremius</i>	99
カゼトゲタナゴ (山陽個体群)	<i>Rhodeus atremius suigensis</i>	255
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	130
アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>	11
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caerulescens</i>	450
イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	100
カワバタモロコ	<i>Hemigrammocyppris rasborella</i>	73

種 名	学 名	個体数
<b>日本産魚類</b>		
<b>コイ科</b>		
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pugnax</i>	9
モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	200
ビワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus microculus</i>	6
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	98
<b>ドジョウ科</b>		
アユモドキ	<i>Parabotia curta</i>	89
ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	200
オオガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis magnostriata</i>	39
ビワコガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis minamorii oumiensis</i>	175
<b>メダカ科</b>		
ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	300
<b>トゲウオ科</b>		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	58
ムサシトミヨ	<i>Pungitius sp.</i>	81
<b>スズキ科</b>		
オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>	35
<b>ハゼ科</b>		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp.</i>	39
<b>外国産魚類</b>		
<b>カワスズメ科</b>		
キルトカラ・モーリー	<i>cyrtocara moorii</i>	87
コパディクロミス・アズレウス	<i>Copadichromis azureus</i>	43
スキアエノクロミス・フライエリー	<i>Sciaenochromis fryeri</i>	15
アウロノカラ・ヤコブフライベルギ	<i>Aulonokara jacobfreibergi</i>	288
ラビドクロミス・カエルレウス	<i>Labidochromis caeruleus</i>	35

## (2) 資料の活用

### 1) 資料の貸出 (研究依頼を含む) 15件 2,294点

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	21	岡山理科大学生物地球学部	魚類咽頭歯乾燥標本 2,073点	咽頭歯モノグラフ執筆のため
4	26	北杜市オオムラサキセンター	オオムラサキ標本 2点	オオムラサキ国蝶指定 60周年記念「日本各地のオオムラサキ」展示のため
5	20	浜松市博物館	ナウマンゾウ化石 (複製) 2点	「三遠南信 土の中のわくわく動物園」での展示
7	1	平山郁夫シルクロード美術館	アフリカゾウの頭骨 1点	企画展における公開展示
7	1	大東市立歴史民俗資料館	食品サンプル 20点 弁当箱資料 3点	平成 29 年度企画展「れきみん食堂～うつわの中の文化史～」に展示
7	1	安土城考古博物館	紙本着色近江名所図 六曲一隻 1点	企画展「近江の城を掘る」で展示し、展示図録や展示パネルなどに掲載するため

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
7	1	岐阜県世界淡水魚園水族館	ビワコオオナマズ 1点	企画展示での展示のため
7	5	彦根市立佐和山小学校	ヨシ松明ミニチュア模型 1点 漁撈用具 2点 食品レプリカ 1点	総合学習での資料活用のため
7	13	岐阜県世界淡水魚園水族館	ビワコオオナマズ 1点	企画展示での展示のため
9	1	大津市歴史博物館	唐橋遺跡出土資料 18点	企画展「大津の都と白鳳寺院」に出陳のため
11	21	北九州市立自然史・歴史博物館	エビノコバン標本 1点	系統分類学的研究のDNA抽出のため
12	28	長浜市長浜城歴史博物館	食品サンプル 10点	企画展「湖北の日本遺産－竹生島と菅浦－」における展示
2	10	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校	カワシンジュガイ標本 83点 コガタカワシンジュガイ標本 68点	分類研究のため
2	21	九州大学決断科学センター	アユモドキ標本 5点	日本産ドジョウ類の比較形態計測のため
3	28	産業技術総合研究所	マイコアカネ 1点	日本のトンボの雑種の総説執筆のため

## 2) 資料の譲与 6件 214点

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
4	14	公益財団法人 ふくしま海洋科学館	ビワマス 70個体	展示のため
5	24	名古屋市東山動物園	ニッポンバラタナゴ 20個体	展示および生息域外保全
10	5	米原市立双葉中学校	ハリヨ 15個体	研究および生息域外保全
12	12	国立環境研究所・琵琶湖分室	オグラヌマガイ 5点 ニセマツカサガイ 2点 オバエボシガイ 5点 メンカラスガイ 5点	DNA解析に利用するため
3	19	オムロン野洲事業所	イチモンジタナゴ 42個体	展示および生息域外保全
3	24	京都市動物園	イチモンジタナゴ 20個体	展示および生息域外保全
3	31	京都市動物園	イチモンジタナゴ 30個体	展示および生息域外保全

## 3) 特別観覧

<映像資料・静止画> 27件 294点

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	19	東京工芸大学	災害写真 2点	研究発表及び大学での講義
5	27	水と文化研究会	前野コレクション 2点	大津市北部板橋文化を再生する会披露会における配布用絵葉書への掲載
6	20	総合地球環境学研究所	前野コレクション 1点	研究室紹介ホームページに引用として掲載
7	15	世界淡水魚園水族館	ビワコオオナマズ産卵映像 3点 ナマズ産卵映像 1点	企画展「世界のナマズ大紀行」における映像展示
7	20	南びわこ巡り研究会	丸子船復元船写真 1点	「近江は日本歴史の舞台裏Ⅱ」に掲載するため
8	27	読売新聞大津支局	洪水被害写真 1点	報道のため
9	5	滋賀県農政水産部農村振興課	ニゴロブナ 1点 踏車による揚水作業 1点	「魚のゆりかご水田プロジェクト」PRリーフレットへの掲載
9	13	滋賀県農政水産部農政課	琵琶湖と川の魚 77点	「世界農業遺産」PR資料(下敷き)への掲載

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
9	24	名古屋市東山動物園	アユモドキの卵写真 1点 アユモドキ孵化直後の稚魚写真 1点	小学生向け環境教育プログラム用資料に使用
10	13	近江八幡市	ヨシキリ類 1点	近江八幡市の鳥のパネル作成、ホームページへの掲載、広報誌による啓発
11	9	放送大学	琵琶湖博物館音声ガイドの画面および館内グラフィックパネル 1点	放送大学の授業科目「博物館情報・メディア論'18」で放送されるTV番組と印刷教材
12	15	前畑政善	魚類等 23点	Springer 社発行予定の英語本「Lake Biwa 第2版」に掲載する
12	28	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	前野コレクション等 30点	タブレット学習ソフトに使用
1	11	啓林館	外観写真 1点 B展示室琵琶湖の水害展示 1点	小学校理科教科書および関連する媒体への写真掲載
1	11	広沢編集事務所	ビワコオオナマズ等 4点	小中学生向けの地理学習の書籍への掲載
1	13	大津市立瀬田東小学校	災害写真 4点	小学校の社会科の授業での使用
1	13	滋賀県農政水産部農村振興課	琵琶湖と川の魚 77点	「魚のゆりかご水田プロジェクト」PR用下敷きへの掲載
1	13	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	水中カメラ動画 (C展示室) 1点	うみのご船内で、学習教材として使用
2	6	真弓浩二	ノゴイ 1点 ヤマトゴイ 1点	なごや生物多様性保全活動協議会発行の冊子に掲載
2	6	大分マリンパレス水族館「うみたまご」	ニッポンバラタナゴ卵静止画など 4点	春休みイースター特別企画「うみたまごのたまご展」における展示
2	6	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	湖北町尾上冠水写真 1点	タブレット学習ソフトに使用
2	6	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	ビワコオオナマズ等 8点	『琵琶湖ハンドブック三訂版』への掲載
2	15	滋賀県農政水産部農政課	滋賀県管下近江国六郡物産図説一 滋賀郡・栗太郡 1点 近江水産図譜 6点	世界農業遺産認定にむけた申請書・PRビデオへの掲載
2	23	日田市立博物館	安心院動物化石群画像 22点	特別展「太古の湖とそこに暮らした生きものたち」図録に使用
2	26	嘉田由紀子	藤村和夫コレクション 1点 前野コレクション 1点	『滋賀県の挑戦』（仮題）への掲載
2	26	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	ビワコオオナマズ等 9点	『琵琶湖ハンドブック概要版』への掲載
3	8	滋賀県農政水産部農政課	タツベ等 4点	世界農業遺産認定にむけた申請書・PRビデオ等への掲載

<館内閲覧・撮影> 8件 418点

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
5	11	東 幸代	居初家文書Ⅰ 28点 居初家文書Ⅱ 2点	論文の執筆に関する調査
6	14	向井貴彦	サケ (岐阜県関市産) 1点	岐阜県産魚類相調査及び「岐阜県の魚類」掲載
10	13	西原和代	漁撈関係民俗資料 260点	博士論文の執筆に関する調査
10	20	鮫島悠甫	骨格標本 5点	修士論文の執筆に関する調査
10	25	西原和代	漁撈関係民俗資料 50点	博士論文の執筆に関する調査
11	25	中井賀津	鮎河層群産ビカリア化石等 41点	研究のため

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
11	29	西野麻知子	条虫・線虫の液浸標本 2点	書籍掲載のための写真撮影
3	9	馬渕浩司	ドブガイ属液浸標本 29点	学術研究のため

#### 4) 収蔵資料管理データベースの更新

当館では、収蔵資料の情報をデジタルデータとして扱うデータベースを構築して資料管理およびその情報公開を行っている。今年度は当館で管理するサーバーの更新に伴い、開館以来当館独自に設計された収蔵資料管理データベースから、より汎用性の高い資料管理データベースを提供する業者による管理運営へと移行させた。移行を行った試料分野およびデータ数は以下のとおり。

名称	データ件数	公開	名称	データ件数	公開
化石	約 43,000	○	昆虫液浸	約 13,000	○
岩石・鉱物	約 11,000	○	昆虫乾燥	約 55,000	○
堆積物	約 4,200	○	爬虫両生類	約 600	○
地学プレパラート	約 1,300	○	鳥類	約 1,300	○
植物さく葉	約 88,000	○	哺乳類	約 2,000	○
魚類	約 57,000	○	民俗	約 10,000	○
貝類	約 15,000	○	画像	約 74,000 (画像を含む)	○

また、データベースシステムの移行後、新たな資料分類群である「無脊椎動物」および「微小生物」を追加し、当館のインターネットページにおいて、収蔵資料データベースの形で公開している。

なお、図書資料については、今後、県内外の図書館の図書資料情報の一元化などによる連携を強める目的から、図書館等で用いられているデータベース管理システムの導入を行い、情報の公開を行った。

#### 5) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2017年度には以下の書籍が公表された。

著者	年	タイトル	雑誌名または出版物	頁	種別	活用標本
向井貴彦 編著	2017	サケ	岐阜県の魚類	214p	著書	魚類液浸標本 LBM1210056610

#### (3) 資料保管

資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防黴対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物トラップ調査、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理（IPM）を行っている。

2017年度は、収蔵庫空間においてカビ防御のため、前年に引き続き、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。民俗収蔵庫では、カビの発生が確認されたため、徹底したクリーニングよりカビの除去を行った。また、カビの除去後も湿度が不安定であったため、4～11月のあいだ、除湿器を用いて湿度の調整を行い、データロガーを用いた継続的なモニタリングを行った。また、動物標本（剥製）などが展示されているC展示室内にて、文化財害虫の発生が確認されたため、資料の冷凍処理および二酸化炭素

処理、展示室内でのトラップによるモニタリング、清掃の徹底を行い、展示室の資料保存環境の維持に努めた。

## 1) 収蔵庫空間の管理

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間ごとに計測し、全データを保存。一部収蔵庫では、データロガーを使用。</li> <li>・ 温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。</li> <li>・ 温湿度センサーの校正</li> </ul>
定期清掃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収蔵庫の清掃：月 1 回原則として第 1 金曜日に実施</li> <li>・ 収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週 1 回実施</li> </ul>
特別清掃等	生物環境調査の結果から、特別清掃の実施(害虫の増加場所を対象とした一部展示室内) 乳剤散布 4 回、委託業者清掃実施
生物環境調査	年 3 回の生物環境調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2017 年 6 月 16 日～6 月 30 日 昆虫トラップ調査 252 カ所(設置・回収・分析)</li> <li>・ 2017 年 11 月 10 日～11 月 24 日 昆虫トラップ調査 252 カ所(設置・回収・分析)</li> <li>・ 2018 年 3 月 2 日～3 月 16 日 昆虫トラップ調査 246 カ所(設置・回収・分析)</li> </ul> ＊当館の IPM 基準値 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が 1</li> </ul>

## 2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった、総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップの結果等を踏まえて、害虫の発生源となりやすい箇所等について、今後の対策の検討を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸を 3 回実施した。また、密閉テントを用いたエキヒューム燻蒸を 1 回実施した。また、展示室でのトラップ調査の結果を踏まえて、短期間での燻蒸処理として、パナプレートを用いた資料の殺虫処理を展示室および大型燻蒸庫にて実施した。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

## 2 研究を進めて活かせる博物館

### 研究推進

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という五つを総合的に行ない、特にその中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行なわれ、研究の成果とその発信が魅力的であれば、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

研究部では2015年3月に策定された新琵琶湖博物館創造基本計画に従い、3つの役割である1)「湖と人間」のあり方を県民とともに考え、ともに行動する博物館、2) 次代を担う人が育つ拠点となる博物館、3) 地域活性化の核となる博物館を、博物館の研究活動を通じて具現化することを目指している。そのため、2016年度から2020年度の5年間の研究活動方針および行動計画に従い、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探っていく。この役割や活動は、主な3つの研究の方向性に沿って、これからも継続していく予定である。

- ・琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進

琵琶湖博物館の専門、共同、総合研究や外部資金による研究を組み合わせで行う。

- ・「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究

国際協力協定を結んでいる海外の博物館、研究機関との資料交換や共同研究を行う。

- ・「木から森へ」の博物館学の追求

博物館機能を活用して誰もが琵琶湖博物館の活動を知り、研究や事業に参加できるための博物館学研究を行う。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。2017年度に整備した当館の研究評価実施要綱に従い、総合研究と共同研究については、研究計画調書ならびに説明によって、研究審査委員会の審査を受け、その結果を踏まえて、当館で行う研究課題を定めた。また、専門研究については、内部評価委員会を設置し、研究課題を検討し、助言を行いながら、研究を推進することとした。なお、専門研究の中で、申請額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。2017年度は、次の研究課題が実施された。

#### (1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、総合研究を行った。総合研究のテーマは次の1件であった。

- ・前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究

代表者：橋本道範，研究期間：2014～2018年度

#### (2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の9件であった。

- ・大型植物遺体・花粉分析に基づく琵琶湖地域における最終氷期の森の復元

代表者：林 竜馬，研究期間：2015～2017年度

- ・資源をめぐるまちづくりのありかたに関する社会学的研究

代表者：楊 平，研究期間：2016～2019年度

- ・微小な生物を用いた交流プログラムの開発

代表者：松田征也，研究期間：2016～2018年度

- ・「田んぼのいきもの全種リスト」の増補更新と公開システムの構築  
代表者：大塚泰介，研究期間：2017～2020年度
- ・古琵琶湖誕生期における化石林に基づく水辺植生と古環境の解明  
代表者：山川千代美，研究期間：2017～2019年度
- ・カワウの影響を受けた森林生態系の長期変遷  
代表者：亀田佳代子，研究期間：2017～2019年度
- ・水とのかかわりの変化に伴う地域社会への影響  
代表者：大久保実香，研究期間：2017～2019年度
- ・水棲哺乳類の疾患における病理学的研究－バイカルアザラシの皮膚炎－  
代表者：松岡由子，研究期間：2017～2019年度
- ・琵琶湖南湖において沈水植物の量を適正化するための条件探索  
代表者：芳賀裕樹，研究期間：2017～2019年度

なお、「水とのかかわりの変化に伴う地域社会への影響（代表者：大久保）」および「水棲哺乳類の疾患における病理学的研究－バイカルアザラシの皮膚炎－（代表者：松岡）」の2件の課題については、年度途中の産休・育休休暇に伴い、保留扱いとなっている。

### (3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとに区別している。

#### <申請専門研究>

- ・イバラモの繁殖生態に関する研究（芦谷美奈子）
- ・幼児の博物館体験と野外体験の効果（澤邊久美子）
- ・小糸網漁と引き縄釣りで漁獲されたビワマスの生物学的特性の比較（桑原雅之）

#### <専門研究>

#### 環境史研究領域担当

- ・古琵琶湖層群中部付近の古流向（里口保文）
- ・中期更新世小型動物の生息環境と古生態の解明（山川千代美）
- ・日本中世史は「種」を問題とすることができるか－地域環境史への挑戦－（橋本道範）
- ・溜池の利用と管理に関する社会学的研究（楊 平）
- ・シミュレーションモデルを用いた琵琶湖地域での植生変遷復元の検討（林 竜馬）
- ・人口減少下の山村集落における森林の管理・利用（大久保実香）
- ・愛知川における土砂管理に関する研究（北井 剛）
- ・旧津田内湖沿岸における村落・資源・祭礼のモノグラフ調査（渡部圭一）
- ・琵琶湖周辺地域における農耕文化成立の基礎研究（妹尾裕介）
- ・新しい遺伝分析手法による琵琶湖固有魚類の集団の歴史推定（田畑諒一）

#### 生態系研究領域担当

- ・鳥の巣内に生息する昆虫類の食性解明（亀田佳代子）
- ・南湖の沈水植物の群落高の季節変化の解明（芳賀裕樹）
- ・琵琶湖とその集水域の昆虫相の変遷に関する研究（八尋克郎）
- ・希少淡水魚における性決定について（松田征也）
- ・淡水生物および陸貝の保全に関する基礎的研究（中井克樹）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究（榎永一宏）

- ・カイミジンコの剛毛と爪の長さの変動についての分析（ロビン ジェームス スミス）
- ・琵琶湖逆水かんがいの歴史的変遷と持続可能性に関する調査（下松孝秀）
- ・耳石を用いた魚類の生態解析（片岡佳孝）
- ・森林環境学習「やまのこ」事業における学習プログラムの検討（山本綾美）
- ・交雑マミズクラゲにおけるクラゲ体の効率の良い発生法を探る（鈴木隆仁）

#### 博物館学研究領域担当

- ・地球物理学を手がかりとする博物館学の展開（戸田 孝）
- ・滋賀県におけるハッタミミズの分布パターンの解明（大塚泰介）
- ・琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究（金尾滋史）
- ・飼育下バイカルアザラシの摂取カロリーに関する研究（松岡由子）
- ・伊吹山に生育するソラマメ属植物の多様性維持機構の解明（大槻達郎）
- ・学習内容に合わせた博物館の活用について（奥野知之）
- ・学校と博物館それぞれの特色を活かした連携のあり方（小林偉真）

#### (4) 研究審査委員会

##### 琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
林田 明	同志社大学理工学部 教授
中村 正久	滋賀大学環境総合研究センター 特任教授
西 源二郎	公益財団法人東京動物園協会 理事
不破 徹也	滋賀県総合教育センター 係長
濱崎 一志	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 教授
瀬田 勝哉	武蔵大学 名誉教授
細谷 和海	近畿大学農学部環境管理学科 教授
遊磨 正秀	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 教授
篠原 徹	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
津田 清和	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長
高橋 啓一	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

#### (5) 研究助成を受けた研究

学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

##### 篠原 徹

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

##### 高橋啓一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「北東アジアにおける最終氷期最盛期の主要樹木分類群の分布と古植性」研究分担者（2014～2017年度）

##### 里口保文

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

##### 橋本道範

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究代表者（2015～2018年度）

林 竜馬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「北東アジアにおける最終氷期最盛期の主要樹木分類群の分布と古植性」研究分担者（2014～2017年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「ボルネオ島泥炭掘削：過去4000年間の熱帯大気対流活動の復元」研究分担者（2015～2017年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

大久保実香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

ロビン ジェームス スミス

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「新たな生物進化モデルの展開：日本海多様化工場説とその世界的インパクト」研究分担者（2014～2017年度）

亀田佳代子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

澤邊久美子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

大塚泰介

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「鈹質土壌湿原の成立条件と生物群集の解明」研究代表者（2015～2018年度）

芦谷美奈子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発」研究分担者（2013～2017年度）

渡部圭一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究 B）「宮座文書における「差定状」の管理史および儀礼史の解明：物質文化研究の視点から」研究代表者（2015～2017年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東北型社会の特質に関する史的研究：地域資源の開発・管理・利用との関係を重視して」研究分担者（2015～2019年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

朱 偉

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「Microcystisの群体集積によるアオコ発生メカニズムの解明」研究代表者（2015～2017年度）

中野正俊

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「児童の理科学力と学習意欲向上に寄与する博物館・学校・地域連携モデルの開発と汎用化」研究代表者（2015～2017年度）

藤岡康弘

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

<研究調査業務受託>

- ・京都府いなべ市 天然記念物ネコギギ飼育増殖業務 松田征也（2017年度）

## (6) 研究員の受け入れ

- ・池田 勝 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究
- ・北村美香 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：博物館における著作権に関するマスタープランと実践モデルの提案
- ・辻川智代 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史の変遷を通じた地域文化研究
- ・黒岩啓子 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：博物館におけるコミュニケーションと学びを支える展示評価・来館者調査
- ・柏尾珠紀 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：滋賀、琵琶湖周辺農山村におけるジェンダーの社会学的考察
- ・川瀬成吾 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：琵琶湖・淀川流域の魚類多様性をめぐる保全分類学的研究
- ・廣石伸互 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：蛍光抗体法によるアオコ単独細胞の検出に関する研究
- ・朱 偉 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：吹送流による*Microcystis*の群体集積およびアオコ発生メカニズムの研究
- ・中野聰志 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：滋賀県琵琶湖周辺花崗岩類・国内外関連花崗岩類及びそれらに伴う鉱物類—特に長石類—の地質学鉱物学的研究
- ・天野一葉 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：外来種ソウシチョウの形態・遺伝学的研究
- ・藤岡康弘 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：琵琶湖固有種の分類ならびに生態に関する研究
- ・中野正俊 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：児童の活用型学力と学びの有用感を高める理科・環境学習…「主体的・対話的で深い学び」を理科・環境学習にどう生かすか…
- ・矢田直樹 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：滋賀県内の祭礼行事や民間信仰に関する歴史民俗学的研究
- ・高梨純次 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：近江の仏像からみた仏教の展開と地域社会の歴史
- ・瀬口眞司 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：縄文時代を中心とする人類の資源利用と自然観の通時的変遷に関する研究
- ・Blakemore Robert John 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：Biodiversity of Earthworms in Satoyama and Tanbo at Biwako, Shiga-ken and in southern Japan
- ・寺本憲之 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：ブナ科植物を寄主とする鱗翅目昆虫相と食性に関する研究
- ・中西康介 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：水田生態系における水生生物の多様性と保全に関する研究
- ・楠岡 泰 2017年4月1日～2018年3月31日  
テーマ：「共生藻類をもつ繊毛虫の生態」および「微小生物を用いた交流プログラムの開発」

## <名誉学芸員>

- ・前畑政善 2016年4月1日～2021年3月31日  
テーマ：水田魚類の研究
- ・布谷知夫 2014年4月1日～2019年3月31日  
テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・川那部浩哉 2015年4月1日～2020年3月31日  
テーマ：博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及
- ・中島経夫 2015年4月1日～2020年3月31日  
テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
- ・用田正晴 2016年4月1日～2021年3月31日  
テーマ：湖沼環境が果たした歴史的機能・評価に関する考古学的研究
- ・マーク J グライガー 2017年4月1日～2022年3月31日  
テーマ：甲殻類分類学、魚類寄生虫調査、田んぼにすむエビ類の様々な研究と海洋寄生虫

## 研究発信

### (1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.biwahaku.jp/research/publication>) に掲載した。

## <原著論文>

- Takahashi, K. and Yasui, K. (2017) Taxonomic invalidity of Busk's elephant (*Elephas maximus buski* Matsumoto, 1927) demonstrated by AMS <sup>14</sup>C dating. *Paleontological Research*, 21: 195-202.
- 高橋啓一 (2017) 古琵琶湖層群の陸上脊椎動物化石—日本の鮮新—更新世の動物相における意義—. *化石研究会会誌*, 50: 48-59.
- Yabe, A. and Yamakawa, C. (2017) Revision of *Cunninghamia protokonishii* Tanai et Onoe (Pinopsida, Cupressaceae) from East Asia. *Paleontological Research*, 21(4): 309-328.
- Kremer, K., Usman, M. O., Satoguchi, Y., Nagahashi, Y., Vadakkepuliambatta, S., Panlen, G. and Strasser, M. (2017) Possible climate preconditioning on submarine landslides along a convergent margin, Nankai Trough (NE Pacific). *Progress in Earth and Planetary Science*, 4: 20. DOI 10.1186/s40645-017-0134-9.
- 里口保文 (2017) 古琵琶湖堆積盆周辺の古水系変化の検討. *化石研究会会誌*, 50: 60-70.
- Sánchez Goñi, M. F., Desprat, S., Daniau, A.-L., Bassinot, F. C., Polanco-Martínez, J. M., Harrison, S. P., Allen, J. R. M., Anderson, R. S., Behling, H., Bonnefille, R., Burjachs, F., Carrión, J. S., Cheddadi, R., Clark, J. S., Combourieu-Nebout, N., Mustaphi, Colin. J. Courtney, Debusk, G. H., Dupont, L. M., Finch, J. M., Fletcher, W. J., Giardini, M., González, C., Gosling, W. D., Grigg, L. D., Grimm, E. C., Hayashi, R., Helmens, K., Heusser, L. E., Hill, T., Hope, G., Huntley, B., Igarashi, Y., Irino, T., Jacobs, B., Jiménez-Moreno, G., Kawai, S., Kershaw, A. P., Kumon, F., Lawson, I. T., Ledru, M.-P., Lézine, A.-M., Liew, P. M., Magri, D., Marchant, R., Margari, V., Mayle, F. E., McKenzie, G. M., Moss, P., Müller, S., Müller, U. C., Naughton, F., Newham, R. M., Oba, T., Pérez-Obiol, R., Pini, R., Ravazzi, C., Roucoux, K. H., Rucina, S. M., Scott, L., Takahara, H., Tzedakis, P. C., Urrego, D. H., van Geel, B., Valencia, B. G.,

Vandergoes, M. J., Vincens, A., Whitlock, C. L., Willard, D. A., and Yamamoto, M. (2017) The ACER pollen and charcoal database: a global resource to document vegetation and fire response to abrupt climate changes during the last glacial period. *Earth System Science Data*, 9: 679-695, Copernicus Publications.

渡部圭一・芳賀和樹・加藤衛拓 (2018) 明治中期阿仁鉦山をめぐる山麓村の林産物請負生産—旧秋田藩領荒瀬村肝煎・湊家文書の解題と翻刻. *筑波大学農林社会経済研究*, 33, 筑波大学大学院生命環境科学研究科農林社会経済学領域: 1-72.

渡部圭一 (2018) 万延元年上妙典村「異流ケ間敷法門」一件—妙好寺住職の江戸出訴日記『荒塵記』翻刻と解題 (1). *市史研究いちかわ*, 9, 市川市役所文化スポーツ部文化振興課: 38-47.

Kano, Y., Tabata, R., Nakajima, J., Takada-Endo, M., Zhang, C., Zhao, Y., Yamashita, T. and Watanabe, K. (2018) Genetic characteristics and possible introduced origin of the paradise fish *Macropodus opercularis* in the Ryukyu Archipelago, Japan. *Ichthyological Research*, 65 (1): 134-141.

Kadowaki, K., Nishijima, S., Kéfi, S., Kameda, K. O. and Sasaki, T. (2017) Merging community assembly into the regime-shift approach for informing ecological restoration. *Ecological Indicators*, 85: 991-998. <https://doi.org/10.1016/j.ecolind.2017.11.035>

Masunaga, K. (2017) Saltmarsh flies of the genus *Scorpiurus* Parent from New Zealand (Insecta: Diptera: Dolichopodidae), *Zootaxa*. 4324: 581-591.

Ohtaka, A., Gelder, S. R. and Smith, R. J. (2017) Long-anticipated new records of an ectosymbiotic branchiobdellidan and an ostracod on the North American red swamp crayfish, *Procambarus clarkii* (Girard, 1852) from an urban stream in Tokyo, Japan. *Plankton and Benthos Research*, 12: 123-128.

Smith, R. J., Kamiya, T., Choi, Y-G., Lee, J. and Chang, C. Y. (2017) A new species of *Cavernocypris* Hartmann, 1964 (Crustacea: Ostracoda) from caves in South Korea. *Zootaxa*, 4268: 360-376.

Zhai, D., Smith, R. J., Peng, P., Yu, N., Ma, S. and Li, X. (2017) Cluster analyses of Ostracoda based on dimensions of body structures: implications for taxonomic classification. *Crustaceana*, 90; 471-502.

Suzuki, T.G. (2017) Development and culturing and exhibition methods for *Craspedacusta sowerbyi*. *Bulletin of Plankton Society of Japan*, 64(2): 138-141.

戸田 孝 (2017) 博物館の「副次的機能論」への序論. *博物館学雑誌*, 43 (1), 全日本博物館学会: 1-17.

Shimano, S.D., Bobrov, A., Wanner, M., Lamentowicz, M., Mazei, Y. and Ohtsuka, T. (2017) Testate amoeba diversity of a poor fen on mineral soil in the hilly area of Central Honshu, Japan *Acta Protozoologica*, 56, Instytut Biologii Doświadczalnej im. M. Nenckiego; *Polskie Towarzystwo Biologii Komórki*: 211-216.

Ohtsuka, T., Kitano, D. and Nakai, D. (2018) *Gomphosphenia biwaensis*, a new diatom from Lake Biwa, Japan: description and morphometric comparison with similar species using an arc constitutive model. *Diatom Research*, Published Online, Taylor & Francis: <https://doi.org/10.1080/0269249X.2018.1433237>.

#### <専門分野の著作>

高橋啓一 (2017) MIS 3 以降の日本の陸生動物の変遷ならびに北海道における動植物相と旧石器群の関係性. 門脇誠二 編, ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明 文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「パレオアジア文化史学」研究計画 A02 班 2016 年度研究報告: 33-35.

高橋啓一・琵琶湖博物館はしかけ古琵琶湖発掘調査隊 (2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手より発見されたシカ

- 化石. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書, 多賀町教育委員会: 91-100.
- 高橋啓一・琵琶湖博物館はしかけ古琵琶湖発掘調査隊(2017)多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト(2012-2016) 成果のまとめ. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書, 多賀町教育委員会: 101-104.
- 神谷英利・高橋啓一 (2017) 地学者列伝: 槇山次郎-貝類学・ナウマンゾウ・京都大学地質学鉱物学教室. 地球科学, 71: 185-198.
- 高橋啓一 (2017) 巻頭言 特集「琵琶湖とその生物相のおいたち」. 化石研究会会誌, 50: 47.
- 高橋啓一 (2017) 第146回化石研究会例会(滋賀県立琵琶湖博物館)の報告. 化石研究会会誌, 50: 45.
- 半田直人・出穂雅実・高橋啓一・飯塚文枝・Batmunkh Tsogtbaatar・Byambaa Gunchinsuren・Davaakhuu Odsuren・Lochin Ishtsere (2017) モンゴル東部オンドルハーンより後期更新世サイ科化石の発見. 地質学雑誌, 123 (12): 口絵 v-vi.
- 高橋啓一 (2018) 人が広げる博物館の理念. 稲村哲也・近藤智嗣 著, 博物館情報・メディア論, 放送大学教育振興会: 262-265.
- 高橋啓一・谷下ワニ研究会 (2018) 浜名湖周辺のナウマンゾウとその意義について. 浜松市博物館報: 21-40.
- 高橋啓一 (2018) ユーラシア北方における MIS 3 以降の哺乳動物相の変遷. 門脇誠二 編, パレオアジア文化史学 計画研究 A02 班 2017 年度研究報告: 33-37.
- 山川千代美・神谷悦子・布谷知夫 (2017) 滋賀県多賀町四手産の大型植物化石に基づく古植生. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書「180-190 万年前の古環境を探る」, 多賀町教育委員会: 27-37.
- 山川千代美 (2017) 植物相からみた古琵琶湖の動物たちが生きた環境. 化石研究会会報, 50(2): 82-89.
- 里口保文 (2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手発掘地の層序および堆積環境. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書「180-190 万年前の古環境を探る」, 多賀町教育委員会: 19-26.
- 富 小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子 (2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手の古代象発掘調査地点における珪藻化石群集(予報). 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書「180-190 万年前の古環境を探る」, 多賀町教育委員会: 45-50.
- 橋本道範 (2017) 網野善彦と「自然そのものの「論理」」. 歴史評論, 805: 56-68.
- 楊 平 (2017) 名水「観光」にみる地域社会の活性化. ものがたり観光行動学会誌, 7, ものがたり観光学会: 14-25.
- 楊 平 (2018) 博物館における多言語対応(特集 博物館における多言語対応). 博物館研究 = Museum studies, 53(1), 日本博物館協会: 11-14.
- 大崎亜見・林 竜馬・堂満華子 (2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手の古代ゾウ発掘調査地点における花粉分析に基づく古植生の復元. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書, 多賀町教育委員会: 38-44.
- 林 竜馬 (2017) 変動する森から見つめる「人新世」. 現代思想, 45 (22), 青土社: 88-98.
- 渡部圭一・相場 峻 (2017) 市川市の寺院明細帳(下). 市川市史編さん民俗部会成果報告書, 5, 市川市文化振興課: 1-85.
- 渡部圭一 (2018) コンテキストにおける文書の民族誌. 古家信平 編, 現代民俗学のフィールド, 吉川弘文館: 68-84.
- 村野正景・妹尾裕介・大石雅興 (2018) 京都府立鴨沂高等学校所蔵の考古資料について—高校生による滋賀県滋賀里遺跡の調査成果—. 朱雀, 30, 京都文化博物館: 1-11.
- 酒井陽一郎・琵琶湖博物館うおの会・中尾博行・中川 光・金尾滋史・松田征也・宮永健太郎 (2018) 生物多様性の保全と持続可能な利用の促進に向けた研究. 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター報告書, 13: 61-63.
- 中西康介・牛島積広・宮武頼夫・八尋克郎・村上大介 (2018) 犬上川河口におけるカワムラナベブタムシ調査の報告. Came虫, 192: 6-7.
- 河瀬直幹・牛島積広・八尋克郎 編 (2018) 滋賀県のトンボ(2010年代)琵琶湖博物館研究調査報告書. 30

: 181p.

八尋克郎 (2018) 大津市伊香立のアキアカネ. 河瀬直幹・牛島積広・八尋克郎 編, *滋賀県のトンボ (2010 年代) 琵琶湖博物館研究調査報告書*, 30 : 91.

林 成多・八尋克郎・北林栄一 (2018) 昆虫化石. *大山層足跡化石発掘調査報告書*: 53.

八尋克郎・林 成多 (2017) 滋賀県犬上郡四手から産出した昆虫化石. *多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書*, 多賀町教育委員会: 51-58.

中井克樹 (2017) 琵琶湖の外來魚問題をふり返って: その背景と経緯. *海洋と生物*, (228) : 3-9.

中井克樹 (2017) 侵略的外來魚オオクチバスに対する対策—特に影響軽減のための新しい手法について. *生物の科学遺産*, 71 (1) : 34-40.

野村俊夫・中井克樹 (2018) 関西広域連合による生物多様性施策の動向. *季刊 政策・経営研究*, 2018 Vol. 1, 三菱UFJ リサーチ&コンサルティング: 9-19.

大塚泰介 (2017) これから珪藻群集の環境指標性を研究する人のために. *環境技術*, 46, 環境技術学会: 186-191.

大塚泰介 (2017) R による珪藻群集の分析. *環境技術学会ウェブページ* <http://www.jriet.net/magazine/2017/diatomanalysis.html>

富 小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子 (2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手の古代ゾウ発掘調査地点における珪藻化石群集 (予報). *多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書「180-190 万年前の古環境を探る」*, 多賀町教育委員会: 45-50.

大塚泰介 (2018) 書評「琵琶湖岸からのメッセージ 保全・再生からの視点」. *地域自然史と保全*, 39, 関西自然保護機構: 147-148.

金尾滋史 (2017) ヨドコガタスジシマドジョウ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編, *環境省レッドリスト 2017 補遺資料*, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室: 26.

金尾滋史 (2017) ビワコガタスジシマドジョウ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編, *環境省レッドリスト 2017 補遺資料*, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室: 27.

酒井陽一郎・琵琶湖博物館うおの会・中尾博行・中川 光・金尾滋史・松田征也・宮永健太郎 (2017) 生物多様性の保全と持続可能な利用の促進にむけた研究. *琵琶湖環境科学研究センター研究報告書*, 13, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター: 61-75.

金尾滋史 (2017) 湖の魚たち. 日本湿地学会 監修, *図説 日本の湿地*, 朝倉書店: 42-43.

金尾滋史 (2018) 図書紹介 方円の器. *日本動物園水族館教育研究会誌*, 24, 日本動物園水族館教育研究会: 89-90.

金尾滋史・遠藤真樹・新保健志・中谷成一 (2018) 甲賀市レッドリスト 2017 魚類の概要. *みなくち子どもの森自然館* 編, *甲賀市レッドリスト 2017*: 4.

大谷ジャーメンウィリアム・金尾滋史・河瀬直幹 (2018) 甲賀市レッドリスト 2017 淡水貝類の概要. *みなくち子どもの森自然館* 編, *甲賀市レッドリスト 2017*: 3.

大谷ジャーメンウィリアム・金尾滋史・河瀬直幹 (2018) 甲賀市レッドリスト 2017 陸産貝類の概要. *みなくち子どもの森自然館* 編, *甲賀市レッドリスト 2017*, 甲賀市: 4.

澤邊久美子 (2017) 社会的責任・環境コミュニケーション卒業生の活躍「身近な草むらの世界を伝えたい」. *名古屋大学環境報告書*, 名古屋大学施設管理部: 32.

## (2) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館では、「湖と人間」をテーマに、過去から現在にかけて湖と人間との関係を明らかにし、未来に向けてよりよい関係を考えていくために、研究調査を進めている。その研究成果発信の一環として、昨年度から引き続き「新琵琶湖学セミナー」を開催した。

2017 年度は、琵琶湖博物館ブックレットの発行を記念し、各号の著者によるセミナーを行った。琵琶湖博

博物館がその研究にもとづいてブックレットや本を出版していることを広く知ってもらう機会とするとともに、その内容や研究の裏話などについてより深く学べるセミナーとした。

具体的な内容は下記の通りである。各回、当館学芸員1人と館外の研究者1人による2講演とし、講演時間は50分ずつで、テーマごとに深く掘り下げた講演内容を組み合わせた。一般参加者数はのべ189人で、熱心な参加者が多く、質疑も活発に行われた。

開講日：2018年1月28日(日)・2月25日(日)・3月24日(土)

開講時間：13:30～16:00

会場：琵琶湖博物館セミナー室

第1回 1月28日(日) 13:30～16:00

■太古の世界を探るさまざまな研究	参加者 69名
「ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほitori」	高橋啓一（琵琶湖博物館）
「琵琶湖のほとりの太古の森を復元する」	百原 新（千葉大学大学院園芸学研究科）

第2回 2月25日(日) 13:30～16:00

■知っているようで知らない琵琶湖や田んぼの生き物研究	参加者 57名
「イタチムシの世界をのぞいてみよう」	鈴木隆仁（琵琶湖博物館）
「『びわこ虫』は琵琶湖を映す鏡？」	井上栄壮（琵琶湖環境科学研究センター）

第3回 3月24日(土) 13:30～16:00

■琵琶湖の魚と私たちの関わりを科学する	参加者63名
「琵琶湖の魚と貝をめぐる現状」	松田征也（琵琶湖博物館）
「琵琶湖の漁業 いま・むかし」	山根 猛（琵琶湖みらい研究所）

### <聴覚障害者への対応>

障害者差別解消法のスタートに伴い、一般向けの講座等に聴覚障害者等への合理的な配慮が求められるようになった。本新琵琶湖学セミナーでは、聴覚障害者へ対応するために手話通訳、要約筆記（ノートテイク）の支援を滋賀県立聴覚障害者センターへ依頼をした。今年度の本セミナーでは聴覚障害者の参加申込はなかったが、今後、企画段階から聴覚障害者へ対応する事前準備をシステム化する必要がある、整備する機会となった。

### (3) 研究セミナー・特別研究セミナー

#### 1) 研究セミナー

毎月第3金曜日13:15～15:15に琵琶湖博物館セミナー室において、以下の研究セミナーを開催した。なお、特別研究員の発表の機会として、12月9日(土)9時からセミナー室にて、臨時の研究セミナーを開催した。

第1回 4月21日 31人

大久保実香「博物館における「市民参加」－多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトの事例から－」  
大塚泰介・富 小由紀（滋賀大・教育・院）・中新井隆（滋賀県水産振興協会）：「分布の最適点を求める  
－一般化線形モデルの知られざる活用法－」  
妹尾裕介「縄文土器からみた文化交流 －粟津貝塚を題材に－」

- 第2回 5月19日 29人  
 芦谷美奈子「イバラモなど雌雄異株（雌雄が別々の株）で非生物媒介（花粉が風や水によって運ばれる）の植物の繁殖特性」  
 金尾滋史「滋賀県におけるドジョウ類の現状とその保全」  
 桑原雅之「小糸網漁と引き縄釣りで漁獲されたビワマスの生物学的特性の比較研究を行うにあたって」
- 第3回 6月16日 30人  
 亀田佳代子「水鳥のすむ森の生態学—カワウの生態系機能と生態系サービス・ディスプレイ—」  
 山川千代美「山門湿原ボーリングコアサンプルから得られた大型植物化石」  
 八尋克郎・杉山國雄（古琵琶湖発掘調査隊）・林 成多（ホシザキグリーン財団）「古琵琶湖層群甲賀層から産出したカタビロオサムシ属化石」
- 第4回 7月21日 28人  
 戸田 孝「博物館の「副次的機能論」へのアイディア」  
 渡部圭一「藪」の発見：近江村落における平地林の存在形態」  
 辻川智代（特別研究員）「湖南の筥の製作技術—「ウエ熊」乗田宗法氏による復元製作から—」
- 第5回 8月18日 41人  
 林 竜馬・佐々木尚子・高原 光（京都府大）・杉田真哉（タリン大）「花粉飛散シミュレーションモデルに基づく琵琶湖地域での地域的植生・遺跡周辺植生の定量的復元の検討」  
 里口保文「下部・中部更新統境界の模式地提案と層準付近の火山灰層」  
 中西康介（特別研究員）「水田で繁殖する水生生物群集の保全生態学的研究」
- 第6回 9月15日 27人  
 橋本道範「地域環境史モデルに向けて—総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然及び自然観の通時的変遷に関する研究」の取り組み」  
 澤邊久美子・池田 勝（特別研究員・あさがら子どもと自然舎）・上枝千秋（神戸大学発達科学部）・大野朋子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）「幼児の博物館体験と野外体験の効果—その①発言による評価について—」  
 松田征也「滋賀県に生息する移入淡水貝類」
- 第7回 10月20日 24人  
 片岡佳孝「アマゴ放流試験から溪流魚の増殖を考える」  
 芳賀裕樹「南湖の沈水植物はどうしてこんなに多いのか？」  
 北井 剛「愛知川における河床粒径調査と台風5号による出水後の状況について」
- 第8回 11月17日 23人  
 鈴木隆仁「マイクロアクアリウムにおける新たな生物飼育法」  
 山本綾美「上朝宮県営林委託事業における労働生産性の検討」  
 北村美香（特別研究員）・原田雅子（八州学園大学）「展示物の写真とことばの組み合わせによるプログラムにおける博物館展示評価への可能性を探る」
- 第9回 12月9日 26人  
 廣石伸互（特別研究員）「身近な抗体と便利な抗体」  
 岩木真穂（特別研究員）「琵琶湖の水位変動について—静振ならびに降水後の河川流入による水位応答—」
- 第10回 12月15日 27人  
 榊永一宏「インド洋における海浜性アシナガバエの調査報告」  
 大槻達郎「琵琶湖湖岸に生育する海浜植物の来歴の推定」
- 第11回 1月19日 30人  
 R. J. スミス「田んぼのカイミジンコについて：レビューと世界の種のチェックリスト」

田畑諒一「現在の琵琶湖における魚類の起源と歴史の推定」

天野一葉（特別研究員）「外来鳥類ソウシチョウの分布拡大と集団の遺伝的構造」

第12回 2月16日 35人

小林偉真「学校と博物館のそれぞれの特色を活かした利用法」

中井克樹「琵琶湖の侵略的外来水生植物対策の経緯・現状・課題」

第13回 3月16日 28人

楊平「水資源の共同利用をめぐるまちづくりの課題」

下松孝秀「琵琶湖逆水灌漑の成立過程と持続的可能性について」

奥野知之「学習内容に合わせた博物館の活用」

なお、2017年度は特別研究セミナーの開催がなかった。

#### (4) 琵琶湖博物館ブックレット

新琵琶湖博物館創造基本計画および行動計画に従い、研究成果をわかりやすく伝えていくため、新たに琵琶湖博物館ブックレットシリーズを刊行した。琵琶湖や近江の自然や文化を題材として、その面白さ、不思議さなどを語りながら、それらが全国的にあるいは世界的に見ても興味深いものであることを、県内外の人に発信することを目的としている。内容は、初めてそれを読む人にもわかりやすい書き方をするとともに、図や写真を豊富に使用して見て楽しめる本をめざしている。2016年度に引き続き、今年度は次の第4、5、6号を発行した。

第4号「琵琶湖の漁業 いま・むかし」 山根 猛（琵琶湖みらい研究所）

第5号「近江平成雲根志 鉦山・鉦物・奇石」 福井 龍幸（湖国もぐらの会）

第6号「タガメとゲンゴロウの仲間たち」 市川 憲平（元姫路市立水族館館長）

## 研究交流

### (1) 協力協定（MOU：Memorandum of Understanding）に基づく研究機関との連携

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究活動および展示の国際化を推進するため、研究・交流の国際的ネットワークを確立し、海外関係機関との連携を強化している。これまでの海外博物館との関係を維持するとともに、必要に応じて新たな関係を構築している。締結内容としては、次の5項目である。そのほか、研究および資料、展示についての協力内容が特定される場合は、別途協議して契約を結ぶものとしている。

- ①研究者等博物館職員の交流
- ②共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流
- ③専門技術や方法論に関する情報交換
- ④出版物、資料、標本等の交換（生きた生物を含む）
- ⑤両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

2017年度までに、フランスのパリ国立自然史博物館、ロシアのバイカル博物館、マケドニアのオフリド水生生物研究所、中国科学院水生生物研究所、湖南省博物館、韓国国立洛東江生物資源館、京都大学野生動物研究センターの7つの博物館・研究機関とMOUを締結している。また、新琵琶湖博物館創造基本計画の研究活動方針として、

- ・古代湖や固有種の成立や人の暮らしと生物の営みなど、「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究
- ・琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程など東アジア水系の特徴を明らかにする研究

を推進することとしている。  
これらを踏まえ、2017年度は次のような活動を展開した。

### 1) 中国科学院水生生物研究所

中国科学院水生生物研究所 水生生物博物館の張先鋒 (Zhang Xianfeng) 館長と研究員の訪問があり、研究紹介セミナーを開催した。

開催日：2017年4月19日(金)

開催時間：13:00~16:40

■第1講演：Xianfeng Zhang & Ding Wang

“Research and conservation of the Yangtze finless porpoise in China: challenges and opportunities”  
「中国における長江スナメリの研究と保全：挑戦と機会」

■第2講演：Zhang Xianfeng, Wang Xi, & Wang Huanshan

“The Introduction of the Museum of Hydrobiological Sciences (MHBS)”  
「水生生物博物館 (MHBS) の紹介」

### 2) 韓国国立洛東江生物資源館

韓国国立洛東江生物資源館は、韓国の淡水生物を研究する専門機関で、淡水生物の発掘、培養、遺伝的特性、生理活性、産業化などの研究を行っている。また、これらの内容に関連した様々な動物、植物、微生物の展示や教育プログラムの開発を、韓国国民を対象に行っている機関でもある。

2016年度にそれぞれの機関で1回ずつ合同セミナーを開催し、博物学や生物学分野における淡水生物の研究と展示・教育プログラムの情報共有、共同事業等の開催について相互協力できるかどうかを模索してきた。それを踏まえ、2017年度には、4月に洛東江生物資源館において協力協定 (MOU) を締結し、7月に琵琶湖博物館において今後の共同研究および共同事業についての検討会議を行った。

検討会議の中で相互に合意を得た年1回の合同セミナー開催は、2018年度については独立行政法人日本学術振興会の平成30年度二国間交流事業共同研究・セミナーに申請し、採用が決まった。

#### ■韓国国立洛東江生物資源館との協力協定 (MOU) の締結

調印式は、2017年4月21日に韓国国立洛東江生物資源館 (韓国慶尚北道尚州市) にて行われた。



韓国国立洛東江生物資源館での調印式  
右：安 永熙 (左上が「臣」) (アン・ヨンヒ)  
韓国国立洛東江生物資源館 館長  
左：篠原 徹 琵琶湖博物館 館長

#### ■第3回合同セミナーの開催

開催日：2017年4月21日

場所：韓国国立洛東江生物資源館

内容：琵琶湖博物館

「琵琶湖でのビワマスとサツキマスの交雑状態」(桑原雅之)

「カワウの生態系機能と生態系サービス・ディスプレイサービス」(亀田佳代子)

洛東江生物資源館

“Freshwater Mycological Research in Korea” 「韓国の淡水菌類研究」(Namil Chang)

「淡水生物資源を活用した機能性素材と化粧品の開発」(韓 雄)

#### ■今後の共同研究および共同事業についての検討会議

開催日：2017年7月21日

場所：琵琶湖博物館 会議室

内容と結果：

- ・双方から2件ずつ共同研究・事業の提案があり、そのうちの2件について具体的に進めていくことが決まった。具体的には以下の通り。

「韓日の淡水エビ類の分類系統と進化」(洛東江生物資源館)

琵琶湖博物館は、淡水エビ類の研究用サンプルを提供する。

「2019年度企画展示(仮称)ビワマスと仲間たち」(琵琶湖博物館)

洛東江生物資源館は、展示資料やデータを提供する。

- ・今後の合同セミナーは、一年に1回を基本とし、隔年で両機関交互に開催する。

#### ■2018年度合同セミナーに向けた検討と準備

独立行政法人日本学術振興会の平成30年度二国間交流事業共同研究・セミナーに申請し、「日本と韓国における淡水生物の多様性と変遷」というタイトルで採用が決まった。セミナーは、2018年12月に琵琶湖博物館において行う予定となっている。

#### 3) オフリド水生生物研究所

琵琶湖博物館とオフリド水生生物研究所(マケドニア共和国)は、2017年1月17日にオフリド水生生物研究所において、相互協力協定の締結を行った。その協力協定の締結を受けて、今後の共同研究および共同事業の策定に向けての協議を進めるために、オフリド水生生物研究所の所長および研究員を日本へ招聘し相互交流を行なった。

来館期間：2018年1月25日(木)～30日(火) 6日間

招 聘 者：エリザベータ・ベリジャノスカ サラフィロスカ博士 所長

ジョビカ レシヨスキー 研究員

#### ■琵琶湖博物館の視察：常設展示と研究施設

26日、常設展示の視察見学ではひとつひとつ丁寧かつ熟覧いただいたため、予定していた2時間では時間が足りない状態となった。そのため、水族展示は27日に追加で見学を実施した。

#### ■オフリド水生生物研究所の研究紹介セミナー

27日、セミナー室にて、サラフィロスカ所長とレシヨスキー研究員から、オフリド水生生物研究所の研究内容や研究部門の説明を受けた。また、オフリド湖や研究風景のビデオを鑑賞した。

タイトルと発表者

講演1 “80 Years of Successful and Dedicated Research on Lake Ohrid”

「オフリド湖研究の成功と貢献の80年」

Elizabeta Veljanoska Sarafiloska (オフリド水生生物研究所 所長)

講演2 “Hydrobiological Insutitute Ohrid :Departments” 「オフリド水生生物研究所：部門紹介」

Jovica Leshoski (オフリド水生生物研究所 研究員)

### ■共同研究・事業の推進検討会議

29日、セミナー室にて、サラフィロスカ所長とレシヨスキー研究員および篠原館長、津田副館長、高橋副館長の出席のもと、MOUに基づき今後の共同研究や事業を推進するため、方向性や計画等の検討会議を行った。

内容と結果

- ・今後の方針として、研究者同士の交流や共同研究の実現を目指し、まずは機関同士の研究情報や資料の定期的交流を行う。具体的には、1) お互いのウェブサイトでリンクを行うこと 2) 研究員の紹介を含め、両機関の研究情報や出版物等を交換することが決まった。

### ■研究に関連するエクスカーショ

29日、湖岸道路で琵琶湖を望みながら、湖北地域にあるビワマス養殖の研究を行っている醒ヶ井養鱒場と水産試験場を視察し、各機関の研究者と情報交換を行った。また、30日には琵琶湖環境科学研究センターを訪問し、水質や湖環境の改善に関する事業について、情報交換と施設見学を行った。

### ■ILEC科学委員会との情報交換と30周年記念シンポジウム

26日、ILEC科学委員会の情報交換会に参加し、活発な意見交換をすることができた。また、27日のシンポジウムにも参加した。



## (2) 研究機関との連絡活動

### 1) 県内試験研究機関

県立の8つの試験研究機関が琵琶湖や滋賀県の環境に関する相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信をはかることを目的として、琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議（事務局：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）が設置運営されている。2018年1月25日に行われた本会議において、目的を環境に限らず滋賀県立の試験研究機関相互間の連絡調整を行い、その試験研究の円滑な推進や広く情報の発信を図ることとなった。

この活動の中で、各機関が行っている研究やその成果について、広く一般に知ってもらうために発表会を毎年開催している。今年度は、当館と工業技術総合センター、畜産技術振興センターが運営機関として、琵琶湖博物館の集う・使う・創る新空間を会場として、各研究機関から1件の発表と機関の紹介を行うポスター掲示および発表会を11月に実施した。掲示したポスターの前で発表者が説明を行う発表コアタイムでは、約170名の方が参加された。

### 2) 第20回自然系調査研究機関連絡会議

自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）は、国や地方自治体の自然系（自然環境保全、野生動植物保全の

分野等)の調査研究を行っている機関が、相互の情報交換等を目的としている連絡会議である(事務局:環境省自然環境局生物多様性センター)。年1回、加盟機関の活動や研究例を紹介する連絡会議を実施しており、本年度は当館と滋賀県琵琶湖環境科学研究センターが会場担当機関として、10月26日および27日に、琵琶湖博物館を会場として第20回の会議(NORNAC20)が実施された。26日は、藤岡康弘氏による琵琶湖の生物多様性と生物利用の多様性と題する基調講演のほか、口頭発表5件、19件のポスター発表が行われ、27日は連絡会議およびエクスカージョンとして琵琶湖博物館の館内案内を行った。全国から32機関の方の参加があった。

### (3) 海外活動

#### 1) 研究に関する国際用務

篠原 徹

- ・2017年4月20日～22日, 韓国国立洛東江生物資源館, 協力協定締結

桑原雅之

- ・2017年4月20日～22日, 韓国国立洛東江生物資源館, 協力協定締結および日韓合同セミナー発表

亀田佳代子

- ・2017年4月20日～22日, 韓国国立洛東江生物資源館, 協力協定締結および日韓合同セミナー発表

橋本道範

- ・2017年6月20日～26日, アメリカ オハイオ州立大学, The conference “Water Culture, and Society in Global Historical Perspective” に参加

スミス ロビン ジェームス

- ・2017年8月26日～9月2日, アメリカ カリフォルニア大学, 18<sup>th</sup> International Symposium on Ostracode に参加

楊平

- ・2018年2月27日～3月8日, 中国, 科学研究費助成事業「稲作と中国文明—総合稲作文明学の新構築—」に関わる共同研究調査
- ・2018年2月8日～2月20日, 中国, 科学研究費助成事業「水質環境の変化と影響」に関わる現地調査
- ・2017年10月17日～24日, 中国, 地球環境学研究所共同研究に基づく農業政策」に関わる現地調査
- ・2017年9月5日～9日, 中国, 科学研究費助成事業「植物資源利用に関する調査研究」に関わる現地調査

鈴木隆仁

- ・2017年4月20日～22日, 韓国国立洛東江生物資源館, 協力協定締結および日韓合同セミナー参加

田畑諒一

- ・2017年9月12日～15日, 韓国国立洛東江生物資源館, 国際シンポジウムへの出席と研究打合せ

### 研究部活動

#### (1) 研修

琵琶湖博物館は、湖と人間との関係を過去から現在まで研究調査し、資料を収集・整理し、その成果をもとに県民・地域の人々とともに考え、今後の望ましいあり方を探求することを使命としている。博物館は県民や社会の期待を担い成長発展していく博物館であり、信頼される研究調査を行わなければならない。博物館は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」改訂版(平成25年1月25日)および「博物館関係者の行動規範」(日本博物館協会平成23年3月)に準拠した「滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範」(2016年7月)を定め、公正な博物館活動を推進している。

なお、研究活動に関する規定の一部を改定した。

- 滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程（平成28年7月1日）
- 滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範（平成28年7月1日）
- 滋賀県立琵琶湖博物館調査研究活動における不正行為防止計画（平成28年7月1日）
- 滋賀県立琵琶湖博物館の研究活動における不正行為に係る調査等に関する要綱（平成28年7月1日，平成29年3月27日改正）
- 滋賀県立琵琶湖博物館公的研究費取扱要領（平成28年7月1日）

また、研究活動の不正行為を防止する一環として、次のような研修を実施した。

- 1) **第1回研究部研修「研究倫理に関するセミナー」** 参加者：30名  
 日時：2017年6月30日（金）13：00～14：00  
 場所：琵琶湖博物館セミナー室  
 内容：「信頼される研究活動：研究不正・不適切な研究行為を防ぐ」  
 講師：中村征樹氏（大阪大学全学教育推進機構）

- 2) **平成29年度著作権に関するセミナー** 参加者：7名  
 日時：2017年11月20日（月）  
 場所：滋賀県庁  
 講師：文化庁著作権課

- 3) **第2回研究部研修「著作権セミナー」** 参加者：23名  
 日時：2017年12月15日（金）  
 場所：琵琶湖博物館 会議室  
 内容：著作物の定義とその権利内容

#### 4) 日本学術振興会 研究倫理 eラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)の受講

この研修では、人文・社会・自然科学の研究を進め、科学者コミュニティや社会に対して成果を発信していくために、研究者として心得ておかなければならない倫理や行動規範、成果の発表方法、研究費の適切使用について、学芸職員および特別研究員を対象にWeb上でのeラーニングを実施した。終了したものには修了証明書が発行された。

実施期間：2018年3月2日～3月16日まで

受講時間：約1時間半

#### (2) 薬品類の管理

薬品の管理については、滋賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程を定め、2017年4月1日から施行している。この管理規程に従って、毒物、劇物の保管や使用状況について確認を行うことを目的に、2017年9月16日（土）から30日（土）まで、薬品の棚卸し作業を行った。棚卸しの結果を化学薬品安全管理報告書にまとめ、化学薬品管理委員会の委員長に報告した。2018年2月末には、毒物・劇物について保管場所の帳簿（薬品使用簿）が整備されているか確認した。また、3月に不要となった薬品や廃液の廃棄を行った。

#### (3) 研究備品の管理

研究備品の適切な管理のため、博物館全体の研究備品を計画的に確認することとしているが、今年度は、100万円以上の研究備品について所在、管理者、使用状況などの確認を行った。

### 3 新たな参加と発見ができる博物館

#### 展示活動

##### (1) 常設展示の主な更新

##### 1) A 展示室

- ・地域の人々による展示コーナー（コレクションギャラリー内）

『琵琶湖の生い立ち』展示室にあり、「琵琶湖の生い立ち」や「地盤の成り立ち」に関する事柄で、琵琶湖地域のおもしろさや、展示する人の想いや興味が伝わるような展示を目指している。展示関係者による展示室での解説や交流を不定期に開催している。

##### 1. 滋賀と京都にイルカがいた時代

展示した人：馬越仁志さん

期間：2017年4月1日～9月30日

##### 2. 思い出の鉱物採取

展示した人：谷脇俊之さん

期間：2017年10月1日～2018年1月31日

##### 3. 『近江の平成雲根志—鉱山・鉱物・奇石—』の石達

展示した人：福井龍幸さん

期間：2018年2月1日～9月30日

- ・地域の人々による展示コーナーの展示交流

展示コーナー前での標本採集や調査の話や、標本の解説、標本を触る体験など、展示している方やその関係者による展示交流を実施した。

2017年4月1日：飯村 強

2017年4月2日：馬越仁志、馬越曜子、飯村 強

2017年4月8日：飯村 強

2017年4月9日：飯村 強

2017年4月16日：馬越仁志、馬越曜子、飯村 強

2017年5月14日：飯村 強

2017年7月8日：馬越仁志、馬越曜子、飯村 強

2017年7月30日：田中光徳、田中節子

2017年8月13日：田中光徳、田中節子

2017年9月30日：馬越仁志、馬越曜子、飯村 強

2017年11月18日：飯村 強

- ・最近寄贈された標本

コレクションギャラリーのコーナーの一角にある展示で、寄贈いただいた標本を紹介するコーナーとして行っている。

2017年8月17日：県内産鉱物標本 41点

2017年9月30日：県内産鉱物標本 45点

##### 2) B 展示室

- ・収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」

博物館の収蔵庫で大切に保管している琵琶湖地域関連の古い文書や絵図などを、B 展示室奥の壁面展示ケースで順番に紹介している。2017年度の展示は次の通り。

期間	展示資料名
4月25日(火)～ 6月4日(日)	《甲賀忍者・売薬》『近江郡村町名』、『淡海録 巻七』、『淡海志 巻十』、『近江商人事績写真帖』
6月6日(火)～ 7月9日(日)	《琵琶湖疏水》『琵琶湖疏水要誌 巻一』、『京都大津間疏水線路之図並京都大津近キ辺り名所』、『明治期手彩写真帖』、『滋賀県写真帖』
7月11日(火)～ 9月3日(日)	《古文書を読んでみよう！古文書調査の現場から－木村忠兵衛家文書の紹介－》 「金子借用願」、「お母ちゃんの気持ち－千之介母書状－」、「私、怒っています！ －居初漱翁書状－」
9月12日(火)～ 11月12日(日)	《江戸の本》『淡海録 巻一・十』、『西国三十三所名所図会 巻一・十』、 『近江名所図会 巻四』、『淡海志 巻四』、『近江縣物語 巻四』
11月14日(火)～ 2018年1月21日(日)	《唐橋》『宇治・瀬田川・湖南図巻』、『近江八景湖水名所絵図』、 『東海道名所図会 巻二』、『淡海録 巻三』、「石山からの眺望」（「明治期手 彩色写真帖」より）、「勢田橋掛替櫓内銀ニ付書置」（居初家文書より）、江州栗 太郡瀬田川通鹿飛より城州宇治川通伏見迄川通亀絵図
2018年1月27日(土) ～3月18日(日)	《近江の信仰》『伏龍骨図並序』、『和漢三才図会 巻七十一』、「角大師・鬼大 師・豆大師・元三大師護符」、『東海道名所図会 巻一』

### 3) C 展示室

毎年更新する「これからの琵琶湖コーナー」にある研究スタジアムは、2017年7月10日に第2期への更新された。各ブースの展示担当は、篠原館長、松田、山川、戸田、八尋である。

11月18日～ 川森コーナー 森を守る人びとのパネル展示を更新 山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会

### 4) 水族展示室

季節ごとに常設展示の展示替えを行った。また、トンネル水槽や他の水槽にも不具合が発生し、一時展示を閉鎖し、修理を行った。

- 4月10日～ 下流域の魚たち水槽 ウグイへ展示替え（背景変更、ヤナ設置）
- 4月1日～ よみがえれ！日本の淡水魚 ツチフキの展示開始  
マイクロアクアリウム アカヒレタビラの仔魚展示開始
- 4月15日～ マイクロアクアリウム カゼトゲタナゴの仔魚
- 5月21日～ マイクロアクアリウム ニッポンバラタナゴの仔魚展示開始
- 7月6日頃 マイクロアクアリウム 田んぼのエビ展示終了
- 8月3日～ マイクロアクアリウム イタチムシの生体展示開始
- 8月8日～ 古代湖の世界 バイカルチョウザメの展示開始
- 9月8日～ カットリヤナ水槽 アユに展示替え（背景変更）
- 10月17日～ マイクロアクアリウム エビノコバン+スジエビ展示開始
- 10月17日～ マイクロアクアリウム エビノコバンの展示開始
- 8月10日～ マイクロアクアリウム マミズクラゲの展示開始
- 12月9日～ マイクロアクアリウム アカリコケムシの展示開始
- 12月16・17・23・24日 トンネル水槽でサンタ潜水
- 1月13日～ トンネル水槽修繕工事開始
- 2月16日～ マイクロアクアリウム マミズクラゲの展示開始
- 3月10日～ トンネル水槽展示再開

### 5) ディスカバリールーム

季節に合わせた展示物の入れ替えを下記の予定で行った。リニューアル工事のために、12月1日から閉室

した。リニューアル後の展示される展示物のうち、老朽化による展示物の修繕および更新を行った。また、リニューアルに向けて、ディスカバリーボックスを新規作成し、人気のボックスは新しく修繕をした。閉室に向けてクロージングイベントで行った「ディスカバ思い出アルバムを作ろう！」で完成した思い出マップは閉室後もアトリウムに展示した。

【季節展示】

展示場所	展示内容	展示期間
音のへや	アフリカの楽器	4月1日～11月30日
おばあちゃんの台所	春 version	4月1日～5月31日
	こどもの日	4月16日～5月5日
	夏 version①	6月1日～7月15日
	七夕	6月20日～7月7日
	夏 version②	7月16日～9月1日
	土用	7月8日～8月7日
	秋 version	9月2日～11月3日
	お月見	9月26日～10月4日
ブックコーナー	冬 version	11月4日～11月30日
	春 version	4月1日～5月31日
	夏 version	6月1日～9月8日
石の下／水の中	秋 version	9月9日～11月30日
	春 version	4月1日～5月31日
	初夏 version	6月1日～7月15日
	夏 version	7月16日～8月31日
	初秋 version	9月1日～10月8日
	秋 version①	10月9日～10月12日
人形劇	秋 version②	10月13日～11月30日
	春 version	4月1日～5月31日
	夏 version①	6月1日～9月18日
	夏 version②	9月19日～10月8日
	秋 version	10月9日～10月20日
ディスカバの思い出アルバム	冬 version	10月21日～11月30日
ディスカバリーカウンター (生きものの展示)	思い出マップ	12月1日～2018年3月31日
	ナマズ	4月1日～11月30日
	アカハライモリ	4月1日～11月30日
	コカブトムシ	5月23日～6月10日
	ヒラタクワガタ	5月23日～11月30日
	ミヤマクワガタ (オス)	7月1日～10月10日
	ミヤマクワガタ (メス)	7月1日～7月12日
	コクワガタ (オス) (メス)	7月1日～11月30日
	カブトムシ	7月5日～7月8日, 7月12日～10月12日
	カイコ	7月11日～8月31日
ナナフシ	10月29日～10月30日	

### 【常設展示】

- ・「人形げきじょう」：新規（オオサンショウウオ3、ビワコオオナマズ3、ニゴロブナ2、キツネ2、タヌキ2、タヌキ子2、）人形14体を製作。壁紙を修繕
- ・「のぞいてみよう 魚の世界」：踏み台の張り替え
- ・「おばあちゃんの台所」：井戸ポンプ、水屋を修繕
- ・「影絵ボックス」：壁紙を修繕
- ・「ディスカバリーコーナー」：ディスカバリーボックス：新規「ならしてみよう」ボックス1個を製作。「絵あわせのプランクトン」「積み木パズル」ボックス2個を修繕。椅子を修繕。



ディスカバの思い出アルバムを作ろう！



オオサンショウウオのパペット



新規ディスカバリーボックス

### 【その他】

- ・新任研修

日時：2017年4月13日

対象：新任職員、新規展示交流員

内容：ディスカバリールームの主旨と展示室における展示交流員の業務内容を中心に研修を行った

- ・モーニングレクチャー

日時：2017年5月23日～26日

対象：展示交流員

内容：ディスカバリールームにおける展示交流の在り方について振り返りを含めて研修を行った

- ・展示評価 ディスカバリールーム新展示

期間：2017年10月21日～29日

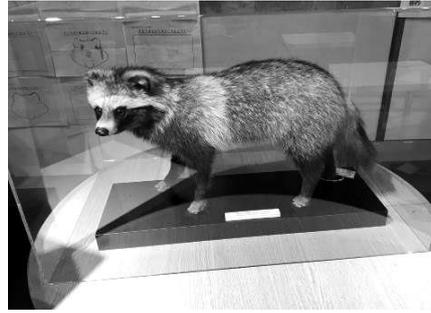
内容：匂い展示、タヌキ剥製のスケッチ、顕微鏡、3Dプリンター頭骨

場所：水族企画展示室

報告：各展示コーナーにおいて、机とイスの高さ、展示物の高さを検討することを目的に行った。今回の検証では、小学生1～2年生を中心とし机60cm、イス40cmが最適であるという結果となり、リニューアル後のカウンターの高さなどに反映した。また展示物の高さについてもそれぞれ最適な高さを反映した。展示内容については、匂いの展示は親子でにおいを嗅ぐ様子が見られ、子どもと大人ではいい匂いと感じるものが異なるようであった。また顕微鏡の展示も今までより少し低くすることで、子どもが自ら覗くことができていた。タヌキ剥製のスケッチについては、計175枚のスケッチシートが回収された。どのスケッチでも詳細な部分や模様に着目した観察がされていた。リニューアルではこれらの結果をふまえ、さらに昨年度実施した来館者アンケートの中であがった「小さいころから本物を体験させたい」という声にも対応する展示を目指していく。



展示評価入口



タヌキ剥製



展示の様子

## 6) 屋外展示

- ・はしかけグループ「森人」による屋外展示の整備、活用

はしかけグループ「森人」の活動として、屋外展示の有効活用を目指した活動を年間通して実施した。その中で、びわ博フェスでの屋外展示の解説ガイドツアーを実施し、あわせて屋外展示の森の整備のための竹やクズなどの除去作業、屋外展示に生育する動物相についての自動撮影カメラでの調査を実施した。また、樹冠トレイルに設置する解説パネルの製作を進めた。

### (2) 企画展示・水族企画展示

#### 1) 第25回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」

**Dispersal: The fantastic journeys of aquatic micro-fauna**

##### ① 主旨

淡水に生息する微生物はどのようにして移動するのでしょうか？ミジンコにとって、淡水環境の周りにある乾燥した土地は未知の世界であり、厄介な障害でもあるそのような環境へ出て行くと死んでしまいます。しかし、ミジンコや他の小さな水生生物は、乾燥した土地によって隔たれた水生環境でコロニーを作ることができます。どうやって彼らは元々いた場所から他の池へと移動するのでしょうか？どうやって大陸を渡り、海さえも渡ることができるのでしょうか？この企画展示では、淡水の水生微生物が変わった、しかも素晴らしい生息場所の分散方法について紹介します。

展示では、小さな生き物を顕微鏡での観察や、拡大した静止画や動画などの映像をつかった解説のほか、生息場所の拡大に必要なアイテムを展示します。生活の場を広げていくための彼らにとっての旅について、ボードゲームをつかって楽しみながら学ぶことができます。また、小さな生き物たちが持つ隠された能力を、アメリカンコミック風のスーパーヒーローに見立てて紹介します。

##### ② 概要

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

期 間：2017年7月15日（土）～11月19日（日） \*実質開催日数114日

場 所：琵琶湖博物館 企画展示室

観覧料金：小中学生100円（80円）、高・大学生160円（120円）、大人200円（160円）

（）内は20名以上の団体、団体会員、キャンパスメンバーズ、水槽サポーター料金

観覧者数：49,128人

展示製作：ロビン J. スミス（主担当）、鈴木隆仁（副担当）、里口保文（副担当）、八尋克郎（副担当）、片岡佳孝（副担当）、出口武洋（美術・デザイン）

展示施行：株式会社本庄

展示協力：井上欣勇、岡村喜明（滋賀県足跡化石研究会）、滋賀県水産試験場、滋賀県土木交通部監理課、関 慎太郎、地村佳純（碧南水族館）、中野隆文（日本学術振興会特別研究員）、

Francesc Mesquita-Joanes (バレンシア大学)、前田 健 (沖縄科学技術大学院大学)、  
天野一葉 (琵琶湖博物館特別研究員)、楠岡 泰 (琵琶湖博物館特別研究員)、中西康介 (琵琶  
湖博物館特別研究員)、川田裕元 (琵琶湖博物館はしかけ)、琵琶湖の小さな生き物を観察す  
る会 (琵琶湖博物館はしかけ)、田んぼの生きもの調査グループ (琵琶湖博物館はしかけ)、  
金尾滋史 (以下、琵琶湖博物館)、亀田佳代子、桑原雅之、中村 (澤邊) 久美子、田畑諒一、  
榊永一宏、松田征也、山川千代美

解説書執筆・翻訳：ロビン J. スミス、鈴木隆仁、里口保文、八尋克郎、片岡佳孝、出口武洋

### ③ 展示内容

#### 【概要】

湖などの淡水にいるミジンコなどの小さな生き物は、自分たちの居場所を広げていくために、困難な旅に出かけます。私達にとってはほんの1歩ほどの距離でも、水のない所に行くには大変な冒険です。また、水でも海を渡るのは大変な困難を伴います。この展示では、彼らの生息場所を広げるために行っている素晴らしい旅について、標本やパネル、動画などの映像で紹介します。ボードゲームをつかったコーナーでは、旅を楽しみながら学ぶことができます。また、小さな生き物たちが持つ隠された能力を、アメリカンコミック風のスーパーヒーローに見立てて紹介します。

#### 【各コーナー】

##### 1. はじめに

淡水の微小生物にとって、自分の生息域を拡大することは簡単なことではありません。なぜそれが彼らにとって簡単ではないのか？どんな問題があるのか？を紹介します。また、トピックとして、淡水の微小生物はどれくらい前からいるのか？を実物の化石で紹介します。

##### 2. 生物地理

小さな生き物は、その生息場所を拡散させてきた種類が多く見つかっています。そのような生き物について、滋賀県にいる3種類にスポットあてて紹介するとともに、その場所にだけいる固有種の不思議についても紹介します。

##### 3. 旅の準備

生息域を拡散させるために、淡水から飛び出していけるように、どのような方法で水の中にいなくても生きていられる準備をしているのでしょうか？その秘密を探ります。

##### 4. 自ら旅をする

拡散の方法として、自ら動いていくにはどんな方法があるのでしょうか？がんばって自力で広げる方法を紹介します。

##### 5. 連れて行かれる旅

自力ではなく、風に運ばれたり、カエルなどの他の生き物にくっついて運ばれるなど、どちらかといえば運ばれてしまったという方法について紹介します。また、このコーナーでは、このコーナーに関するトピックとして、魚の胃の中で発見された新種の話など6つのトピックを紹介します。

##### 6. 到着の時

なんとかして別の淡水域に着いた後、その場所で生き残るためにどうするのでしょうか？生息場所を移した小さな生き物が次にとった行動の秘密に迫ります。

##### 7. 将来の旅への不安

別の場所へ旅をするために、その生き物が移動可能な準備をしたり、様々な方法で旅をしていることがわかりました。このような方法は未来にも可能なのでしょうか？水域の減少や、他者にくっついて移動するものにとっては、カエルなど他者の生息域の減少などにも、大きな影響を受けます。また、世界的な気候の変化も他人事ではありません。それらはどんな影響があるのでしょうか？

## 8. 小さなスーパーヒーロー

ここでは、10種類の微小生物たちの面白い生態に注目して、彼らを小さなスーパーヒーローにみたて、それぞれがどのようなスーパーな能力を持っているのか？紹介するとともに、いくつかの基準で能力を比べてみます。

### 〔淡水微小生物の旅ゲーム〕

スゴロクを通じて、微小生物の分散の様子を遊びながら学びます。スゴロク板はリバーシブルで英語日本語両対応です。

## ④ 印刷物

展示解説書                      A4 サイズ 72 ページ 総カラーページ 2,000 部 7月15日発行  
販売価格 230 円  
企画展示ポスター              A1 サイズ 表カラー 1,000 枚 6月20日発行  
企画展示チラシ A4 サイズ 表カラー・裏単色 50,000 枚 6月18日発行

## ⑤ 博物館・地域との連携

展示においては、微小生物と言う肉眼では詳細に見ることのできない生物を題材にするため、樹脂による拡大模型の他、滋賀県土木交通部監理課が所有している 3D プリンタを利用し、カブトミジンコや、その耐久卵、イタチムシ、カイミジンコの卵と言ったものを 10cm ほどのサイズに拡大したものを作成、展示した。また、多くの場合、分散において、大型の生物を利用しているため、碧南水族館や水辺の生物の写真や標本を所持している方々から、写真や標本を借用させていただいた。

## ⑥ 関連事業

### ○オープニングセレモニー

7月15日（土）。展示に協力いただいた方を招いて、館長挨拶、来賓の挨拶、担当学芸員による紹介、テープカットを行った。その後、担当学芸職員による展示の案内を実施。

### ○関連イベント

8月13日（日）、19日（土）、「マイナス 80 度から生還した微小生物」。10時30分～12時に博物館実習室にて実施。

### ○コラム

7月15日、中日新聞、湖岸より「小さな淡水生物の素敵な旅」ロビン J. スミス

9月23日、中日新聞、湖岸より「小さな生き物を大きく見せる」鈴木隆仁

### ○来場者 3 万人達成式典

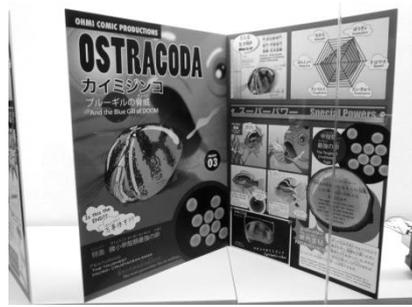
9月15日に来場された方が 3 万人目となり、館長の挨拶、展示解説書およびミュージアムショップ「おいでや」より提供いただいた記念品と展示でも使用しているスゴロクのミニバージョン、およびそのコマの贈呈などの式典を行った。

## ⑦ 取材対応

2017 年 10 月 27 日、読売新聞滋賀県版、企画展示に関して（2017 年 10 月 15 日取材対応）



企画展示室入口



カイミジンコのパネル



カイミジンコ模型



イタチムシ模型

## 2) 第29回水族企画展示「大どじょう展 ～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」

期 間：2017年7月15日（土）～9月3日（日）

主 催：琵琶湖博物館

場 所：琵琶湖博物館 水族企画展示室

展示担当：金尾滋史（主担当）、片岡佳孝（副担当）

内 容：日本産ドジョウ27種の生体展示、33種の写真パネル展示。併せてドジョウと人の関係（文化）についても紹介した。



ドジョウ展入口正面



ドジョウ紹介パネル

## (3) ギャラリー展示・トピック展示等

### 1) ギャラリー展示

#### ①「湖と生きる－琵琶湖から世界へ 未来へ！－」

期間：2017年3月4日（土）～4月9日（日）

主催：公益財団法人国際湖沼環境委員会 共催：琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：2016年に30周年を迎えた国際湖沼環境委員会（ILEC）の活動について紹介。滋賀県出身の画家・美術家のヒロ・ヤマガタ氏から寄贈いただいた「琵琶湖（1996）」の原画も展示した。

② 琵琶湖フォトコンテスト作品展「～伊藤園 お茶で琵琶湖を美しく。～」

期間：2017年4月27日（木）～5月21日（日）

主催：伊藤園 / 滋賀県琵琶湖政策課 / 琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：伊藤園が行っているさまざまな琵琶湖環境保全に関わる活動の一つである「お茶で琵琶湖を美しく。」キャンペーンで実施されたフォトコンテストの応募作品の中から、琵琶湖や身近な自然に関係した入選作品を展示。伊藤園が行っているCSR活動の紹介をするパネル等もあわせて展示した。

③ 「日本遺産滋賀・びわ湖」パネル展

期間：2017年5月28日（日）～6月11日（日）

共催：滋賀県立琵琶湖博物館、(公財)滋賀県ビジターズビューロー、(公財)滋賀県文化財保護協会

内容：日本遺産「水の文化」ツーリズム推進協議会の事業の一環として、滋賀県文化財保護協会が作成した「滋賀の日本遺産」パネル60枚を展示した。

④ 「ヨシ灯り展 in 琵琶湖博物館」

期間：2017年12月1日（金）～24日（日）

共催：琵琶湖博物館・西の湖ヨシ灯り展実行委員会

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：2017年度の受賞作品を中心にさまざまな作品を展示。ヨシと光が織りなす空間を見ていただいた。

## 2) トピック展示

① 布藤美之氏寄贈コレクション

期間：2017年7月29日（土）～9月3日（日）

主催：琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：チョウ類標本11種356点（ドイツ型標本箱6箱）

② トンボ79大作戦！～湖東地域企業敷地のトンボモニタリング調査と保全活動～

期間：2017年11月9日（木）～30日（木）

主催：生物多様性湖東地域ネットワーク

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：トンボ70大作戦（各企業の敷地内におけるトンボ調査結果やトンボの保全活動）についてパネル展示する

③ 滋賀県のトンボ写真展

期間：2017年11月11日（土）～12日（日）

主催：澤田弘行（トンボ研究会）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：日本トンボ学会にあわせて滋賀県のトンボの写真約60枚を展示する

④ 平成29年度滋賀県地球温暖化防止「COOL CHOICE」に関する啓発ポスター・取組アイデア入賞作品展

期間：2018年1月27日（土）～2月14日（水）

主催：滋賀県琵琶湖環境部温暖化対策課

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：国が進めている地球温暖化防止のための国民運動「COOL CHOICE（クールチョイス＝賢い選択）の啓発ポスターおよび省エネ・節電アイデアの入選作品が紹介された。ポスター12点、アイデア15点。

⑤ 琵琶湖のせっけん運動 40周年記念集会 展

期間：2018年3月4日（日）～3月31日（土）

主催：ぐるぐる琵琶湖プロジェクト

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：2017年7月29日にピアザ淡海で開催された「琵琶湖のせっけん運動 40周年記念集会」の様子がパネル展示により報告された。

⑥ 明治150年記念関連事業 『近江水産図譜』の世界—明治期の琵琶湖漁撈—

期間：2018年3月20日（火）～5月27日（日）

主催：琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 B展示室

内容：琵琶湖博物館が所蔵・受託している歴史資料等の中から研究成果と関わる資料を選んで壁面展示ケースで紹介している。

- ・『近江水産図譜』（滋賀県水産試験場所蔵）
- ・『滋賀県管下近江国六郡物産図説— 滋賀郡・栗太郡』
- ・『近江水産図譜』に描かれた幻の漁具、ネギボウズ型タツベなど

⑦ JA 滋賀中央会第42回「ごはん・お米とわたし」作文図画コンクールの作品展（図画部門）

期間：2018年3月20日（火）～4月8日（日）

主催：滋賀県農業協同組合中央会

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：滋賀県内の小・中学校から応募された図画部門の作品、1,041点の中から選ばれた入賞作品47点を紹介した。

⑧ 水深をはかる

期間：2018年3月20日（火）～7月1日（日）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：滋賀県立大生活デザイン学科の西林さんの卒業制作の作品で、南湖の平均水深4.0mを可視化する計測機器「南湖深長計」を展示。「南湖深長計」を用いて身長を測った時、南湖の平均水深を体験することができる。

### 3) 水族展示

#### 水族トピック展示

① 世界初 バイカルヨコエビの赤ちゃん誕生!!

期間：2018年3月20日（火）～5月6日（日）

主催：琵琶湖博物館

場所：古代湖の世界コーナー（バイカルヨコエビを展示している水槽の横）

内容：バイカル博物館より昨年3月に送られてきたバイカル湖の固有種バイカルヨコエビが当館で繁殖したことが5月に確認された。その後飼育を続け、体長が1cmほどに成長したので、常設展示している成

体とともに展示した。展示個体数は20個体程度。

#### (4) 集う・使う・創る 新空間

新空間は、地域の人びとが自分たちの行っている活動や考えなどについて、この展示室で自ら情報を発信し、来館された方々と意見を交換し、交流を深めていただくための空間として運営されてきた。しかし、琵琶湖博物館のリニューアルにともない新空間は閉鎖されることになり、本年度が最後の運営年となった。また、リニューアル工事のために4月から11月までの期間で運営された。その間に7件の利用があり、主催者は展示説明やイベントを通じて来館者と交流を行った。

期間	タイトル	主催者
4月2日～4月30日	TANAKAMI こども環境クラブ 2016 年度活動報告	TANAKAMI こども環境クラブ
6月3日～6月25日	「だれもやってないことをやってみませんか」	京都府立海洋高等学校
7月4日～7月30日	河川レンジャー写真展「懐かしの瀬田川写真展」 ～河川と暮らした地域の記憶～	琵琶湖河川レンジャー／水のめぐみウォーターステーション琵琶
8月2日～8月30日	写真を後世に遺す 村松 勝：写真絵画展	武村まさみ
9月2日～9月30日	水辺の生きものワールド ～ECOSYSTEM OF IWAKURA RIVER～	同志社小学校と岩倉南小学校
10月3日～10月29日	生きもの細密画展 ～滋賀の植物と昆虫を描きとめる～	杉野由佳
11月1日～11月19日	平成 29 年度 滋賀県試験研究機関連絡会議発表会	琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議

### 展示交流

#### (1) フロアートーク

開館以来、展示室内での交流活動の1つとして、学芸職員による展示解説「フロアートーク」を行っている。学芸職員が日替わりで担当する「質問コーナー」の当日担当学芸職員がフロアートークを行う。学芸職員は、基本的には月1回の学芸会議が行われる第3金曜日を除く開館日に、1日1回、午前11時から展示を使ってレクチャーを実施する。フロアートークの場所や内容は当日担当の学芸職員が決定し、場合によっては実施時間が変更されることがあり、玄関入口にある催し物ボードにも、当日のフロアートークの案内を掲示している。

#### (2) ディスカバリールームのイベント

ディスカバリールームでは、季節展示にあわせて参加型のイベントを実施している。今年度は、まゆの糸取りを見てみよう！、節分ツノさがし、森の宝物さがしなど、新規イベントを7件実施した。12月1日の閉室に向けて、リニューアルのクロージングイベントとして実施した「ディスカバの思い出アルバムを作ろう！」では、約100名の参加があった。また閉室中には、次のリニューアル展示に使用する室名表示を来館者に文字になってもらい撮影する、「人文字で「デ・イ・ス・カ・バ」を書こう！」を実施した。これには約350名もの来館者に参加いただき、DISCOVERY ROOMの文字が完成した。さらに「森の宝物探し」では、「集める、調べる、展示する」という学芸員体験ができるプログラムを実施した。収集した展示物は、リニューアル後のみんなのたからものコーナーに展示する予定である。今年度初めて共催イベントとして、滋賀県立近代美術館のたいけんびじゅつかんのひとつとして実施した「お魚ペーパーウェイトを作ろう！」では、館内の魚の体の形をじっくり観察してもらい、野洲川の石と羊毛フェルトを使って魚と石とアートを組み合わせたプログラムとなった。12月以降の閉室中のイベントは、アトリウムや常設展示室、屋外展示等で実施し、ディスカバリールーム外でのイベントを多く実施した。



お魚ペーパーウェイトをつくろう！



はたきを作ろう！



節分ツノさがし

イベント開催日	イベント名	参加者
5月5日(金)	カブトを作ろう！	100名
4月15日(土)～4月30日(日)	みんなで「びわこいのぼり」を作ろう！ ※展示期間：5月2日(火)～5月31日(水)	244名
6月10日(土)	ディスカバ紙芝居☆「ゲンタのたんじょうものがたり」	25名
6月20日(火)～7月7日(金)	短冊に願いをかこう！	約420名
7月16日(日)～8月31日(木)	みんなで「かいこ絵日記」をつくろう！	62名
10月15日(日)	まゆの糸取りを見てみよう！	約10組
11月18日(土)	【ディスカバリニューアル関連企画】 ＜琵琶博×近美たいけんびじゅつかん＞ お魚ペーパーウェイトをつくろう！	30名
11月25日(土)	はたきを作ろう！	9組14名
12月10日(日)、16日(土)、23日(土)、 24日(日)、2018年1月4日(木)、5日(金)、 8日(月祝)	【ディスカバリニューアル関連企画】 人文字で「デ・イ・ス・カ・バ」を書こう！	約350名
11月1日(水)～30日(木)	【ディスカバリニューアル関連企画】 ディスカバの思い出アルバムを作ろう！	約100名
2018年1月27日(土)～2月3日(土)	節分ツノさがし	約300名
2月12日(月祝)	【ディスカバリニューアル関連企画】 森の宝物さがし	子ども9名 大人8名
3月3日(土)	ひな祭り紙芝居	約50名

### (3) 展示交流員と話そう

展示交流員は、展示室における 1) 安全確保、2) 快適な環境の提供、3) 展示室での発見のサポート(展示交流)といった3つの働きをしている。特に「展示交流」は、展示室におけるコミュニケーションを通じて来館者に身近な自然や暮らしについて関心を持っていただくためには重要な要素である。そのいっそうの充実をはかるために「展示交流員と話そう」を実施した。

展示交流員が普段の展示交流によって得られた「きっかけ」を生かし、できるだけ自然なスタイルで行った。実施にあたっては、事前に各自がテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受け、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備を行った。実施の方法は、用意した資料を触っていただく、自作の資料を見ていただく、複数の実施コーナーを柔軟に活用する等、テーマに即して来館者の興味を引き出す様々な工夫を行った。

実施期間：2017年12月15日～2018年3月31日

実施人数：展示交流員 23名

実施回数：展示室での来館者の状況により随時実施

【実施内容】

展示室	氏名	実施テーマ	実施展示コーナー
A 展示室	斉藤 文子	隕石をさわってみよう	コレクションギャラリー
	柳原 徳子	化石のいちょう 今のいちょう	コレクションギャラリー
	鍛冶 真弓	植物化石 (メタセコイヤ)	コレクションギャラリー
B 展示室	芦田 弘美	縄文土器、東と西	粟津貝塚展示
	坂上 麻理	琵琶湖の湖底遺跡の謎	湖底遺跡の調査と方法パネル前
	野口 千晴	セタシジミについて	粟津貝塚展示
C 展示室	坂井 麻紀	食べられる水辺の植物	ヨシ帯展示
	西之園 みどり	カヤネズミ	ヨシ帯展示
	北田 昌子	アメリカザリガニの紙フィギュアを作ろう	オピニオンコーナー
	木下 睦司	昼の蝶・夜の蝶 あなたはどっちが好き?	生きものコレクション
	本田 幸子	ミミズ	田んぼの生きものたち
	森口 敏子	木のもものがたり	琵琶湖の利用と変化
	福本 嘉子	暮らしは変わる	私たちの暮らし
水族展示室	板垣 真由美	びわこのプランクトン	マイクロバー
	片岡 典子	チョウザメ	古代魚の水槽
	吉田 史子	チョウザメ	古代魚の水槽
	木村 寿枝	ザリガニ	ふれあいコーナー
	阪路 美津子	オオサンショウウオ	中流域の生き物たち
	奥村 恵子	琵琶湖八珍	魚滋コーナー
	今泉 美保	我が家の味	魚滋コーナー
	林 克子	ニゴロブナ	魚滋コーナー
	深谷 真弓	アメリカナミウズムシ	マイクロバー
	井出 範子	冬のプランクトン	マイクロバー

(4) デジタルサイネージ

エントランスの券売所横に設置し、2017年度は10件の館内イベントの掲示を行った。

掲示期間	イベント名	代表者
4月4日～4月30日	TANAKAMI こども環境クラブ 2016年度活動報告	TANAKAMI こども環境クラブ
4月27日～5月21日	琵琶湖フォトコンテスト作品展	伊藤園、滋賀県琵琶湖政策課、琵琶湖博物館
5月2日～5月5日	ディスカバリールームイベント 「カブトを作ろう」	ディスカバリールーム担当
5月2日～5月5日	ディスカバリールームイベント 「びわこいのぼり展示中」	ディスカバリールーム担当
6月3日～6月25日	「だれもやってないことをやってみませんか」	京都府立海洋高等学校
7月4日～7月30日	河川レンジャー写真展「懐かしの瀬田川写真展」-河川と暮らした地域の記憶	琵琶湖河川レンジャー/水のめぐみウォーターステーション
7月15日～11月19日	小さな淡水生物の素敵な旅	展示係
8月2日～8月30日	写真を後世に遺す 村松 勝:写真絵画展	武村まさみ
9月2日～9月30日	水辺の生きものワールド ～ECOSYSTEM OF IWAKURA RIVER～	同志社小学校と岩倉南小学校
10月3日～10月29日	生きもの細密画展～滋賀の植物と昆虫を描きとめる～	杉野由佳

## 博物館連携

### (1) 滋賀県博物館協議会

滋賀県博物館協議会は県内の69館（2017年9月末現在）で構成する団体である。広報、研修、記念事業の3つの委員会を持ち、ウェブによる加盟館紹介や新聞連載、年3回の研修・情報交換事業、5年に1度の記念事業などを実施している。当館は広報委員会と記念事業委員会に各1名が参画し、活動の一翼を担っている。

### (2) 烏丸半島活性化連携事業

琵琶湖博物館をはじめ、烏丸半島に関連する施設、企業、団体等で構成する琵琶湖・烏丸半島魅力向上活性化協議会の事業として、各構成団体が連携・協力し烏丸半島への誘客を促進する取組を行った。

#### 1) からすまいちばんカレンダーの作成

各構成団体に関わる7月から10月までのイベントを紹介するチラシを作成した。

作成枚数：15,000枚

配布先：各構成団体の施設、周辺の施設、周辺の幼稚園・保育園等の施設、他

#### 2) からすまいちばんスタンプラリー2017の実施

構成団体の施設等をポイントとするスタンプラリーを実施した。

実施期間：2017年12月1日（金）～2018年1月31日（水）

チラシ作成：10,000枚

配布先：各構成団体の施設、周辺の幼稚園・保育園等の施設 学童施設、他

商品提供：琵琶湖汽船、ホテルボストンプラザ草津、湖南企業いきもの応援団、草津市観光物産協会、道の駅草津グリーンプラザからすま、ミュージアムショップおいでや、草津北部まちづくり協議会

応募数：200人

当選者数：49人

#### 3) 各種広報媒体の活用による情報発信

各構成団体が発行する広報やリーフレットをはじめ、パブリシティ・Facebookの活用により烏丸半島の情報を発信した。

#### 4) その他

- ① 「びわ博フェス2017」への物産等販売出店（道の駅草津、草津北部まちづくり協議会）
- ② 夏休み期間におけるバスの増便および割引クーポンの設定（近江鉄道）
- ③ ゴールデンウィーク、お盆期間における「草津烏丸半島湖上遊覧クルーズ」の運航（琵琶湖汽船）

## 4 体験と交流を促す博物館

### 一般利用者へのサービス

#### (1) 観察会・見学会等

2017年度は博物館周辺や県内各地で観察会等15件の事業を実施した。うち2件は企画展示関連イベントとして年間計画外で実施されたものであり、好評のため来年度以降も継続する予定になっている。屋外実施の事業で荒天中止となったものが多かったのは残念なことである。特に「ビワマスの採卵現場見学会」の中止は、全国的にも上陸被害が大きかった強い台風により、採卵現場に深刻な被害があったことによるものである。

「びわ博フェス」は、博物館開館15周年にあたる2011年度に始めた「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」を前身として、アトリウムコンサート、星空観察会、虹のレストランなどといった多彩な展開をしていた行事であるが、今年度はそのような展開を取りやめ、はしかけ各グループやフィールドレポーターによる活動紹介やワークショップを通して、両活動のメンバー同士や一般来館者との間の交流を深めることに特化した事業とした。

なお、15件のうち9件について事前参加申込を必要とする運営とした。参加申込手続きには2013年度から往復はがきに加えて電子的手段を採用しており、電子的手段としては電子メールを用いていたが、個人情報管理を強化する観点から2016年度の途中から「しがネット受付システム」に変更している。当初はシステムを介した利用者管理を最小限とし、複数の事業に対して一括して申込を行える運用方法を採用していた。しかし、運用してみた結果、申込者への連絡事務に難があることが判明したため、2017年7月下旬の行事から、各事業ごとに独立してシステムで利用者管理を行い、システムを通して申込者への連絡を行う運用方法に変更した。この方法で滞りなく運用していける体制を確立することが次の課題である。

開催日	曜日	事業名	定員	参加者数	共催・協力等
4月16日	日	お祭り見学会～ヨシ松明ができるまで	15	13	
4月29日	土	バイカルアザラシのことを知ってみよう！	30	100	
5月21日	日	「くつきの森ユリノキまつり」森の観察会	40	16	くつきの森・はしかけ「森人」
6月11日	日	みんなで湖魚料理をつくろう！ (コアユ・シジミ編)	20	22	滋賀県漁業協同組合連合会青年会 滋賀県水産課
6月17日	土	里山体験 田んぼの生き物見つけ隊	20	29	カワセミ自然の会
7月1日	土	からすま半島で昆虫を観察しよう！	30	中止	
7月8日 ・9日	土・ 日	びわ博フェス2017	—	3,830	はしかけ各グループ フィールドレポーター
7月29日	土	初心者のためのふなずし作り体験	20	29	
7月30日	日	びわこ×アート びっくりバードランド	30	10	滋賀県立近代美術館 はしかけ「びわたん」 近代美術館サポーター
8月13日	日	マイナス80℃から生還した微小生物	—	17	
8月19日	土	マイナス80℃から生還した微小生物	—	13	
9月24日	日	顕微鏡で観察しよう プランクトンでビンゴ	15	13	
10月28日	土	ビワマスの採卵現場見学会	20	中止	百瀬漁協 滋賀県漁業協同組合連合会青年会
11月5日	土	みんなで湖魚料理をつくろう！ (フナ・ビワマス編)	20	18	滋賀県漁業協同組合連合会青年会 滋賀県水産課
1月14日	日	びわはくアルバムを作ろう	20	14	博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業 (国立科学博物館)

## (2) 講座

2017年は、以下に示した講座を実施した。

	内容	開催日	曜日	募集数	参加者	講師
1	はしかけ登録講座（全3回）	5月14日 10月15日 3月18日	日 日 日		13(新規) 18(新規) 37(新規)	戸田 孝 戸田 孝 戸田 孝
2	琵琶湖地域の水田生物研究会 共催：近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会・日本生態学会近畿地区会	12月17日	日	250	207	口頭発表 7件 ポスター発表 21件 講演 8件
3	新琵琶湖学セミナー（全3回） （詳細は研究発信(2)P.22参照）	1月28日 2月25日 3月24日	日 日 土	各回 70	69 57 63	高橋啓一・百原 新 鈴木隆仁・井上栄壮 松田征也・山根 猛

## (3) 体験教室

### 1) 里山体験教室（担当：山本綾美・草加伸吾）

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない、子どもの頃は野山で遊んだが久しく行ってない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」の協力により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しむため年4回実施している。

春は里山を歩き、春を感じるような植物を中心に観察をおこなった。参加者の子どもの低年齢化が進み歩ける距離が予想より短く、散策コースの設定が難しかった。夏は、昆虫を専門とする学芸員の指導を得て、野原の昆虫と森の昆虫の観察会を行った。午後は、現地で採集した竹を使って、竹笛づくりを行うとともに、ロープと布を使った簡易ハンモックの設置方法を体験した。秋は、少雨に見舞われ天気に恵まれなかったが、里山を散策して木の実や紅葉などの「里山の秋色さがし」は収穫も多く喜んでもらった。午後は、森の素材や竹を使ってネイチャークラフトを行った。雨により時間短縮を行った。冬は、1年の活動の山への感謝の意味も込めて、里山整備を行った。木の伐採や枯枝の回収、落ち葉掻きなどを行った。午後は里山整備で得られた枯枝等を燃料にして、花炭、竹筒ケーキ作りを行った。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月16日	里山の春をみつけよう	35	山本、草加
2	7月16日	里山の夏を楽しもう	23	山本、草加
3	10月15日	里山の秋さがし	25	山本、草加
4	1月21日	冬の里山を楽しもう	34	山本、草加



夏：里山の昆虫観察



冬：里山整備

## 2) 生活実験工房 田んぼ体験 (担当：下松孝秀・中川 優)

生活実験工房では年間を通して、一般の参加者とはしかけ会員を対象に、暮らしと田んぼの体験教室を実施し、4月から11月初旬までは、主に水稻栽培に関する体験を行い、11月中旬から翌年3月までは、わらなど収穫した材料や工房周辺にある材料を使った体験活動を実施している。水稻栽培では、昔ながらの苗代づくりから手作業による田植えや稲刈りまでを昔の農具を使いながら体験を行ってきた。11月の収穫祭では、収穫したモチ米を利用したもちつきを行い農の恵みを体験することができた。また、農閑期となる冬季には、工房内でしめ縄やわら細工など、わらを有効活用した手作業による体験活動を行い、農具や道具などの使い方や学び、参加者同士が協力し交流を深めながら、昔暮らしの作業体験に取り組んだ。参加者の中には、家族で継続した参加もあり、子どもたちの成長を見ながら親と子の絆を深める良い機会として頂いた。

「生活実験工房 田んぼ体験」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4月	種まき、苗代づくり	職員対応
5月 14日	田植え	30名
7月 23日	昆虫採集	42名
9月 10日	稲刈り (早稲品種：みずかがみ) はさ掛け	22名
10月 8日	稲刈り (晩稲品種：滋賀羽二重糯) はさ掛け	23名
11月 26日	収穫祭	40名
12月 23日	しめ縄づくり	30名
1月 15日	どんど焼き	職員対応
2月 11日	わら細工	27名
3月 10日	一年間のふりかえり	4名



5月 田植え風景



9月 稲刈り、ハサ掛け

## (4) 体験学習

### 1) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊 (体験学習の日)」の活動

(担当：奥野知之、小林偉真、塩谷えみ子)

当館を訪れる小・中学生を対象に、博物館の展示室への興味や関心を高めるための体験活動を「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。子ども向けイベントではあるが、広く来館者に体験学習を楽しんでもらえるよう保護者の付き添いのある幼児や大人のみでも参加可能とした。基本的には、第2土曜日の午後1時より受付を開始し、プログラム実施は午後1時半～3時までとした。今年度も、はしかけグループの「びわたん」を中心に企画と運営を行った。今年度は、年間7回、計434名の参加者に楽しんでもらうことができた。

回	月 日	館内の事業	参加者数
1	4月 8日	春の草花でしおりをつくろう！	60
2	5月 13日	タンポポ調査に出かけよう！	27
3	6月 10日	ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！	52
4	7月 8日	水草を観察しよう！	27
5	9月 9日	葉っぱの形に注目しよう！	41
6	10月 14日	骨にふれてみよう！	32
7	11月 11日	秋の色探しをしよう！	27
8	12月 9日	綿にふれてみよう！	29
9	1月 13日	お魚モビールをつくろう！	61
10	2月 10日	昔のくらしを体験しよう！	28
11	3月 10日	琵琶湖の湖底をのぞいてみよう！	50
		合 計	434

### ■わくわく探検隊のようす



### 2) 一般団体向け（担当：奥野知之、小林偉真、草加伸吾、植村隆司、塩谷えみ子）

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、地域の環境保全に対する意識向上に向けた取り組みに協力することができた。

実施数	内 容
3団体（53名）	ヨシ笛づくり

### 学校連携

#### (1) 学校団体

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。

第1期リニューアル後、来館学校数の回復が見られ、特に県外中学校の来館数の増加がみられた。しかし、県内特別支援学校や県外高等学校で減少の傾向があった。第2期のリニューアル工事でディスカバリールームや屋外展示の利用に制限がかかったが、閑散期と重なったために大きな影響にはなっていない。来年度は、第2期リニューアルオープンもあるので、学校団体の高度利用についてや校種・学年に応じた博物館の具体的活用についても呼びかけていきたい。

1) 学校団体の受け入れ（担当：奥野知之、小林偉真、草加伸吾、植村隆司、塩谷えみ子）

地域	校種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H28年度	今年度	増減	H28年度	今年度	増減
県内	小学校	164	167	3	11,093	11,607	514
	中学校	18	19	1	1,550	1,552	2
	高等学校	13	20	7	727	721	-6
	特別支援学校	23	14	-9	332	208	-124
	大学など	12	11	-1	688	827	139
	合計	230	231	1	14,390	14,915	525
県外	小学校	166	165	-1	14,137	14,400	263
	中学校	39	60	21	5,289	7,670	2,381
	高等学校	32	23	-9	2,318	1,950	-368
	特別支援学校	10	13	3	377	440	63
	大学など	41	35	-6	1,976	1,077	-899
	合計	288	296	8	24,097	25,537	1,440
総合計		518	527	9	38,487	40,452	1,965

2) 学校団体向け体験学習（担当：奥野知之、小林偉真、草加伸吾、植村隆司、塩谷えみ子）

学校団体向け体験学習は、展示室見学をより深く学ぶための手助けとなるよう考えて行った。しかし、短時間の来館で体験を中心に考える学校団体もあるので、今後見学の目的に合わせた体験学習の実施に努めていきたい。今年度は、昔くらし体験を講義形式にして繁忙期に来館する学校からの要望に応えた。体験実施校数は、学校の来館時期が重なるため、顕著な増加にはつながらなかったが、実習室・ホール・セミナー室・生活実験工房などを利用して行った今年度の体験学習を下記に挙げる。

校種	主な活動内容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物、昔のくらし、博物館の展示についてなど）、化石のレプリカづくり、ヨシ笛づくり、シジミストラップ作り、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、昔くらし体験（足踏み脱穀、石臼、手押しポンプ）、生活実験工房の施設見学、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖条例ができるまで、琵琶湖総合開発、博物館の展示についてなど）、プランクトン採集と観察、ヨシ笛づくり、外来魚の解剖、化石のレプリカづくり、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、博物館の展示についてなど）、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、課題研究、質問対応
特別支援学校	化石のレプリカづくり、よし笛づくり

■体験学習実施数

校種	県内		県外		合計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	36	2,311	46	3,386	82	5,697
中学校	8	1,239	16	2,013	24	3,252
高等学校	4	164	7	190	11	354
特別支援学校	2	16	1	4	3	20
大学など	1	190	4	315	5	505
合計	51	3,920	74	5,908	125	9,828

## ■体験学習のようす



### 3) ミュージアムスクールの運営 (担当: 小林偉真、奥野知之)

2017年度は立命館守山中学校を受け入れた。

立命館守山中学校「琵琶湖学習」の取り組み

1年生 159名が参加し、3回の展示見学と学芸員等の講義を通して、琵琶湖や滋賀のことについて学習を深めた。特に、課題解決型学習を進めるにあたってのポイントを学芸員から直接指導を受け、データやグラフの読み取りや分析など研究手法を学ぶ機会となった。

① 2017年5月27日(土) 立命館守山中学校メディアホール

・9:40~10:40 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」(小林):メディアホール

② 2017年6月3日(土) 琵琶湖博物館

・9:50~10:50 講義「問題解決へのアプローチの方法」(山川):ホール

・9:50~11:50 常設展示見学

■夏休み…展示見学と講義から琵琶湖について特に興味を持ったことがらについて、各自が夏休みに実践的研究や調査を行う。

③ 2017年11月4日(土) 琵琶湖博物館

・9:30~12:00 班ごとのテーマに合わせて各交流ゾーンで中間報告及び指導助言  
戸田・渡部・大槻・田畑・小林・奥野より指導助言を受ける

・9:30~12:00 展示見学による調べ学習

④ 2017年11月11日(土) 琵琶湖博物館

・10:30~12:00 班ごとに展示見学から調べ学習を行う。

⑤ 2018年2月23日(金) 立命館守山中学校

・学習発表会

・学芸員のアドバイスをもとに仕上げたものを、在校生(中学生と高校生)向けに発表

・琵琶湖学習発表会(立命館守山中学校メディアホール) 審査・講評

## ■ミュージアムスクールのようす



#### 4) 自然調査ゼミナール (担当：小林偉真、奥野知之)

自然調査ゼミナールは、滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、中学生が自然調査を通して複雑な自然を知り深く理解することを目的として、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。昨年度と同様に主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行った。中学生61名、教員27名が参加した。中学生たちは学芸員のアドバイスを受け、地域の自然を調査し、ホールにて結果をグループごとに発表した。

① 期日 2017年8月1日 (火)

② 内容

午前の部		午後の部	
9:00～9:30	受付	12:45～15:00	班別調査活動Ⅱ (各活動場所)
9:30～10:00	開講式・オリエンテーション		
10:00～12:00	班別調査活動Ⅰ (各活動場所)	15:00～15:50	調査結果のまとめ
		16:00～16:55	調査報告会 (ホール)
12:00～12:45	昼食および休憩 展示室見学	16:55～17:00	閉講式

#### ■ 昼の部班別テーマ

調査班	テーマ	講師	生徒数	教員数
昆虫班	採集や標本づくりを通して昆虫について学ぼう	八尋克郎 (学芸員)	11	2
植物班	身の回りの植物について、ミクロの視点で見よう	大槻達郎 (学芸員)	9	3
ほ乳類班	巣の調査や映像資料からほ乳類の生態を調べよう	澤邊久美子 (学芸員)	6	2
プランクトン班	琵琶湖のプランクトンについて、分類方法と特徴について調べよう	鈴木隆仁 (学芸員)	11	5
魚類班	琵琶湖にいる魚の解剖を通して、魚の生態を調べよう	西垣 亨 (教員)	19	4
貝類班	貝の採集や解剖を通して、貝の生態を調べよう	初田彩加 (教員)	6	4

#### ■ 自然調査ゼミナールのようす



(2) 教育指導者等研修 (担当：小林偉真、奥野知之)

1) 教職員研修

本年度も学校などへの出張講座、滋賀県教育委員会や県総合教育センターなどと連携した研修、各地の理科教育研究会からの依頼を受けた研修など多岐にわたり、計 658 名の受講があった。県内外の学校の先生方に琵琶湖博物館を知ってもらうよい機会となった。博物館を有効に活用できるきっかけになればと考えている。

実施日	曜	講座名	受講者数	共催・後援
6月 1日	木	滋賀県中学校教育研究会理科部会研究委員総会	30	滋賀県中学校教育研究会理科部会
6月 1日	木	平成 29 年度理科授業力アップ研修 [中学校]「水棲プランクトンの観察法と指導方法」	17	滋賀県総合教育センター 滋賀県中学校教育研究会理科部会
6月 27日	火	彦根市立佐和山小学校	4	彦根市立佐和山小学校
7月 13日	木	高島市立湖西中学校	6	高島市立湖西中学校
8月 2日	水	大阪府北河内地区小学校理科教育研究会夏季研究会	28	大阪府北河内地区小学校理科教育研究会
8月 3日	木	平成 29 年度中堅教諭資質向上研修【選択研修】「琵琶湖博物館の有効活用を考える」	13	滋賀県総合教育センター
8月 4日	金	H29 しが環境教育研究協議会	120	滋賀県教育委員会
8月 8日	火	滋賀県小中学校教育研究会栗東支部夏季研修会	17	滋賀県栗東市立小学校理科部会
8月 9日	水	平成 29 年度中堅教諭資質向上研修【選択研修】「琵琶湖博物館の有効活用を考える」	13	滋賀県総合教育センター
8月 10日	木	滋賀県高等学校文化連盟自然科学部クラブ研修会	13	滋賀県高等学校文化連盟自然科学部
8月 24日	木	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会研修会	16	滋賀県中学校教育研究会理科部会 環境教育委員会
10月 30日	月	甲賀市立伴谷小学校	4	甲賀市立伴谷小学校
11月 1日	水	甲賀市立甲南第二小学校	4	甲賀市立甲南第二小学校
11月 1日	水	甲賀市立甲南中部小学校	4	甲賀市立甲南中部小学校
11月 7日	火	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
11月 9日	木	初任者研修	43	滋賀県総合教育センター
11月 14日	火	初任者研修	42	滋賀県総合教育センター
11月 16日	木	初任者研修	37	滋賀県総合教育センター
11月 17日	金	安曇っ子博物館	7	高島市立安曇小学校
11月 25日	土	滋賀の教師塾	163	滋賀県教育委員会
12月 1日	金	滋賀県高等学校理科教育研究会生物部会(動物研究部門)教員研修	20	滋賀県高等学校理科教育研究会生物部会(動物研究部門)
12月 2日	土	文部科学省平成 25 年度海外派遣団平成 29 年度年次研修	11	文部科学省平成 25 年度海外派遣団 滋賀支部
1月 27日	土	「科学ヘジャンプ・イン・滋賀 2018」準備研修会	15	近畿盲学校教育研究会 滋賀県立盲学校
合 計			658	

■教員研修の様子（初任者研修・理科授業力アップ研修）



2) その他の視察研修（担当：小林偉真、奥野知之）

2017年度に受け入れた学校連携・教育普及活動に関する視察は、合計4件15名であった。

月日	来館団体名（目的）等	人数
11月23日	沖縄県立博物館美術館（視察）	1
12月1日	さくらサイエンスプラン交流事業（中国湖南省からの視察）	10
2月23日	沖縄美ら島財団（視察）	2
3月2日	大阪市立自然史博物館	2

企業連携

当館のリニューアル展示をはじめ、今後の博物館の運営を継続させていくためには、企業との連携は欠かせないものの1つである。博物館は企業が行う研修や社会貢献活動を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会を提供し、また学術的な観点から正しい認識を伝えていく必要がある。また、外部資金を獲得する方法のひとつと位置づけ、企業連携の強化を図った。

今年度は、次のような連携事業を展開した。

7月30日：公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団

「ピノキオコンサート 大人と子どものための音・学・会 at 琵琶湖博物館」

10月9日：株式会社叶匠寿庵 パネル展示と研修

10月21日：近江鍛工株式会社 パネル展示と研修

11月9日～11月30日：生物多様性湖東地域ネットワークによる「トンボ79大作戦！～湖東地域企業敷地のトンボのモニタリング調査と保全活動～」パネル展示

12月5日～1月14日：企業の環境保全・CSR活動紹介ポスター・パネル展示

研修・実習

(1) 国際交流

1) JICA 博物館学コースの実施

国際協力機構（JICA）からの委託事業として、国立民族学博物館との共催で「博物館とコミュニティ開発」と題する研修を、2015年から2017年の3カ年事業で行っている。2017度の研修事業は、当館からは運営委員2名（芳賀総括学芸員、楊平主任学芸員）と専門委員1名（戸田専門学芸員）として、全体の運営に関わった。この研修では、2017年11月14日から19日まで「博物館とコミュニティ開発」コースのプログラムを実施し、海外の9か国の博物館施設から計10名の研修員が参加した。

① 研修員の国名・人数

アルメニア、エジプト、パプアニューギニア、サモア、セーシェル、バヌアツ、ザンビア、トルコ、ヨルダン、合計10名。

② 琵琶湖博物館での研修

日時	内 容
11月14日	琵琶湖博物館の概要と設立理念、展示運営、博物館運営と総務、広報営業と展示リニューアル、展示見学および解説
11月15日	企画調整と移動博物館展示、博物館の資料、学校連携と体験学習の実践、ヨシ笛体験学習
11月16日	長浜城歴史博物館とコミュニティ活動の紹介、長浜市曳山博物館展示見学、講義
11月17日	湖族の郷資料館展示見学、コミュニティ開発と保全、参加型活動紹介及び解説
11月18日	博物館と交流事業のありかた、フィールドレポーター活動概要、参加型調査と博物館活動フィールドレポーター活動、はしかけ活動紹介および意見交換
11月19日	博物館活動とコミュニティ啓発調査、専門レポート、ディスカッション及び意見交換

2) 海外からの視察・研修

当館では、上記 JICA 研修の実施以外にも、海外からのさまざまな団体による視察や研修に対応しており、今年度は 35 件に対応した。

\* JICA ; (独法) 国際協力機構

月日	視察者	人数
4月12日	京都フランス語学校小学生・教員	18
4月1日	韓国行政・普及員・通訳(井阪議員)	20
5月19日	湖南省図書館団	7
6月15日	タイ・カセサート大学農学研究科留学生	20
6月20日	ミャンマー国水族館関係者	5
7月6日	中国湖南省洞庭湖水環境改善研修生	7
7月22日	同志社大学大学院生・グローバルマネジメント・オンサイト実習	12
8月1日	近江ふるさと会交流(中国湖南省・江原大学訪問団)	13
8月4日	JICA 研修(中米エルサルバドル訪問団)	10
8月16日	近江ふるさと会交流(中国湖南省・慈済科技大学訪問団)	13
8月30日	JICA 研修ベトナム国クアンニン省職員訪問団	22
9月9日	JICA 研修ミャンマー国水環境管理研修生訪問団	17
9月9日	ミシガン州知事・ミシガン州訪問団	80
9月12日	JICA 統合的流域管理研修	10
9月13日	インドネシア教職員訪問団	16
10月13日	駐日ベトナム大使	3
10月17日	ブラジル国リオグランデ・ドスール州政府派遣団	7
10月18日	中国湖南省貿易促進委員会	20
10月19日	ベトナム国クアンニン省人民委員会	6
10月24日	米国ポンティアック市中中学生訪問団	27
10月26日	ユネスコ・アジア文化センター	9
11月1日	中国無錫市恵山区視察団	7

月日	視察者	人数
11月 9日	カンボジア国政府職員訪問団	10
11月 21日	台湾芝山文化生態緑園	4
11月 24日	中国江蘇省環境保護庁視察団	9
11月 30日	タイ王国大阪総領事	5
12月 1日	中国湖南省友好協会・芸術家視察団	12
12月 2日	JST さくらサイエンスプラン中国湖南省湖南師範大学	14
12月 7日	韓国釜山海洋自然史博物館	2
12月 10日	国立台北芸術大学文化資源学院	32
12月 17日	滋賀県立大学学生・国際部学生	10
1月 17日	インドネシア私立女子高校教職員・学生訪問団	27
1月 30日	ミシガン州立大学連合日本センター学生	25
2月 2日	JICA 日系研修「環境教育リーダー養成研修」	4
2月 16日	三宝莖サイパン島青少年文化交流使節団	26

## (2) 視察対応（国内）

月日	訪問者	人数
5月 12日	相模川ふれあい科学館	2
5月 17日	中部圏開発整備地方協議会担当課長会議	14
5月 18日	富山市科学博物館	1
5月 23日	国交省近畿地方整備局	7
6月 2日	中部圏知事会議知事・市長視察	20
6月 7日	埼玉県議会	17
7月 6日	札幌市議会	10
7月 29日	多摩六都科学館	1
8月 10日	(株)海の中道海洋生態科学館	1
8月 25日	関西広域連合	49
9月 13日	相模川ふれあい科学館	2
9月 22日	石川県能美市 市長・教育長・教育委員会	3
9月 22日	京都市動物園	1
10月 6日	松本市歴史の里	1
10月 13日	甲賀市工業会訪問団	12
10月 28日	自治大学校第一部特別過程 13 期同窓会	18
11月 23日	沖縄県立博物館	1
11月 30日	丹波市立青垣いきものふれあいの里運営委員	14
12月 8日	西日本国際環境協力期間連絡会	20
2月 2日	三重県川越町教育委員会文化財調査委員会	13
2月 20日	福岡県中間市	3
2月 23日	奈良県川上村環境審議委員	9
3月 7日	熊本県博物館ネットワークセンター	1

### (3) 博物館実習

・期間：2017年8月23日（水）～8月27日（日）までの5日間

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内11大学、15名の大学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それに基づく資料整備、交流、展示などの活動について、講義および実習を行った。最終日には課題の発表会を行い、博物館職員との意見交換も行われた。

・実習日程と内容

月日	内容（午前）	内容（午後）
8月23日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体オリエンテーション</li> <li>講義「琵琶湖博物館の概要」</li> <li>講義「琵琶湖博物館の研究活動」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「博物館での展示」</li> <li>見学「常設展示室の見学」</li> </ul>
8月24日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「博物館資料とその整理について」</li> <li>講義「IPMについて」</li> <li>見学「収蔵庫見学」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「各資料分野に分かれて実習」</li> </ul>
8月25日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「展示リニューアルと広報・営業」</li> <li>講義「ユニバサルデザインと博物館」</li> <li>講義「企画展示について」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「発表課題内容の検討」</li> </ul>
8月26日（土）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「環境学習と博物館」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「琵琶湖博物館における交流事業」</li> </ul>
8月27日（日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「発表課題内容の準備・まとめ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習成果発表会</li> <li>修了式</li> </ul>

・実習生の大学と人数：11大学、15名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
滋賀県立大学	2	龍谷大学	2
成安造形大学	1	近畿大学	3
京都橘大学	1	東海大学	1
京都造形芸術大学	1	鳥取大学	1
宮崎大学	1	北海道大学	1
同志社女子大学	1	合 計	15

## 5 対話と応援ができる博物館

### 利用者主体の事業

#### (1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、滋賀県内の自然とくらし・文化について、地域の方々に身の回りの調査をしていただき、得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす「地域学芸員」のような制度である。博物館に登録票を提出すれば誰でも参加できる。任期は1年で、更新すれば何年でも引き続き行うことができる。2017年度の登録者数は204名（2016年度登録更新者155名）である。

フィールドレポーターの主な活動は、月2回（原則第1・3土曜日）の定例会の開催、1年に2回程度のアンケート型調査の企画・実施とその結果をまとめた報告書「フィールドレポーターだより」の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、自由交流型調査のまとめと掲示板発行、館内外で開催される交流会・イベントなどの実施・参加がある。これらの活動は、フィールドレポーターの有志からなる「フィールドレポータースタッフ」によって支えられている。2017年度は、フィールドレポータースタッフを中心に、毎月第1・3土曜日（原則）の『定例会』等の会合・行事を計27回開催した。

2017年度のアンケート型調査として、4月から8月にかけて「カイツブリに会いに行こう」調査、12月から4月にかけて「橋の名前を調べましょう」を実施している。調査票の作成や報告書執筆に関しては、カイツブリ調査はフィールドレポータースタッフの前田雅子氏、橋の名前調査は同スタッフの松村順子氏が中心になって行った。2016年度の「2016年年度ミノムシ調査」、2017年度の「カイツブリに会いに行こう」について、報告書として「フィールドレポーターだより」計2号（通巻48, 49号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。カイツブリ調査については新聞5社から取材を受け、フィールドレポーター調査が多くの人から注目されていることが明らかとなった。

自由な内容で身近な情報を随時報告する「自由交流型調査」については、「フィールドレポーター掲示板」計4号（通巻87-90号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。フィールドレポーター掲示板の編集長は、フィールドレポータースタッフの中野敬二氏が務めた。

フィールドでの観察会や調査会としては、2008年から継続している「アキアカネふるさと探し」調査として、びわこバレイ蓬萊山頂付近でのアキアカネのマーキング調査（8月10日）と、大津市伊香立での追跡調査（10月7・8日）を実施した。

琵琶湖博物館の事業では、企画展示と「びわ博フェス2017」に参加し、ワークショップ「ササぶえ、ササぶね、ササあそび」を実施した。七夕後すぐということもあって、笹の葉を用いて「ササぶえ、ササぶね、ササうお」を参加者に作ってもらうというもので、受付をせずに参加した人も含めると、200名以上の参加があり大好評だった。また、このワークショップをきっかけに「南滋賀村の歴史を考える会」と交流をすることができ、11月4日には琵琶湖博物館にて交流会を開催することができた。11月18日には国際協力機構（JICA）研修プログラム「博物館とコミュニティ開発」を琵琶湖博物館で行った際に、フィールドレポータースタッフの前田雅子氏がこれまでの調査結果やフィールドレポーターの活動に関するプレゼンテーションを行った。さらに2月17日には、国際花と緑の博覧会主催の自然と人間の共生フェスタ in 滋賀にて、フィールドレポータースタッフの柁島昭紘氏がポスター制作とプレゼンテーションを行った。今年度は調査を軸とした活動の中に、交流や調査報告を織り交ぜた多彩な活動を展開した年となった。

	月日	出席人数		内容
1	4月 1日	7	定例会	①ミノムシ調査の中間報告 ②カイツブリ調査の内容検討
2	4月 15日	8	定例会	①カイツブリに会いに行こう調査案内発行 ②ミノムシ解体結果報告

	月日	出席人数		内容
3	5月 6日	8	定例会	①交流会発表内容確認 ②交流会当日の役割分担と機器、機材の前準備 レポーター便り 48号の印刷・発送
4	5月 20日	約 30	交流会	・飛び出し坊やを調べよう・ミノムシ調査 報告 ・カイツブリ観察会、親睦会を実施
5	6月 3日	7	定例会	①掲示板発行日程確認 ②びわ博フェスの催し内容検討確定 ③アキアカネ調査予定
6	6月 18日	5	定例会	①掲示板(87号)発行 ②びわ博フェス、ワークショップの準備とリハーサル
7	7月 1日	9	定例会	びわ博フェスの準備
8	7月 9日	9	びわ博フェス	ポスターセッション、ワークショップ開催 13:00~15:30 参加者 約 200名 パート分担。終了後 懇親反省会
9	7月 15日	8	定例会	①アキアカネ調査準備、連絡網確認 ②掲示板内容はびわ博フェス中心で確認
10	8月 5日	8	定例会	気象不良の為中止。レポータースタッフ会議に切り替え、 2017年2回目テーマフリーの討議
11	8月 10日	8	アキアカネ調査	びわ湖バレイ 11:00~14:00、薄曇、微風 9回目にして最高のマーク数(923頭)
12	8月 19日	5	定例会	①アキアカネ調査報告 ②掲示板発行日程確認 ③2017年2回目テーマの検討
13	9月 2日	9	定例会	①アキアカネ夏の調査の解析、秋の調査予定 10/7 ②掲示板原稿締め切 ③2回目テーマ検討
14	9月 16日	5	定例会	①掲示板(88号)発行 ②2017年2回目テーマ「はし」の事前調査の件
15	10月 7日	9	定例会	気象不良の為中止。レポータースタッフ会議に切り替え、 2017年2回目テーマ「橋」内容討議
16	10月 8日	2	アキアカネ調査	伊香立南庄町融神社周辺
17	10月 21日	8	定例会	①里のアキアカネ調査報告 ②「橋」調査内容の具体的検討 ③カイツブリ調査まとめの解析説明
18	11月 4日	8	・ヤッサシイ会交流会 ・定例会	①ヤッサシイ会(13名参加)相互の活動報告・意見交換 ②FRSのヤッサシイ会訪問について
19	11月 18日	6	・JICA研修会参加 ・定例会	JICA研修の席でFR活動の説明(前田さん) 89号掲示板発行日程確認 2017年第2回調査「橋」調査内容検討
20	12月 2日	9	定例会	①2017年第1回調査「カイツブリ」だより発行 ②2017年第2回調査原案まとめ
21	12月 16日	8	定例会	①2017年第2回調査資料発送 ②FR 掲示板 89号発送
22	1月 6日	6	定例会	①橋の名前調査の進め方とまとめ方の検討 ②橋の名前調査の勉強会の進め方について ③自然と人間との共生フェスタ in 滋賀 への対応
23	1月 20日	8	定例会	①自然と人間との共生フェスタ in 滋賀の発表内容確認 ②橋の名前調査の勉強会の最終打ち合わせ
24	2月 3日	8	・定例会 ・橋と川の勉強会	①勉強会の実施(参加者19名) ②勉強会の成果確認
25	2月 17日	6	・定例会 ・研究発表会	①自然と人間との共生フェスタ in 滋賀 発表 ②交流会
26	3月 3日	10	定例会	①橋の名前調査の進捗状況の確認 ②FR 掲示板 90号最終原稿確認 ③次回の調査テーマ探し
27	3月 17日	8	定例会	①次回の調査テーマ確認 ②FR 掲示板 90号発送

## (2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動をともに創っていきこうとする利用者のための登録制度として、2000年8月に発足した。「はしかけ」という名称は、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となってもらうことを希望してつけられた。この制度に登録すると、博物館の様々な事業・研究にかかわることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。活動に参加するためには、最初に琵琶湖博物館の理念とはしかけ制度の概要を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。また、活動は原則としてグループで行うこととしている。登録更新票の提出とボランティア保険への加入により、1年毎に何回でも更新できる。

2017年度は登録講座を、5月14日(日)、10月15日(日)、3月18日(日)の3回実施し、それぞれ13名、18名、38名の新規登録者があり、2017年度末の会員数は352人となった。

はしかけの各グループは、それぞれのテーマをもって多岐にわたる活動を行い、琵琶湖博物館の設置理念と、中長期基本計画の核心である「地域だれでも・どこでも博物館」の実現への推進力となってきた。2017年度にはグループ数の増減は無く22グループでの活動展開となったが、2グループが翌年度の新設に向けて準備中である。また、2016年度末に再開した「はしかフェ」を、第2期リニューアルの情報はしかけ会員に発信することを目的に、今年度も継続した。

### 各グループの活動

#### うおの会

会長：中尾博行                      担当学芸員：松田征也                      会員数：60名

[設立の趣旨] 「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来に残そう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標のもと、お魚採りが大好きな人々が集まって結成されたうおの会。魚つかみを楽しみながら調査結果を記録として残し、身近な環境を見つめなおすことを目的としている。2000年の発足以来、お魚採りが大好きな皆さんに博物館を利用した活動の場を提供しながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

[活動の概要] 原則として月1回の定例調査を琵琶湖流域の各地で開催するとともに、各会員が日常的に調査活動を実施している。定例調査は原則として河川単位で実施しており、今年度は百瀬川、狼川、伊佐々川、長沢川、知内川、日野川、安曇川中上流、法竜川、犬上川などで調査を実施し、43種372尾の魚の採集記録を残すことができた。また、会員の研鑽の場として、淀川においてイタセンパラの保全活動を行っている「イタセンネット」の活動見学、三重県総合博物館の見学会、冬季には勉強会などを実施した。このほか、琵琶湖博物館行事「びわ博フェス2017」への参加をはじめとして、琵琶湖を戻す会、琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会、早崎内湖再生保全協議会、水資源機構、草津市不動浜自治会等の各種団体による自然観察会や環境学習等への協力を行った。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、11名の運営委員が中心となって行った。

#### 「うおの会」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4月 16日	第125回定例調査 百瀬川	23名
5月 21日	第126回定例調査 狼川、伊佐々川、長沢川など	19名
6月 3日	イタセンネット活動見学会	13名
6月 18日	第127回定例調査 知内川	25名
7月 8日	びわ博フェス出展 (スタッフ参加16名、来場者約150名)	
7月 16日	第128回定例調査 日野川中下流	19名
9月 9日	三重県総合博物館 MieMu 見学会	12名

活動日	内 容	参加者数
9月17日	第129回定例調査 日野川上流	台風・雨天で中止
10月7日	イタセンネット活動見学会	13名
10月15日	第130回定例調査 安曇川中上流	11名
11月19日	第131回定例調査 法竜川	19名
12月17日	第132回定例調査 犬上川	23名
1月21日	勉強会；うおの会の最終データを振り返る（酒井氏） 魚の見分け講座（中尾氏）	20名
2月18日	勉強会；2017年度データまとめの会、サワガニ2017（高田氏）	24名
3月25日	総会	

（上記の他に運営会議を4回開催）

### ○淡海スケッチの会

担当学芸員：篠原 徹、榊永一宏

[設立趣旨] 滋賀県内の現場へ赴き、絵画や俳句等により、風景やものを写生することを目的とする。

[活動概要] 月1回（基本的に第4日曜日）、滋賀県内各地でスケッチ会等を開催。2015年秋に設立。

風景に限らず、植物や博物館内の魚などをスケッチしたり、専門家の話を伺う機会も設けている。

#### 「淡海スケッチの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月23日	写生会・吟行	MIHO ミュージアム	5名
5月28日	写生会・吟行	大中（近江八幡）	7名
6月25日	館内活動	琵琶湖博物館	4名
7月23日	写生会	水生植物園（草津）	3名
8月27日	荒天のため中止	藤樹の里（安曇川）	
9月24日	写生会・吟行	葛川（大津）	4名
10月22日	荒天のため中止	水ヶ浜（近江八幡）	
11月26日	写生会	曾根沼（彦根）	7名
12月10日	懇親会	あずき房（草津）	5名
1月28日	ミーティング	琵琶湖博物館	3名
2月24日	植物画について 講師・矢原 功さん	琵琶湖博物館	6名
3月25日	写生会・吟行	寿長生の郷（大津）	2名

### ○近江はたおり探検隊

運営・ホームページ担当：辻川智代

担当学芸員：渡部圭一

会員数：20名

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月12日	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
4月29日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
5月10日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
5月27日	織姫の会	生活実験工房	参加者：6名
6月10日	織姫の会（わくたん「ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！」協力）	実習室	参加者：2名
6月28日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
7月9日	びわ博フェス参加（縄文撚りのストラップ作り）	生活実験工房	参加者：5名 体験者：23名
7月23日	丹後藤布保存会展示会見学	京都市	参加者：2名
7月26日	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
9月13日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
9月30日	織姫の会	生活実験工房	参加者：5名
10月11日	織姫の会	生活実験工房	参加者：5名
10月28日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
11月8日	織姫の会	生活実験工房	参加者：5名
11月29日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
12月1日	藍染め	湖南市下田 紺喜染織	参加者：2名
12月9日	織姫の会・わく探と共催「綿に触れてみよう」	生活実験工房	参加者：3名 体験者：16名
12月23日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
1月10日	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
1月27日	織姫の会	生活実験工房	参加者：1名
2月17日	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
2月28日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
3月17日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
3月28日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名

○大津の岩石調査隊

代表者：梅澤正夫                      担当学芸員：里口保文                      会員数：21名

[設立の趣旨] 市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。

[活動の概要] 大津市周辺地域を中心に、この地域で見られる岩石やそれに伴う地質事象（断層など）の観察と調査を行った。特に今年度の前半では、その地域で調査をしている方に案内をしていただき、地形や断層、地層も含めた観察と調査をした。案内者は、隊員以外の方にもお願いをして、多くの事を学んだ。案内をしていただいた方には感謝したい。ただ、今年の調査は雨に悩まされ、いくつかの予定が残念ながら中止や延期になった。また、例年のように、真夏と真冬は健康面と安全を考えて、博物館での勉強会と岩石薄片の実習を行った。びわ博フェスでは活動紹介のポスターを掲示した。

「大津の岩石調査隊はしかけ」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
5月14日(日)	比叡平～長等山～三井寺付近の岩石および鉱物の観察調査(案内者:中野)	大津市長等山付近	7名
6月3日(土)	堅田丘陵を構成する古琵琶湖層群とその傾斜と断層の関係を観察し考える(案内者:服部)	堅田丘陵の複数地点	9名
7月28日(金)	岩石の顕微鏡観察のための薄片作成実習	琵琶湖博物館	4名
8月18日(金)	勉強会:大津市の相模川上流付近の調査報告(梅澤)、琵琶湖コールドロンについて(中野)、研究セミナーへの参加	琵琶湖博物館	10名
8月23日(金)	岩石の顕微鏡観察のための薄片作成実習	琵琶湖博物館	3名
10月15日(土)	田上山の岩石および鉱物の調査	田上山、アクア琵琶	10名
11月12日(日)	高島市の石田川と百瀬川付近の地形と断層の調査(案内者:この地域の研究者)	高島市	8名
12月16日(土)	大津市相模川上流域の岩石調査(案内者:梅澤)	大津市相模川上流地域	7名
2月24日(土)	岩石薄片の理論・見方の勉強会(中野)、岩石薄片作成実習	琵琶湖博物館	11名

○温故写新

連絡係:谷口雅之 担当学芸員:金尾滋史 会員数:25名

〔設立の趣旨〕 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむ人たちのはしかけグループ。主に滋賀県内における感動的な美しい生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様子を記録に残し、写真を通じて博物館活動に貢献することを主旨とする。

〔活動の概要〕 今年度は「いま、残しておきたい滋賀の風景」をテーマとして、滋賀県内の町並みの風景、気が付けば無くなってしまふような風景の撮影を行なった。これらは将来的に同場所で撮影するための起点としている。また、びわ博フェスではこのテーマに関連した風景写真の展示を行ったほか、館内の写真記録係として、それぞれのイベントの様子を撮影した。このほか、大橋コレクションの活用に向けた資料整理や博物館展示に必要な写真素材の提供、写真の撮影に関する勉強会などを行った。

「温故写新」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者数
4月9日	おでかけ撮影会～草津駅周辺の町並み～	草津駅周辺、旧草津川跡地	8名
5月27日	おでかけ撮影会～マキノ・今津の山間部～	高島市マキノ町、今津町	6名
6月27日	びわ博フェス2017での出展内容検討	博物館会議室	6名
7月8・9日	びわ博フェスでの展示および館内の記録撮影	博物館内	9名
8月19日	大橋コレクションの整理	博物館会議室	5名
9月24日	おでかけ撮影会～能登川・伊庭～	博物館会議室	10名
12月9日	写真の撮影講座	博物館会議室	11名
2月3日	大橋コレクションの整理	博物館実習室2	6名
3月13日	2017年度総会	博物館実習室2	10名

■その他の活動

- ・博物館行事や他はしかけグループの活動における写真記録
- ・博物館の行事チラシ、展示などへの写真提供
- ・レストランリニューアルへの写真提供

○暮らしをつづる会

代表：中尾京子

担当学芸員：渡部圭一

会員数：1名

[設立の趣旨] 地域の生活のあり方を考えながら地域の生活話を記録に残し、伝えていくことを目指している。

[活動の概要] 2017 年は守山市在住の漁師の方にお話を聞かせて頂きました。琵琶湖大橋ができる前と出来てからの暮らしの変化や漁の変化などを中心にお話をお聞きしました。家族の様子や暮らしの様子、地域の様子がどのように変化したか、また、お住まいの木の浜地区の生活の独自性なども興味深く聞かせていただいた。

「暮らしをつづる会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 15 日	守山の漁師さんのお話を聞く	琵琶湖博物館

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：杉山國雄

事務局長：安原 輝

担当学芸員：山川千代美

会員数：27名

[設立の趣旨] 多賀町四手で計画された 180 万年前の古琵琶湖層群調査(多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト)において、市民参加の方々を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的としている。

[活動の概要] 本年度は、活動を行う際、今後の活動に必要なことは何か、学ばなければならないことは何かなどを考えながら活動を行った。野外の調査では、古琵琶湖層が露出している河原で、河原を探索しながら、会員達自身で地層や化石の産出状況などを確認・観察した。また、“びわ博フェス”での活動紹介や、“多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第五次発掘調査”で行われたイベントのお手伝いなどで、一般の方々との交流活動も行った。室内の活動では、勉強会で行った「泥岩から微小な化石を水洗抽出する実習」を活かして、多賀町四手の発掘現場で実際に土試料を採集するところから計画を立て、微小な化石を水洗抽出する取り組みを行った。前年度までと同様、会員が相互に教えあい、共に考えながら自主的に学ぶ姿勢を維持しつつ、古琵琶湖発掘調査隊独自の活動も模索し、活動を行うことができた。

「古琵琶湖発掘調査隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 23 日	河原の探索と地層の観察・化石のクリーニング実習用泥岩のブロック採集	滋賀県・野洲川
4月 29 日	化石のクリーニング実習	琵琶湖博物館
5月 14 日	足跡化石調査のお手伝い	滋賀県・日野川
6月 10 日	古琵琶湖層群上野層の地層の観察・化石の産出状況の観察と採集	三重県・服部川
6月 20 日	びわ博フェスの打ち合わせ	琵琶湖博物館
6月 22 日	びわ博フェスの準備	琵琶湖博物館
7月 8・9 日	びわ博フェスにてポスター展示・活動紹介 (活動紹介は7月9日のみ)	琵琶湖博物館
8月 6 日	微小な化石の水洗抽出実習	琵琶湖博物館
9月 16 日～30 日	多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第五次発掘調査に参加	滋賀県犬上郡多賀町
11月 26 日	多賀の発掘現場で採集した土からの微小な化石の水洗抽出への取り組み(第1回)	琵琶湖博物館
12月 17 日	古琵琶湖層群や植物化石についての勉強会・多賀の発掘現場で採集した土からの微小な化石の水洗抽出への取り組み(第2回)	琵琶湖博物館
1月 28 日	第1回 新琵琶湖学セミナーに参加	琵琶湖博物館
1月 30 日	微小な化石を水洗抽出するための水洗ネットの作成・試験水洗	琵琶湖博物館

活動日	内 容	場 所
2月 4日	多賀の発掘現場で採集した土からの微小な化石の水洗抽出への取り組み（第3回）	琵琶湖博物館
2月 18日	第33回 地学研究発表会にて会員1名が研究発表	滋賀大学大津サテライトプラザ
3月 3日	植物化石の採集と足跡化石・地層の観察	三重県・服部川
3月 31日	昆虫化石についての勉強会・総会	琵琶湖博物館

○湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子 担当学芸員：林 竜馬 会員数：4名

[設立の趣旨] 「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざす。

[活動の概要] 子ども達に歌ってほしい琵琶湖の歌として生まれた「生きている琵琶湖」を広く知ってもらい活動をしている。琵琶湖博物館に来館した小さな子ども達に「びわこの旅」の紙芝居を使いながら、琵琶湖といきもの達との関わりを少しでも理解してもらえるように伝え、「生きている琵琶湖」がどこかで聞いたことがある歌だなと思ってもらえるようになればと活動を続けている。

「湖（こ）をつなぐ会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 3日（日）	「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
6月 11日（日）	「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「びわこの旅」・「ホテルのホッティー物語」上演	琵琶湖博物館アトリウム
7月 9日（日）	びわ博フェス2017 「生きている琵琶湖」合唱 ビービー笛演奏 紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館会議室
9月 3日（日）	「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
10月 15日（土）	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館セミナー室
12月 10日（日）	「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「びわこの旅」・「うんちくんのぼうけん」上演	琵琶湖博物館アトリウム
2月 11日（日）	「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム

○ザ！ディスカバはしかけ

担当：澤邊久美子、片岡佳孝、森 智美、片淵綾香 会員数：7名

[設立の趣旨] 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要] 2005年度にイラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修など個人から始まった活動。ディスカバリールームのリニューアルの最中もプログラムを実施した。メンバーのアイデアを持ち寄り、参加者にも楽しんでもらった。

「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

実施日	タイトル	内容
5月 14日（日）	はしかけ登録講座	グループ紹介1名
6月 10日（土） 11:30~12:00	ゲンタのたんじょうものがたり（紙芝居）	ホテルの紙芝居が復活。今年も大入りであった。参加者25名（メンバー3名）
6月 21日（水） 12:00~	傘作りとびわ博フェスの準備、練習	傘作りの練習。琵琶博フェスの打合せ（メンバー2名）
6月 25日（日） 13:30~	虹色の傘作り	初めてのプログラムであったが、たくさんの参加者があった。参加者20名（メンバー3名）
7月 9日（日） 15:30~17:00	葉っぱスタンプでオリジナルハンカチを作ろう （共同開催：緑のくすりばこ）	屋外展示の葉っぱを集めて、葉っぱのスタンプ柄のハンカチを作りをした。葉脈がきれいに写って、とても素敵なハンカチがたくさん出来あがった。参加者20名（3名）

実施日	タイトル	内容
8月 9日 (水)	イベントの日程打合せ	飛ぶタネを飛ばそう (10月予定) の日程と活動場所についての打合せ (1名)
10月 14日 (土)	飛ぶタネの準備	飛ぶタネを飛ばそう (10月) に使う材料の準備をした。(1名)
10月 15日 (日)	はしかけ登録講座	はしかけグループの活動紹介
10月 29日 (日)	飛ぶタネを飛ばそう!	秋にはたくさんのタネが実ります。風に乗って飛ぶタネを観察して、模型を飛ばしてみよう!
11月 22日 (水)	障子の張り替え	リニューアル前最後に、台所の障子の張り替えをした。(1名)
11月 25日 (土)	「はたきを作ろう!」のサポート	毎年恒例はたき作り。今年はディスカバ閉室前の最後の大掃除。参加者9組 (メンバー2名)
12月 11日 (月)	イベント準備、練習	お手玉づくりの準備。2人
1月 8日 (月祝)	お手玉をつくろう	工房で育てたジュズダマとハトムギを使って、お手玉作りをした。参加者4組、はしかけ5人
3月 12日 (月)	あづま袋イベント準備、練習	あづま袋の準備をした。はしかけ2名
3月 18日 (日)	はしかけ登録講座	活動紹介をした
3月 21日 (水祝)	あづま袋をつくろう	1枚の布から、袋を作りをする。針と糸で縫ってみよう。参加者16名、はしかけ3名

### ○里山の会

世話役：千田はる恵、寺尾尚純、古川まや子、前田博美、松里香織、宮本直興、柳原徳子、山川栄樹、  
吉井 隆 担当学芸員：山本綾美 会員数：39名

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室の  
ホスト役を通して、一般市民への里山理解を深める活動や現代における里山利用を実践している。

[活動の概要] 里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として  
開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソ  
ヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をか  
くことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と  
周辺の自然環境の中で、春の山菜料理、夏の昆虫・生物観察、秋色探し、冬の焚き火(伐採した木々を使い、  
火おこし術、花炭、焼き芋など里山の燃料を使った遊び)など四季いろいろの里山の恵みや利用を通して里  
山の価値を感じている。このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるよ  
うになり、活動地域での認知度も高まってきている。また、琵琶湖博物館内でそば、きのこ栽培など里山  
関係の企画を提案し博物館活動に参加している。

### 「里山の会」のおもな活動

活動日	内容	場所
4月 9日 (日)	里山体験教室下見	野洲市大篠原 はしかけの森
4月 16日 (日)	里山体験教室 (春)	野洲市大篠原 はしかけの森
5月 21日 (日)	春の里山遊び	野洲市大篠原 はしかけの森
6月 10日 (土)	里山観察会下見 (かわせみ自然の会)	高島市朽木
6月 17日 (土)	里山観察会 (かわせみ自然の会)	高島市朽木
6月 23日 (金)	潮干狩り	三重県津市 御殿場浜
7月 2日 (日)	琵琶博フェス準備	多賀町高取山
7月 8日 (土)	琵琶博フェス	博物館工房
7月 9日 (日)	体験教室打ち合わせ	野洲市大篠原 はしかけの森
7月 16日 (日)	里山体験教室 (夏)	野洲市大篠原 はしかけの森

活動日	内容	場所
8月11日(金)	ハンモック虫干し	博物館工房
8月26日(土)	夏の里山祭り	博物館工房
9月17日(日)	9月の里山活動(杉玉作り)	台風により中止
10月9日(月)	里山下見	野洲市大篠原 はしかけの森
10月15日(日)	里山体験教室(秋)	野洲市大篠原 はしかけの森
11月19日(日)	秋の里山遊び(竹祭り参加)	甲賀市甲賀町
同上	ドングリ苗植え付け	野洲市大篠原 はしかけの森
11月25日(土)	ソバ乾燥、草木染	野洲市大篠原 はしかけの森
12月10日(日)	ソバ乾燥、草木染	野洲市大篠原 はしかけの森
1月14日(日)	里山体験教室下見	野洲市大篠原 はしかけの森
1月21日(日)	里山体験教室(冬)	野洲市大篠原 はしかけの森
2月24日(土)	ソバ収穫祭	琵琶湖博物館アトリウム
3月3日(土)	総会、キノコ菌打ち	博物館工房

### ○植物観察の会

代表者：辻いずみ 担当学芸員：芦谷美奈子 講師：布谷知夫 会員数：12

[設立の趣旨] 2004年に開催した企画展示「～植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の準備期間中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。長年にわたり年に数回の外部観察会のみを行ってきたが、その後、2017年から会員登録し、月に1度を「定例会」として位置づけ、年に2回程度の「お出かけ観察会」を行う形となった。

[活動の概要] 4月から登録の名簿作成を行い、月に1回定例会を行った。定例会では、博物館の周りの観察、持ち寄ったものの観察、水草についての勉強会など、季節や天候によって変えながら行った。「お出かけ観察会」は、5月に瀬田公園、11月に地球市民の森で布谷先生を講師に迎えて行った。

#### 「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者数
5月14日(日)	食卓の植物学(植物形態学の基礎)	琵琶湖博物館 実習室1	7名
6月11日(日)	お出かけ観察会	大津市、瀬田公園	8名
7月2日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室1	6名
8月6日(日)	持ち寄り観察、後期の計画	琵琶湖博物館 実習室1	9名
9月10日(日)	水草の観察と見分け方	琵琶湖博物館 実習室1	8名
10月1日(日)	博物館の周りの観察	琵琶湖博物館 実習室1	5名
11月5日(日)	お出かけ観察会	守山市、地球市民の森	3名
12月3日(日)	博物館の周りの観察	琵琶湖博物館 実習室1	2名
1月11日(日)	雪のため中止		
3月4日(日)	持ち寄り観察、来年度計画	琵琶湖博物館 実習室2	10名

### ○たんさいぼうの会

会長：木原靖郎 会長補佐：津田久美子 担当学芸員：大塚泰介 会員数：23名

[設立の趣旨] 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう(単細胞)の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。今年

度は、会員が 21 世紀初頭に琵琶湖から発見した珪藻が、15 年あまりの年を経て新種記載された。また、少なくとも部分的には会の活動成果による学会等での発表が、計 4 件行われた。(下線はたんさいぼうの会会員、二重下線はたんさいぼうの会名義での発表)。

Ohtsuka, T., Kitano, D. & Nakai, D. (2018) *Gomphosphenia biwaensis*, a new diatom from Lake Biwa, Japan: description and morphometric comparison with similar species using an arc constitutive model. Diatom Research, Published Online, Taylor & Francis: <https://doi.org/10.1080/0269249X.2018.1433237>.

大塚泰介・北野大輔・中井大介 (2017 年 5 月 27 日) 琵琶湖から見つかった *Gomphosphenia* 属の新種. 日本珪藻学会第 38 回大会, 日本珪藻学会, 大森海苔のふるさと館 (東京都大田区), [ポスター発表].

服部圭治・大塚泰介・堂満華子・里口保文 (2017 年 5 月 28 日) 東海層群亀山層から産出した *Praestephanos suzuki* 類似種化石の形態観察. 日本珪藻学会第 38 回大会, 日本珪藻学会, 大森海苔のふるさと館 (東京都大田区), [口頭発表].

富 小由紀・大塚泰介 (2017 年 12 月 17 日) 滋賀県の水田の珪藻目録. 第 8 回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [ポスター発表].

富 小由紀・堂満華子・大塚泰介 (2018 年 3 月 4 日) 古琵琶湖層群蒲生層から産出した珪藻化石の分類学的検討. 地域自然史と保全研究発表会 2018, 関西自然保護機構, 大阪市立自然史博物館 (大阪市東住吉区), [ポスター発表].

現在、愛知県の鈹質土壌湿地群、藤前干潟 (愛知県名古屋市)、瀬田公園 (滋賀県大津市)、藤ヶ鳴湿原 (岡山県岡山市) などの現生珪藻植生や、三重県津市の亀山層 (鮮新世)、滋賀県犬上郡多賀町の蒲生層 (前期更新世)、京都府京丹後市久美浜町の後期更新統などの化石珪藻群集の研究を進めている。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4 月 2 日	たんさいぼうの会第 52 回総会・花見	南郷水産センター	担当：富小由紀 参加者：12 名
5 月 27・28 日	日本珪藻学会第 38 回大会	大森海苔のふるさと館	発表：服部圭治 参加者：4 名
7 月 8・9 日	みんなが夢中!? 水の中の不思議な世界	琵琶湖博物館	琵琶湖の小さな生き物を観察する会と共催 参加者：1 名
7 月 16 日	たんさいぼうの会第 53 回総会	草津市まちづくりセンター	担当：服部圭治 参加者：10 名
8 月 6 日	外来ラン藻 <i>Lyngbya wollei</i> に付着する生物の観察	琵琶湖博物館	琵琶湖の小さな生き物を観察する会と共催 参加者：2 名
10 月 9 日	たんさいぼうの会第 54 回総会	草津市まちづくりセンター	担当：木原靖郎 参加者：7 名
10 月 14・15 日	日本珪藻学会第 37 回研究集会	福井県三方上中郡若狭町	参加者：5 名
11 月 5 日	たんさいぼうの小さな旅 XX 山門湿原再び	長浜市	琵琶湖の小さな生き物を観察する会と共催 参加者：8 名
12 月 17 日	第 8 回琵琶湖地域の水田生物研究会	琵琶湖博物館	発表：富小由紀 参加者：5 名
1 月 14 日	たんさいぼうの会第 55 回総会・新年会	草津市まちづくりセンター	担当：根来健 参加者：11 名

## ○田んぼの生きもの調査グループ

担当当学芸員：鈴木隆仁 会員数：約 20 名

[設立の趣旨] 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、その生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要] 5月、6月に滋賀県各地の水田においてカブトエビ・ホウネンエビ・カイエビ類の分布調査を行い、秋までに標本の同定、採集データ登録、分布図作成などを行う。また、学会等での発表や研究論文により、調査結果の公開も行う。2017年度は、まず、分布の経年変化を観察するために調査手法の再検討を行った。決定した手法に基づいて、滋賀県各地でエビ類を観察する合同調査を2回行ったほか、瀬田・石山地区でカブトエビ類の分布の変化を確認するための合同調査を1回、補助調査を3回行った。調査はグループに分かれて車に分乗し、調査地を回りながら行った。また、合同調査および個人調査で得られたサンプルの同定会を3回、結果報告会を1回、総会を1回行った。さらに、2017年度企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」にて、展示協力を行った。

## 2017年度の調査結果

### ・広域調査の結果（山川）

全体で1593筆を調査し、約半数でエビ類が確認された。冬の間に山川代表が調査した土壌の乾燥状態を確認し付き合わせたところ、とくにホウネンエビとトゲカイエビは、冬季に湿っている田んぼよりも乾燥する田んぼに多く出現する傾向がみられた。また、アジアカブトエビやカイエビ類の集団では、サイズが大きくなるほどオスの割合が高くなる傾向がみられた。

### ・安曇川調査の結果（前田）

全体で1593筆を調査し、約半数でエビ類が確認された。安曇川の左岸にあたる新旭町で、初めてエビ類が発見された（ヒメカイエビ、ホウネンエビ）。エビが見つかったのは、安曇川流域のJR湖西線から西へ4km、東へ1kmの範囲で、冬季に土壌の湿り具合が少ない場所であった。なお、ホウネンエビは水入れの遅い田んぼに出現したが、カイエビの出現は水入れの時期に依存していなかった。

### ・瀬田調査（山川）

多くの田んぼでアジアカブトエビとアメリカカブトエビのどちらか一方が観察され、分布には地域的な偏りがみられた。一部の田んぼでは、両種が共出現した。過去のデータと重ねると、出現率が変化している筆や、逆転した筆がみられた。両種が共出現した田んぼの今後の動向が興味深い。

### ・2018年度の計画

瀬田・石山地区：アジアカブトエビとアメリカカブトエビが田んぼごとにすみわけている地区や、共出現する田んぼを中心に、全員で調査する（6月10日（日））。

広域調査：2017年に調査できなかった湖北地域を中心に、5月中旬から6月上旬にかけて2人1組で別々に調査を行う。班分けは、各人の参加予定を見て決定する。サンプル収集後、博物館にて同定を行う。

新人研修：新加入メンバーがあれば、博物館周辺で研修を行う。

### 「田んぼの生きもの調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 8日	調査の準備：エビ類の見分け方、探し方の講習と、調査で使用する瓶などの準備を行った	琵琶湖博物館	15名
5月 28日	3チームに分かれ、各担当地点の調査を行った。いずれの地点もある程度のエビ類の出現が確認できた	草津・守山・近江八幡、湖南・日野・竜王、東近江市	9名
6月 3日	エビ類講習会：新人へエビ類の調査方法、見分け方の講習を行った	大津市田上	2名

活動日	内 容	場 所	参加者
6月 4日	3 チームに分かれ、各担当地域の調査を行った。当初彦根の調査も予定していたが、ブルーインパルス来訪による交通規制があったため、後日とした。野洲、栗東にて非常に多くのエビ類が発見された	高島・今津・マキノ・塩津、伊吹・米原、野洲・栗東	9名
6月 6日	前日に中止となった彦根方面の調査を行った	彦根市・守山市	2名
6月 10日	雨の予報があったため、補助調査として先に調査を行った	大津市瀬田	2名
6月 11日	予定通りに瀬田石山方面の合同調査を行った	瀬田・石山	9名
7月 15日	瀬田・石山調査で採集したカブトエビ類の同定作業を行った	琵琶湖博物館	2名
8月 20日	サンプル同定会：個人調査のサンプルも含めて同定を行った	琵琶湖博物館	10名
9月 9日	サンプル同定会：個人調査のサンプルも含めて同定を行った	琵琶湖博物館	12名
10月 29日	サンプル同定会：個人調査のサンプルも含めて同定を行った	琵琶湖博物館	5名
3月 18日	報告会：本年度の調査結果の報告、および来年度の調査の実施予定を決定した	琵琶湖博物館	9名

#### ○タンポポ調査はしかけ

代表者：不在

担当学芸員：芦谷美奈子

会員数：8名

[設立の趣旨] 「タンポポ調査・西日本2015」の実施に合わせて、2013年度に設立された。当初は、2年間の期間限定で設立されたグループであったが、タンポポについて深く探求するために、2016年度以降もグループを継続することとした。

[活動の概要] 2017年度は、「わくたん」への協力、その他個人がタンポポを観察するなどの活動を行った。個別に調査活動を行っているが、「わくたん」以外で集まる行事は実施しなかった。

#### ○琵琶湖の小さな生き物を観察する会

会長：渡辺圭一郎

担当学芸員：大塚泰介・鈴木隆仁

会員数：20名

[設立の趣旨] 私たちの身近に住んでいるが普段見ることの出来ない、琵琶湖などの小さな水生生物を観察・記録する。

[活動の概要] 琵琶湖とその周辺水域の小さな水生生物を調査して観察・記録することを目的としている。調査対象は特定の生物群に限定せず、単細胞・多細胞、動物・植物・原生生物、浮遊性・付着性を問わない。今のところ月に1回集まって、琵琶湖沿岸の小さな生き物を採集し、琵琶湖博物館で顕微鏡観察している。

「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月 7日	採集・観察会	烏丸半島湖岸 琵琶湖博物館	4名
6月 3日	イタチムシ講習会	琵琶湖博物館	6名
7月 8日・9日	琵琶博フェスでのワークショップ	琵琶湖博物館	5名
8月 6日	観察会（リングビアの付着生物）	琵琶湖博物館	9名
10月 8日	採集・観察会（ワムシの咀嚼板）	琵琶湖博物館	4名
11月 5日	たんさいぼうの会と合同で 山門湿原の調査	山門湿原	1名
1月 13日	採集・観察会 （琵琶湖・山門湿原サンプル）	烏丸半島湖岸 琵琶湖博物館	5名
2月 18日	採集・観察会（ワムシなど）	琵琶湖博物館	3名
3月 21日	総会・採集・観察会 （琵琶湖サンプル、キノコの孢子など）	琵琶湖博物館	5名

〇びわたん

担当学芸員：奥野知之・小林偉真

会員数：27 名

[設立の趣旨] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（通称：わくたん）」事業は、第2土曜日の午後に行われており、来館者に滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対するの興味・関心を深めてもらうことをねらいとしている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに主体的に関わっている。今年度は、新たなプログラムとして6月イベント「ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！」を行った。また、他のイベントから学ぶ目的で10月になにわほねほね団に来ていただき、10月イベント「骨にふれてみよう！」を行い、イベントを行う上での新たな視点を学ばせていただいた。今後も新たな取り組み（イベント）を考えていくために、来年度は、他のはしかけとコラボする企画を計画している。

「びわたん」のおもな活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内 容	一般参加者	びわたん
4月 2日	春の草花でしおりを作ろう！	49名	11名
5月 13日	タンポポ調査に出かけよう！	18名	9名
6月 10日	ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！	41名	11名
7月 8日	水草を観察しよう！	14名	13名
9月 9日	葉っぱの形に注目しよう！	26名	15名
10月 14日	骨にふれてみよう！	17名	15名
11月 11日	秋の色探しをしよう！	26名	11名
12月 9日	綿にふれてみよう！	15名	14名
1月 13日	お魚モビールを作ろう！	52名	9名
2月 10日	昔のくらしを体験しよう！	20名	8名
3月 10日	琵琶湖の湖底をのぞいてみよう！	39名	11名

〇ほねほねくらぶ

会長：西村 有巧 副会長：榎本真司、納屋内高史 広報担当：宇野 翔 担当学芸員：高橋 啓一  
 会員数：大人22名 子ども2名 計24名

[設立の趣旨] 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要] 2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれるホ乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月1～2回の例会が活動の中心である。2017年度は、普段の活動として標本製作を続けながら、博物館のリニューアル後の大人のディスカバリールームで使用される資料動画の撮影のお手伝いを行ったり、例年同様、琵琶湖博物館で開催された、琵琶博フェス2017に参加、来館者との交流活動を行いました。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	9日 アライグマの除肉、標本データの資料整理	琵琶湖博物館
	29日 アナグマの除肉、シカの肢の解剖、カメの骨の組み立て	琵琶湖博物館
5月例会	14日 アナグマの除肉、ネコの骨のクリーニング作業、フナの解剖、はしかけ登録講座内での活動紹介	琵琶湖博物館

活動日		内容	場 所
5月例会	27日	ハクビシンの計測、皮剥ぎ、イタチの計測、皮剥ぎ、除肉、フナの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
6月例会	11日	ハクビシンの皮剥き、イタチの皮剥き、イタチの除肉、キジの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	24日	スズメの幼鳥の標本製作、フナの骨のクリーニング	
7月例会	9日	琵琶湖博物館で開催されたビワ博フェスにおいて、ワークショップ「骨に触ってみよう」を行いました	琵琶湖博物館
	22日	イタチの解剖、カラスの解剖、フナの組立	
8月例会	6日	イタチの解剖、ハクビシンの解剖、カラスの解剖	琵琶湖博物館
	26日	カルガモ、イタチ、カラスの解剖、フナの組立、シカとコウライキジとイタチの骨の洗浄	
9月例会	9日	カルガモの解剖、ハクビシンの解剖、タヌキの骨のクリーニング、冷凍試料の確認、リスト制作	琵琶湖博物館
	23日	イタチの解剖、ハクビシンの解剖	
10月例会	14日	琵琶湖博物館で行われた、わくわく探検隊のプログラム「骨に触れてみよう！」に参加、見学しました	琵琶湖博物館
	15日	はしかけ登録講座内での活動紹介	
11月例会	11日	カルガモの解剖、イタチの解剖、カラスの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	26日	イタチの解剖、フナのクリーニング、タヌキの骨のクリーニング、雉の骨の整理作業	
12月例会	16日	大人のディスカバリールーム用の資料動画の撮影	琵琶湖博物館
	24日	タヌキの骨を組み立てる作業	
1月例会	7日	ハクビシンの解剖、タヌキの組立作業	琵琶湖博物館
	13日	大人のディスカバリールーム用の資料動画の撮影	
2月例会	4日	ハクビシンの解剖、タヌキの解剖	琵琶湖博物館
	17日	ハクビシン2体の解剖、ゲンゴロウフナのクリーニング、オオバンの解剖	
3月例会	18日	タヌキの解剖、ルリビタキの解剖、イノシシの骨の整理、はしかけ登録講座内での活動紹介	琵琶湖博物館
	31日	ハクビシンの解剖、リスザルの解剖	

### ○緑のくすり箱

会長：吉野まゆみ

担当学芸員：大久保実香・大槻達郎

会員数：24名

[設立の趣旨] 薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト8名で設立したグループである。薬用植物だけに限らず、身の回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

[活動の概要] 今年度も「身近にある薬草の利用法」をテーマに、実践と情報交換を行った。ヨモギについては、昨年から引き続き、いろいろな利用法を研究できたと思う。また藍の種まきや、柚子胡椒作りなど、今年初めて実践・交流したものもある。今年度は、植物に慈しみ、自然の大切さを知る活動も行った。野草の料理や、葉っぱでスタンプ作り、植物観察会、ミツバチの映画の上映など、植物に親しみ、暮らしを豊かにするヒントをもらえた活動を行うことが出来た。

### 「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
3月27日	藍の種まき	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：柳原 参加者：7名
4月22日	食べられる野草の採取とヨモギうどんと蒸しパン作り	琵琶湖博物館 野外・実習室2	担当：吉野千 参加者：15名

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
5月23日	ドクダミの摘み取りともぐさ用のヨモギの刈り取り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：堀田・吉野千・山本 参加者：6名
6月25日	ビワの葉療法「ビワの葉・種を使って体のお手当やエキス、お茶作り」	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：加藤・深田・大羽・疋田 参加者：10名
7月9日	びわ博フェスのワークショップ 「葉っぱのスタンプでオリジナルハンカチを作ろう！」	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：全員 参加者：15名
9月18日	次回の活動と藍の葉っぱ染めについての意見交流	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：吉野ま 参加者：6名
11月19日	朽木の森で植物観察会	高島市朽木の森	担当者：山本・草加 参加者：8名
12月10日	薬草ピザ作りと柚子胡椒作り	琵琶湖博物館 実習室2	担当者：吉野ま・田井中 参加者：10名
1月26日	七草蒸しパン作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：堀田・山本・久保真 参加者：6名
2月10日	もぐさ作りとミツロウクリーム作り ミツバチの映画の上映会	琵琶湖博物館 実習室2	担当者：吉野千・吉野ま・熊谷・草加
3月27日	シノブヒバの蒸留体験 年度末総会	琵琶湖博物館 生活実験工房 研究棟研究交流室	担当者：吉野ま 参加者：7名

○森人（もりひと）

代表者：福岡敏雄

担当学芸員：林 竜馬

会員数：15名

[設立の趣旨] 2015年度に「はしかフェ」の中で屋外展示の環境整備の一環として樹木説明版の設置、屋外展示のガイドツアー、勉強会や観察会などを実施した。引き続き屋外展示の活用を進めていくために森人（もりひと）として「はしかけ」に登録し2016年度から活動を開始した。

[活動の概要] 「太古の森、縄文・弥生の森の保全と観察をもとに森人同志および来館者との交流を図る。」を目的とし、ほぼ月2回の活動を行っている。

「森人」のおもな活動

月日	内 容	場 所	参加者
4月8日（土）	動物カメラ電池交換と森の観察会と活動方針	生活実験工房、屋外展示の森	3
4月22日（土）	動物カメラ確認と森の観察会	生活実験工房、屋外展示の森	5
5月14日（日）	動物カメラ電池交換、毎木調査実習、樹幹トレイル案内板検討	生活実験工房、屋外展示の森	4
5月14日（日）	はしかけ登録講座での森人の説明	セミナー室	1
5月21日（日）	朽木の森ユリノキ祭りとお観察会	高島市朽木麻生	2
6月3日（土）	動物カメラ電池交換、樹幹トレイル案内板検討	生活実験工房、屋外展示の森	5
6月24日（土）	外部観察会	大津市上田上桐生町	4
7月8日（土）	琵琶博フェス（ポスター展示、森のガイドツアーなど）	アトリウム、屋外展示の森	5
7月22日（土）	竹の伐採	屋外展示（落葉広葉樹の森）	2
8月12日（土）	樹冠トレイルに設置する案内板の打ち合わせ	生活実験工房	2
9月9日（土）	わくわく探検隊「葉っぱの形に注目しよう！」に参加	屋外展示の森	5
	樹幹トレイル案内板の作業分担と今後の予定	交流室	
10月7日（土）	樹冠トレイルに設置する案内板の原稿案検討	生活実験工房	3
10月15日（日）	はしかけ登録講座での森人の説明	セミナー室	1

月日	内 容	場 所	参加者
11月11日(土)	わくわく探検隊「秋の色探しをしよう！」に参加	屋外展示の森	6
	樹冠トレイルに設置する案内板の原稿案検討	生活実験工房	
11月18日(土)	JICAに森人活動の説明	生活実験工房、屋外展示の森	2
12月9日(土)	樹冠トレイルに設置する案内板の原稿案検討	研究交流室	5
12月23日(土)	竹の伐採、動物カメラの確認	屋外展示の森、研究交流室	7
1月13日(土)	動物カメラの確認、樹冠トレイル関連など	生活実験工房	7
1月24日(土)	クズ、キカラスウリ伐採作業	栗東市安養寺	6
3月10日(土)	樹冠トレイルに設置する案内板の検討	研究交流室	5
3月18日(日)	はしかけ登録講座での森人の説明	セミナー室	1
3月24日(土)	森の観察会&樹木説明版の保守など	生活実験工房	5

○ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」

担当：澤邊久美子

会員数：4名

[設立の趣旨] 幼児期の子どもと保護者が琵琶湖博物館生活実験工房周辺の田んぼ、畑、森などをはじめとする自然環境内で、五感を使って自然に触れ、その楽しさ、面白さを感じ、原体験となるような感動を伝えることを目指している。

[活動の概要] 2012年環境学習センターの「環境ほっとカフェ」イベントとして始まり、2015年度には「親子自然遊びの広場」として開催し、2016年9月からはしかけ活動として立ち上げました。毎月第3水曜日に、約10組弱の親子が集い、ルーペを使って様々な自然を見たり、ドングリを拾ったり、畑の作物を調理したり、五感を使って親子が自然に触れて、楽しめるように実施している。おおよそ2歳～4歳の幼児と保護者が楽しんでいるが、時には0歳児や6歳児、おじいちゃんおばあちゃんもおられ、年齢幅広く、自然で遊んでいる。夏休みのびわ博フェスでは、普段遊んでいる子どもたち以外に小学生上の子どもたちもたくさん参加してくれ、お菓子の箱に自然物をならべる宝箱づくりをして、ちこあその面白さを伝える機会となった。本年度は神戸大学との共同研究として子どもや保護者の声を録音し、自然物や展示物と子どもの成長を比較調査した。結果、日本造園学会関西支部賞を受賞することができた。

「ちこあそ」のおもな活動

実施日	タイトル	内容
4月19日(水) 10:00～14:00	春真っ盛り！あたたかい森と畑と田んぼで遊ぼう！ ちこあそ4月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー3人、幼児8人、保護者7人、学生1名
5月17日(水) 10:00～14:00	雨と晴れごとに、成長する自然をじっくりみてみよう ちこあそ5月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、幼児8人、保護者8人、学生1名
6月19日(水) 10:00～14:00	雨でも遊ぼう ちこあそ6月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、幼児5人、保護者5人、学生1名
7月8日(土) 10:00～14:00	びわ博フェス 森の宝箱をつくろう！	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども28人、保護者18人、学生1名
7月19日(水) 10:00～14:00	夏をいっぱい感じよう ちこあそ7月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など参加者：メンバー4人、子ども10人、保護者7人、学生1名
9月20日(水) 10:00～14:00	台風がすぎて、少し秋の気配の自然であそぼう ちこあそ9月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など参加者：メンバー4人、子ども6人、保護者6人、学生1名

実施日	タイトル	内容
10月18日(水) 10:00～14:00	だんだん自然が色づき、秋の気配です ちこあそ10月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験 など 参加者：メンバー4人、子ども12人、保護者10人、学生1名
11月20日(水) 10:00～14:00	木々の葉っぱも色づき始めました。秋ですよ。 ちこあそ11月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験 など 参加者：メンバー4人、子ども15人、保護者13人、学生1名
12月20日(水) 10:00～14:00	寒い風もへっちゃら、外で遊ぼう ちこあそ12月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験 など 参加者：メンバー4人、子ども15人、保護者11人、学生1名
1月17日(水) 10:00～14:00	寒い冬だから、楽しめるものがいっぱいだよ ちこあそ1月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験 など 参加者：メンバー4人、子ども7人、保護者9人、学生1名
2月14日(水) 10:00～14:00	立春は過ぎたけど、見つかるかな？ ちこあそ2月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験 など 参加者：メンバー4人、子ども15人、保護者12人、学生1名
3月21日(水) 10:00～14:00	春だよ！生き物たちも目を覚ましてますよ！ ちこあそ3月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験 など 参加者：メンバー4人、子ども11人、保護者9人、学生1名

### ○近江 巡礼の歴史勉強会

世話役：福野憲二、吉井 隆、関谷和久 担当学芸員：橋本道範、渡部圭一 会員数：3名

[設立の趣旨] 2017年3月、近江の社寺巡礼について、その歴史的背景や現状確認を視野に入れ調査を行い、また、宗教関係者、郷土史家、教育関係者、行政関係者など各種専門分野と勉強会、地域見学会などを行うことを目的として「近江 巡礼の歴史勉強会」を発会。「近江の祈り」研究の一つとして、甲賀市で発見された福野家古文書「甲賀准四国設立由来」と「朱印帳」をもとに写し四国八十八箇所霊場の調査活動(注)に着手する。

(注)甲賀准四国八十八箇所は、滋賀県の四国巡礼として明治45年に発願された唯一の「写し四国八十八霊場」である。真言宗の寺院だけでなく宗派を超えた組織を構成していることは特筆すべきことであるが、現在は残念ながら霊場巡礼の慣習が薄れ、その存在も忘れられかけている。しかし、今も多くの札所には掛額や弘法大師像、札所の石碑などが残されており、その現状を調査し記録にとどめることに意義があると考ええる。

[活動の概要] ①「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した活動を主とし、一ヵ寺ごとに訪問し、現状を聞き取り一次調査した。②調査済み寺院を地図上にマッピングし分布図をドラフト作成した。③近江の巡礼に興味を持つ一般人を含め参加者9名で第一回意見交換・勉強会を開催した。

#### 「近江 巡礼の歴史勉強会」のおもな活動

活動日	内容	場所
5月 6日	発起人の永雲寺の訪問調査・住職と面談	甲賀市土山町
5月 18日	杉谷息障寺の訪問と石碑調査	甲賀市甲南町
5月 29日	甲賀准四国のマッピング	甲賀市水口町
6月 7日	和野長福寺の訪問と石碑調査	甲賀市水口町
6月 26日	磯尾医王寺の訪問と石碑調査	甲賀市甲南町
7月 9日	甲賀・甲南方面14ヶ寺の訪問と石碑調査	甲賀町・甲南町
7月 11日	土山方面16ヶ寺の訪問と石碑調査	甲賀市土山町
7月 12日	甲南・水口方面10ヶ寺の訪問と石碑調査	甲南町・水口町
7月 17日	水口・土山9ヶ寺の訪問と石碑調査	水口町・土山町
7月 20日	湖南市方面12ヶ寺の訪問と石碑調査	湖南市

活動日	内容	場所
7月 22日	調査結果のまとめ	甲賀市水口町
7月 24日	信楽4ヶ寺と山上大師堂の訪問と石碑調査	信楽町・水口町
8月 17日	調査結果の報告と打ち合わせ	琵琶湖博物館
9月 3日	「西国三十三所観音巡礼の世界」講演会を聴講	安土城考古博物館
9月 26日	勉強会を開催（9名参加）	琵琶湖博物館
11月 6日	檜尾寺文珠院の訪問調査、住職と面談	甲賀市甲南町
11月 13日	稗谷安楽寺の訪問調査、住職と面談	甲賀市甲南町
12月 11日	甲賀准四国発願者墓所の記念碑調査	甲賀市甲南町
12月 20日	檜尾寺文珠院の再訪調査、住職と面談	甲賀市甲南町
12月 25日	稗谷安楽寺の再訪調査、住職と面談	甲賀市甲南町
2月 25日	飯道山ハイキングと飯道寺・広徳寺の訪問調査	信楽町・水口町
3月 3日	「飯道山と甲賀の信仰」史料展を開催	貴生川公民館

### ○虫架け

会長：梶田聡子 担当学芸員：八尋克郎 会員数：11人

[設立の趣旨] 昆虫が好きな人が集まって、滋賀県内の昆虫の分布調査を行うことを大きな目標にしている。また、採集方法等講座の開催、昆虫の分類等の講座の開催、昆虫標本の作り方教室の開催、昆虫についての基本知識の周知、博物館によるイベントの後援を行っていかうと考えている。

[活動の概要] 今年度はグループの立ち上げの年であることから、まず、今年度の活動計画について話し合いを行った。野外活動としては、高島や長浜など湖北方面、東近江市、栗東市、琵琶湖博物館周辺の昆虫類の調査を行った。また、蝶の展翅の方法を学ぶほか、生活実験工房で行われた「田んぼ体験（昆虫採集）」の講座に協力した。

#### 「虫架け」のおもな活動

月日	内容	場所	参加者
3月 12日	発足		
4月 15日	運営会議 2017年度の活動計画について話し合った	琵琶湖博物館生活実験工房	6名
5月 4日	野外調査 昆虫観察、採集	長浜市余呉町	7名
6月 17日	室内講座 蝶の乾燥標本の軟化展翅について講義を受け、実習	琵琶湖博物館生活実験工房	8名
6月 24日	野外調査・灯火採集 朽木の昆虫分布調査 第1回 日中は気温が高すぎたためか、観察できた昆虫はやや少なめであった	高島市朽木	7名
7月 22日	野外調査・灯火採集 朽木の昆虫分布調査 第2回 灯火採集ではガ類、甲虫類等、多くの種類を確認できた	高島市朽木	8名
7月 23日	生活実験工房の昆虫講座の協力 たくさんの親子が、生活工房の田んぼや周辺の昆虫を、熱心に観察・採集した	琵琶湖博物館	8名
8月 19日	野外調査・灯火採集 朽木の昆虫分布調査 第3回 トンボ類やバッタ類を多く観察・採集	高島市朽木	9名
9月 24日	野外調査・灯火採集 朽木の昆虫分布調査 第4回 さまざまな種類の昆虫を見ることが出来た	高島市朽木	8名
11月 3日	オサムシの採集・観察 「オサ堀」という方法について勉強し実習した	栗東市荒張	11名
12月 3日	蝶の卵探しと採集および越冬中の昆虫探し、ミドリジミ類の蝶の卵を何種類か確認できた	東近江市	8名

月日	内容	場所	参加者
1月 27日	虫の観察と、2018年の活動の相談 主に土の中にいる昆虫を観察し、2018年の活動計画などを話し合った	琵琶湖博物館	7名
2月 24日	冬の虫の採集と観察 博物館周辺にいる冬の虫を探し顕微鏡で観察した	琵琶湖博物館	9名
3月 18日	はしかけ登録講座での説明	琵琶湖博物館	5名

## はしかフェ

今年度のはしかフェは、第2期リニューアルの情報はしかけ会員に発信することを目的として計5回実施した。第2期の目標は、「交流空間」のリニューアルということで、新展示によって広がる交流空間でのあらたな交流活動を一緒に考え、一緒につくる場とした。とくに、はしかけ会員があらたな展示空間をどう使うことができそうか一緒に考えた。

このほか、新会員となったはしかけ会員間、違うグループのはしかけ会員間の交流も意図して、自由な交流時間をもった。生活実験工房のまわりで採れた食材で飲食したり、あらたにできるにおい展示の試作を経験したりして、これからの博物館活動を活発に話し合う良い時間を学芸員とはしかけ会員で持つことができた。

### 「はしかフェ」の活動記録

活動日	内容	参加者数
5月 14日	大人も楽しむ知的空間「おとなのディスカバリー」について	23名
7月 8日	はしかけ会員からの質問、相談対応	順次対応
10月 15日	小グループ向け体験展示空間「わくわく体験スペース」について	15名
12月 20日	子どもと大人が一緒に楽しむ「ディスカバリールーム」について	10名
3月 18日	感動をお持ち帰りいただく「ミュージアムショップ」、琵琶湖を味わう「ミュージアムレストラン」について	13名

## 地域交流活動への支援

地域や企業、大学などからの講義や観察会の講師依頼などを、地域連携事業として受けている。依頼者のニーズに応える形で講義・観察会等のテーマを絞り込み、当該分野の学芸員を講師にあてることで、学芸員の専門性を活かし、依頼者の今後の活動に資することを目指している。琵琶湖博物館では地域連携事業を、地域の人たちとの共同活動の足掛かりとして捉えている。

2017年度は、館内では44件・参加者1,743名、館外では45件・参加者2,754名の活動実績となり、件数・参加者数ともに館外が館内を上回った。

### (1) 博物館内での支援事業

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
4月 6日	日本弁護士連合会	外来種問題等の琵琶湖における諸問題	大塚泰介	33
4月 30日	TANAKAMI こども環境クラブ	琵琶湖のプランクトン観察	鈴木隆仁	5
5月 24日	草津市環境物産協会	淡海環境ボランティアガイド連絡協議会交流研修会	山川千代美	37
5月 25日	レイカ大学OB会「みどりの会」	内湖の干拓の歴史について	下松孝秀	22
5月 27日	地球環境子ども村 (亀岡市)	琵琶湖の外来水草について	芦谷美奈子	30
6月 24日	TANAKAMI こども環境クラブ	琵琶湖のプランクトン観察	鈴木隆仁	8
6月 25日	近畿大学農学部水産学科	琵琶湖および水産に関する講義	松田征也	14

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
6月 25日	豊橋市自然史博物館	ボランティア研修会(琵琶湖博物館ガイドダンス/バックヤードツアー)	大槻達郎 里口保文	35
6月 27日	明治大学農学部藤栄研究室	琵琶湖畔水田における生物の多様性	大塚泰介	12
7月 1日	びわこ成蹊スポーツ大学	魚のゆりかご水田とは?	大塚泰介	68
7月 6日	彦根市立南地区公民館	南彦根の歴史と民俗	渡辺圭一	50
7月 19日	笠縫東学区まちづくり協議会	葉山川の秘密	北井剛	21
8月 2日	南津田環境保全協議会	琵琶湖の生物の生息状況の観察と学習	松田征也	29
8月 5日	三上環境保全会	滋賀の農業環境と琵琶湖のかかわり	下松孝秀	60
8月 10日	東海大学海洋学部水産学科	琵琶湖の生態系や生物相の変遷に関する講義・見学	松田征也	38
8月 17日	神戸市西区伊川谷町 伊川を愛する会	琵琶湖に流れる川に棲むサカナについて	桑原雅之	22
8月 18日	天台宗務庁	体験学習プログラム「ヨシ笛をつくろう」	植村・草加	28
9月 3日	徳島県那賀町商工会	オオクチバスとブルーギルの生態・駆除・利用	金尾滋史	14
9月 12日	愛知聖徳大学	琵琶湖博物館の概要・特色について	妹尾裕介	83
9月 26日	神戸大学大学院人間発達環境研究科	学芸員・博物館の役割について、動物・環境収蔵庫の見学	澤邊久美子	4
9月 29日	龍谷大学農学部1回生	滋賀県の農業・農政について	下松孝秀	205
9月 29日	日本環境アセスメント協会中部支部長	日本環境アセスメント協会中部支部・野外セミナー	松田征也	30
10月 5日	たかつき市民環境大学	琵琶湖の近年の水質とプランクトンの変化	大塚泰介	20
10月 6日	龍谷大学農学部2回生	滋賀県の農業・農政について	下松孝秀	205
10月 6日	京都大学農学部資源生物科学科	琵琶湖博物館の水田生物研究～魚のゆりかご水田を中心に	大塚泰介	43
10月 14日	NPO 法人びわこ豊穰の郷	守山の川に棲む貝からみる水辺環境	松田征也	20
10月 21日	海と日本プロジェクト in 滋賀県 実行委員会・びわ湖放送(株)	「みずの守り人マップ」への助言	大塚泰介 金尾滋史	38
10月 24日	草津市国際交流協会	米国ミシガン州ポンティアック市中学生に対する講演:琵琶湖の環境	戸田 孝	26
11月 16日	滋賀県立大学環境科学部 環境政策・計画学科	湖と人との共存関係に寄与する仕事についての探求	楊 平	50
11月 16日	愛知県豊橋市伊古部町 高豊土地改良区	琵琶湖水の農業利用について	下松孝秀	70
11月 19日	NPO 法人自然と緑 第23期自然大学	プランクトン採集と顕微鏡観察	大塚泰介 鈴木隆仁	60
11月 25日	ダイニックアストロパーク天究館	プランクトンの観察	鈴木隆仁	16
12月 1日	滋賀県高等学校理科教育研究会	カワウの生態および琵琶湖への飛来・定住による滋賀の生態系への影響等	亀田佳代子	20
12月 2日	愛知県一宮市 びおっこの会	琵琶湖に棲む生き物、およびカヤネズミについて	澤邊久美子	10
12月 12日	レイカディア大学びわこ環境学科	「近江の暮らしと水に学ぶ」研究調査・カワト等に関する調査及び研究について	楊 平	5
1月 13日	びわこ学院大学	滋賀の環境	金尾滋史	40
1月 18日	レイカディア大学同窓会大津支部	琵琶湖の固有な魚たちの歴史と現状	田畑諒一	30
1月 21日	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科	琵琶湖博物館の展示紹介・解説・役割について	金尾滋史	14

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
2月 8日	南草津歴史街道くらぶ	琵琶湖の誕生について	里口保文	26
2月 10日	京都外国語大学校友会	持続可能なびわ湖環境に向けての課題	大塚泰介	30
2月 15日	ライオンズクラブ国際協会 レオ 335 複合地区	外来水草除去の現状	芦谷美奈子	42
2月 20日	成安造形大学	琵琶湖の民俗史・特別講義	橋本道範	90
3月 3日	高島市いまづ自然観察クラブ	滋賀県の昆虫類の分布と変遷	八尋克郎	15
3月 7日	滋賀県レイカディア大学草津校	琵琶湖の生態系・あゆ・プランクトン	大塚泰介	25

## (2) 地域での支援活動

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
4月 15日	TANAKAMI こども環境クラブ	田上・天神川の中の生き物探し	大津市	柘永一宏	30
4月 23日	北九州市立自然史・歴史博物館	びわ湖博士講演会	北九州市	金尾滋史	250
4月 26日	堅田観光協会	堅田と堅田鮎の歴史	大津市	橋本道範	40
5月 27日	TANAKAMI こども環境クラブ	田んぼのいきもの図鑑をつくろう！春の巻	大津市	澤邊久美子	30
6月 3日	栗東市教育委員会	ホテルの学習	栗東市	柘永一宏	60
6月 5日	滋賀県農政水産部農政課	「魚のゆりかご水田」の生き物解説	東近江市	大塚泰介	30
6月 7日	ヤンマーミュージアム	屋上ビオトープ維持・管理に関する助言	長浜市	澤邊久美子	10
6月 13日	大津市逢坂小学校	エコスクール支援委員会	大津市	松田征也	10
6月 17日	TANAKAMI こども環境クラブ	田んぼのいきもの図鑑をつくろう！夏の巻	大津市	澤邊久美子	30
6月 17日	せせらぎの郷	魚のゆりかご水田生きもの観察会	野洲市	金尾滋史	200
6月 18日	栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会	魚のゆりかご水田生きもの観察会	東近江市	大塚泰介	150
6月 23日	旭化成住工株式会社 本社・滋賀工場	生物多様性について 旭化成住工 RC 大会	愛知郡愛荘町	八尋克郎	300
7月 7日	大阪産業大学	琵琶湖と博物館	大東市	楊平	100
7月 8日	浅井歴史民俗資料館・あざい歴史の会	明治の地籍図から見る村の姿	長浜市	橋本道範	40
7月 12日	東山高校(琵琶湖保全再生)	学芸員の仕事	京都市	妹尾裕介	55
7月 16日	守山市勝部自治会	第9回かつべ水フェスタ 魚とりの際の魚の記録と最終の総括	守山市	金尾滋史	235
7月 17日	琵琶湖河川事務所	フィールドに行こう！魚に会ってみよう！～琵琶湖・瀬田川の魚たち～	大津市	田畑諒一	100
7月 25日	大津びわこ比叡LC	琵琶湖の固有種とその現状について	大津市	金尾滋史	25
7月 26日	守山市下之郷史跡公園	弥生時代の魚・貝、河川水路で魚つかみと観察	守山市	松田征也	20
7月 30日	「七夕の里」よつぎ	生きもの観察会での同定および観察指導	米原市	下松孝秀	45
8月 1日	京都大学総合博物館	縄文土器ワークショップの実施・準備 (1)	京都市	妹尾裕介	27
8月 7日	守山市下之郷史跡公園	環濠の魚つかみと放流について	守山市	松田征也	20
8月 8日	快適環境づくりをすすめる会	川の生き物観察会	彦根市	金尾滋史	30

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
8月25日	五個荘中学校区教育研究会	「湖と人間」～湖と人の共存関係を考える～	東近江市	金尾滋史	90
8月26日	TANAKAMI こども環境クラブ	田んぼのいきもの図鑑をつくらう！秋の巻	大津市	澤邊久美子	30
9月16日	京都大学総合博物館	縄文土器ワークショップの実施・準備 (2)	京都市	妹尾裕介	20
10月7日	京都大学総合博物館	縄文土器ワークショップの実施・準備 (3)	京都市	妹尾裕介	24
10月14日	京都大学総合博物館	縄文土器ワークショップの実施・準備 (4)	京都市	妹尾裕介	25
10月19日	滋賀県精神福祉保健協会	琵琶湖の生い立ちについて	大津市	里口保文	15
10月21日	京都大学大学院地球環境学 堂	京都大学地球環境フォーラム 菌の香りとカビの味	京都市	橋本道範	30
10月29日	ブックインとっとり	「ふなずし」研究のこれまでとこれから	鳥取市	橋本道範	100
11月11日	株式会社寺嶋製作所	QC大会、社員研修会	東近江市	松田征也	150
11月19日	里環境の会 OPU	第11回さとかん環境職業説明会「学芸員の仕事について」	堺市	澤邊久美子	55
11月19日	琵琶湖保全再生課	湖上で学ぶ！琵琶湖体感・体験クルーズ	琵琶湖上	橋本道範	80
12月9日	大阪府立弥生文化博物館	調理容器からみた弥生前期文化	和泉市	妹尾裕介	170
12月12日	ヤンマーミュージアム	ヤンマーミュージアム屋上ビオトープ維持・管理に関する助言(第6回)	長浜市	澤邊久美子	10
2月4日	滋賀県危機管理センター	第11回淡海の川づくりフォーラム(公開選考方式のワークショップ)	大津市	金尾滋史	100
2月4日	滋賀の緑創造実践センター	第3回プロフェッショナルセミナー「プロの仕事や生き方をのぞいてみよう」	近江八幡市	澤邊久美子	60
2月10日	TANAKAMI こども環境クラブ	田んぼの生き物図鑑を作ろう！冬の巻	大津市	澤邊久美子	15
2月15日	大津市立逢坂小学校	第2回エコスクール支援委員会	大津市	松田征也	10
2月15日	国立環境研究所琵琶湖分室	国立環境研究所琵琶湖分室セミナーにおける講演	大津市	田畑諒一	10
2月28日	積水化成工業株式会社	生物多様性と企業	甲賀市	八尋克郎	63
3月6日	米原市役所 経済環境部環境 保全課	米原市天野川ピワマス遡上プロジェクト 小学5年生・環境学習講演	米原市	桑原雅之	30
3月29日	滋賀県農政水産部農政課	伝統的琵琶湖漁業について	大津市	橋本道範	80
3月31日	京都市動物園 種の保存展示 課	琵琶湖疏水とイチモンジタナゴ	京都市	松田征也	30

### (3) 質問対応

博物館利用者からの質問や疑問、要望や相談は、直接受け付ける「質問コーナー」と、いつでもどこからでも受け付ける通信網（電子メール等）を利用した「Query」で対応している。

#### 1) 質問コーナー

開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを行っており、図書閲覧室の一角に「質問コーナー」を設置し、博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けている。質問コーナーに学芸職員が常駐する

ことで、利用者からの質問に迅速に応えることができ、専門的な知識を直接伝えることで利用者が自ら調べることができることを応援している。また、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっている。対応学芸職員が日替わりで担当し、当日展示室で行う「フロアトーク」の担当も兼ねている。担当学芸職員の予定を博物館ホームページや図書閲覧室の入口壁に掲示し、専門分野の担当者がいる日に質問ができるよう配慮している。質問には担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、専門的な内容を含む質問等はそれぞれ専門の学芸職員に回答を依頼したり、調べたりして後日回答している。質問コーナーに来室される場合のほか、電話による質問や相談に応じている。

なお、リニューアル工事に伴い、図書閲覧室が閉鎖となったため、12月1日から3月31日は電話対応による質問の受付を行った。

#### 質問コーナーにおける質問受付数

期間	2017年4月1日～2018年3月31日	
総質問数	659件 (909名)	
質問形態	来訪による質問	628件
	その他による質問	31件

## 2) 通信網（電子メール「Query」）による対応

博物館との情報交換サービスを充実させるため、開館以来、質問、要望、相談などを受け付ける専用の電子メールアドレス（query@lbm.go.jp）を設定し、受信した電子メールの内容に応じて専門の学芸職員に回答するサービスを継続的に行っている。2017年度は総数162件あった。

専門的な内容を含む質問 生物（魚貝類39・陸域の昆虫11・動物類15）、植物類14、地学2、地域・文化2、農業1、水域4、その他3	91件
館の運営、施設利用や行事の問合せ・案内資料請求等	22件
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ、その他（他機関のお知らせ等）	49件

回答に回答しての追加質問など、継続したやりとりは、合わせて1件とした。

担当者を特定して問い合わせ等を行うために設定した電子メールアドレスへのメールは計数していない。

## (4) ありがとう交流会「びわ博フェス2017」

ワークショップやポスター掲示により、琵琶湖博物館の交流機能の魅力を伝え、継続的な参画を促す機会として交流イベントを実施した。

・開催日 7月8日（土）・9日（日）

・主な内容：

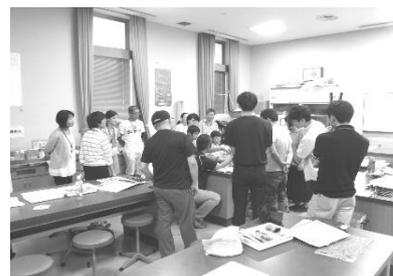
○体験コーナー

はしかけ・フィールドレポーターワークショップ・活動紹介等

○動物ふれあい広場

やぎ、ひつじ、うさぎとふれあい

### ■「びわ博フェス2017」のワークショップのようす



## 琵琶湖博物館環境学習センター

### (1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやメールマガジンなどにより発信を行い、環境学習活動の推進に努めた。

#### 1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 180件 教材貸出件数 121件 (2018年3月31日現在)

#### 2) 環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」の発行

発行回数 21回 登録者数 1,050人 (2018年3月31日現在)

#### 3) ブース出展

出展 4回

7月16日、17日	第10回水辺の匠面白 (ステージウォーターステーション琵琶)
7月21日	草津市エコフォーラム (草津市役所)
7月25日	近江八幡市学校支援メニューフェア (近江八幡市立桐原小学校)
1月27日	草津市こども環境会議 (草津市役所)

### (2) 環境学習の交流の場づくり

#### 1) 環境学習活動者交流会

今年度は環境に関する活動を実践している県内大学生を一堂に集め、学生間の横の繋がりを強化する目的で「びわ博学生ミーティング」を開催した。また、企業ビオトープを使った環境学習活動を推進する目的で、学習プログラムの実施方法を、ヤンマーミュージアムで実施されているプログラムを参加者に体験していただいた。

- ・11月4日 県内大学生の環境活動実施グループによる交流会「びわ博学生ミーティング」の開催。於：琵琶湖博物館 参加者41名
  - \*11月1日～11月8日には、環境活動ポスター展示開催 於：琵琶湖博物館
- ・11月29日 ビオトープを活用した環境学習プログラムに関する交流会 於：ヤンマーミュージアム 参加者26名



びわ博学生ミーティング



ヤンマーミュージアムでの活動者交流会

#### 2) 環境・ほっと・カフェ

環境学習活動実施者を支援する目的で、滋賀大学環境学習支援士の実習生を受け入れたほか、水環境についての学習、メダカの遺伝子攪乱の問題、希少種保全と企業の普及活動、法律・条例で規制されている外来生物の取り扱いなどについての学習支援を行った。

- ・4月18日 近江の水と地酒産業 於：愛知郡愛荘町 参加者7人

- ・8月3日 メダカについて考える会 於：琵琶湖博物館 参加者 37人
- ・12月7日 野洲市立北野小学校の理科学習 於：オムロン野洲事業所 参加者 60人
- ・3月25日 外来種対応の考え方―厄介な生きものはルールも厄介―  
於：琵琶湖博物館 参加者 21人

### 3) こどもエコクラブ事業

地域における子どもたちの自主的な環境学習や環境保全活動の取組である「こどもエコクラブ」の活動を、市町と連携して応援した。(県内会員数 77クラブ計 4,929名)

- ・12月10日 淡海こどもエコクラブ活動交流会 於：琵琶湖博物館 9クラブ、111名参加
- ・3月24日「こどもエコクラブ全国フェスティバル2018」(日本科学未来館)  
県代表 TANAKAMI こども環境クラブ(大津市)が参加

### 4) その他

- ・4月1日 韓国環境生態学関係活動者への講義 於：琵琶湖博物館
- ・8月30日 琵琶湖博物館の展示と環境学習について講義(ILECの依頼による研修)  
於：琵琶湖博物館
- ・8月26日 博物館実習 環境学習センターについて講義 於：琵琶湖博物館
- ・滋賀大学環境学習支援士養成実習 1名受け入れ 於：琵琶湖博物館、ヤンマーミュージアム
- ・10月13日 希少魚保全の講義(北野小学校5年生社会) 於：オムロン野洲事業所
- ・1月17日 インドネシアの高校生へ、琵琶湖博物館の展示と環境学習について講義  
於：琵琶湖博物館
- ・2月3日 企業ビオトープにおける小学校6年生の理科学習の実施について、  
滋賀ビオトープ研究会で発表 於：彦根市勤労福祉会館

## 情報発信活動

### (1) 地域発見！参加型移動博物館

「地域発見！参加型移動博物館」事業は、2011年度に「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して制作した移動型の展示キットを、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。

今年度は、自主出展を7件行った。そのうち県内での出展4件で、博物館から比較的遠い地域(高島市・彦根市・東近江市・近江八幡市)で実施した。県外3件は淀川流域での知名度向上を目的としており、夏休みに焦点を合わせて大阪駅で2ヶ所、西宮市で1ヶ所開催した。県関係機関等への貸し出しは16件であり、県内外で利用された。

	開催日	イベント名	会場	出展者
1	4月9日	琵琶湖の恵みフェスタ(ヨシネットワーク)	琵琶湖大津館(大津市)	琵琶湖保全再生課(貸出)
2	6月24日	琵琶湖周航の歌100周年記念式典	ビアンカ船上(今津～竹生島)	琵琶湖博物館
3	6月1日～ 7月2日	びわ湖の日啓発事業	琵琶湖周航の歌記念館(高島市)	琵琶湖保全再生課(貸出)
4	6月26日～ 30日	びわ湖の恵み再発見!	龍谷大学(草津市)	琵琶湖保全再生課(貸出)
5	7月1日～2日	びわ湖の恵み再発見!	ビバシティ彦根(彦根市)	琵琶湖保全再生課(貸出)

	開催日	イベント名	会場	出展者
6	8月21日～22日	琵琶湖博物館広報	JR大阪駅〔大阪市〕	琵琶湖博物館/ JR西コミュニケーションズ
7	8月27日	集まれ！エコっ子フェスティバル	ビバシティ彦根（彦根市）	琵琶湖博物館
8	8月28日	琵琶湖博物館広報	ららぽ〜と甲子園（西宮市）	琵琶湖博物館/ JR西コミュニケーションズ
9	8月29日	琵琶湖博物館広報	ディアモール大阪（大阪市）	琵琶湖博物館/ JR西コミュニケーションズ
10	8月31日～9月1日	JSTイノベーションジャパン(科学技術振興機構)	東京ビッグサイト（東京都江東区）	龍谷大学REC（貸出・製作協力）
11	9月2・3日	～海と日本プロジェクト～ BIWAKO UMIFES 2017(NPO法人 琵琶湖ローイング CLUB)	びわこボートレース場（大津市）	琵琶湖保全再生課(貸出)
12	9月22日～23日	近江米トップセールス 店頭プロモーション	イオン久御山（久御山市）	琵琶湖保全再生課(貸出)
13	10月14日	山を活かす 山を守る 山に暮らす 交流会	木之本運動公園（長浜市）	森林政策課(貸出)
14	10月16日～25日	びわ湖環境ビジネスメッセ2017	長浜バイオ大学（長浜市）	商工政策課(貸出)
15	10月29日	「ここ滋賀」オープニングイベント	日本橋タワー（東京都千代田区）	滋賀県東京本部(貸出)
16	11月1日～7日	文化祭「地域とともに歩む」	特養老人ホームアンタレス（長浜市）	社会福祉法人青祥会(貸出)
17	11月26日	遊びの宝島へGO(滋賀県子ども会連合会)	G-net しが大ホール（近江八幡市）	琵琶湖博物館
18	12月3日	琵琶湖ヨシ刈り体験活動(伊藤園・淡海環境保全財団・琵琶湖政策課)	やわらぎホール（東近江市）	琵琶湖博物館
19	12月9日～10日	京都環境フェスティバル2016	京都総合見本市会館（京都市）	琵琶湖保全再生課(貸出)
20	12月23日～1月31日	子供エコクラブ壁新聞展	ウォーターステーション琵琶（大津市）	ウォーターステーション琵琶(貸出)
21	1月25日～26日	たかつきエコフェスタ(高槻市環境緑政課)	高槻市生涯学習センター	琵琶湖保全再生課(貸出)
22	2月14日～21日	第3回いいね！地方の暮らしフェア(日本創生のための将来世代応援知事同盟)	池袋サンシャインシティ（東京都豊島区）	市町村振興課(貸出)
23	3月31日～4月1日	琵琶湖を知ろう×学ぼう！	近鉄百貨店草津店	水産課(貸出)

## (2) インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週10回程度である。このほか、収蔵資料の情報も公開している。

2017年度には、11月より情報システムを全面的に更新し、自治体情報セキュリティクラウドの利用を開始した。それにあわせて、ウェブページについても全面的な改善を行い、セキュリティクラウド上で公開をしている。同時に、収蔵資料データベースと図書資料データベースについても、外部クラウド型サービスに移行し、それぞれデータベースの公開を開始した。

新たなウェブページについては、2018年1月6日よりWordpressのJetpackプラグインを導入し、アクセス解析を実施している。2月の総表示数は93,817件、総訪問者数は17,727人、3月の総表示数は119,110件、総訪問者数は23,134人であった。多く閲覧されているページは、トップページ、常設展示、料金、アクセス、水族展示の情報であった。

### 連続アクセス件数の経年変化

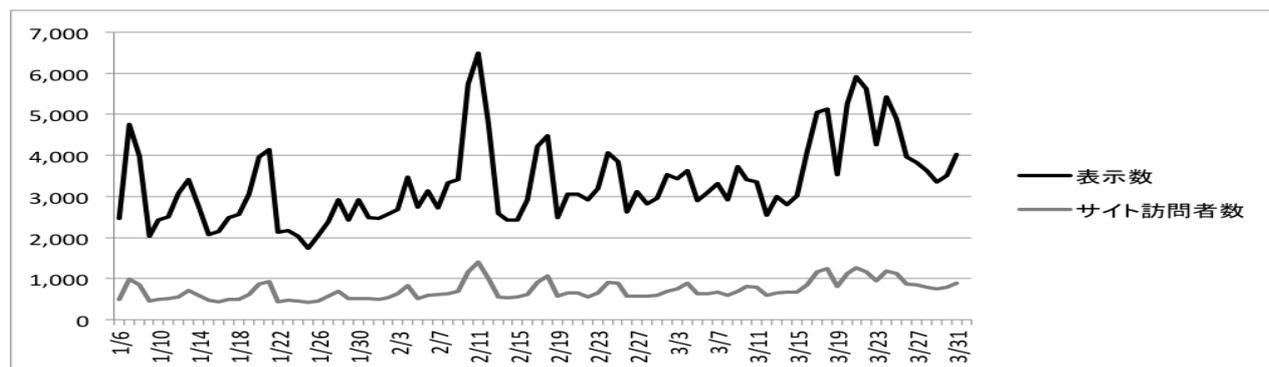


図 表示数およびサイト訪問者数（2018年1月6日～3月31日）

注：アクセス解析には Wordpress の Jetpack プラグインを用いた。

### (3) 印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」展示解説書	A4	72	2,000
企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」ポスター	A1		1,000
企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」チラシ	A4		50,000
琵琶湖博物館研究調査報告 第30号	A4	181	600
広報用「琵琶湖と川の魚」カレンダーポスター 2018	A1		3,000
広報用「魚チラシ」	A4		266,500
びわ博のイベント チラシ2017年4・5・6月	A4		10,000
びわ博のイベント チラシ2017年7・8・9月	A4		10,000
びわ博のイベント チラシ2017年10・11・12月	A4		10,000
びわ博のイベント チラシ2018年1・2・3月	A4		10,000
びわはく 創刊号	A4	12	6,000
からすまいちばんカレンダー(2017年7月～10月)	A4		15,000
からすまいちばんスタンプラリー2017(2017年12月～2018年1月末)	A4		10,000

#### \* 新情報誌「びわはく」の出版

従来の情報誌の内容を一新し、より深く琵琶湖博物館について周知し、もっと来たくなる、一緒に活動したくなる博物館としての魅力を伝えるために、新情報誌「びわはく」を発行した。

## Ⅱ 新琵琶湖博物館の創造

### 新琵琶湖博物館の創造

琵琶湖博物館は、これまでの博物館像にとらわれない「湖と人間」をテーマにした新たな博物館として1996年に開館した。その後、『地域だれでも・どこでも博物館』を目標とする中長期基本計画を立案し、段階的に取り組んできたところである。

開館以来20年が経過し、調査・研究および資料収集が進んでいることから、これらの成果に基づき、「湖と人間」のかかわりを過去から現在にわたってとらえ直し、「これからの共存関係」をより多くの来館者と共に、考えていく新たな展開が、琵琶湖博物館に求められていた。

そのため、2012年度に新たな博物館像の提示・展開のあり方等について検討を行い、展示・交流空間の再構築の方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」をまとめ、2013年度に「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定した。

2014年度において、体感型・参加型展示や実物資料を多く取り入れた発信力の高い展示となるよう第1期リニューアル（C展示室、水族展示）の実施設計を行い、2015年度に展示および建設工事に着手し、2016年7月に第1期リニューアルオープンを行った。

また、2016年度において、参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点となるため、第2期リニューアル（交流空間）の実施設計を行い、2017年度に展示および建設工事に着手し、2018年3月に交流空間の一部であるミュージアムショップ、わくわく体験スペース（企画展示室）のリニューアルオープンを行った。

#### (1) 第2期リニューアルオープン

- ・2018年3月24日 ミュージアムショップ
- ・2018年3月27日 わくわく体験スペース（企画展示室）

#### (2) 滋賀県議会への報告等

滋賀県議会に、第2期リニューアルの内容や第3期リニューアルの概要の説明を行った。

- ①環境・農水常任委員会 2017年4月26日
- ②環境・農水常任委員会 2017年7月5日
- ③環境・農水常任委員会 2018年3月9日

#### (3) 第2期リニューアルにかかる業務委託や工事の契約締結

- ① 展示制作および設置等業務委託 契約日：2017年8月7日 契約業者：(株)乃村工藝社
- ② 旧 UNEP 施設改修工事監理委託 契約日：2017年11月8日  
契約業者：(株)ビルディング・コンサルタントワイズ
- ③ 旧 UNEP 施設改修工事 契約日：2017年10月11日 契約業者：(株)テリオス
- ④ 旧 UNEP 施設改修電気設備工事 契約日：2017年10月10日 契約業者：あい和電設(株)
- ⑤ 樹冠トレイル積算業務委託（下部工） 契約日：2017年4月21日  
契約業者：(公財) 滋賀県建設技術センター
- ⑥ 樹冠トレイル積算業務委託（上部工） 契約日：2017年4月21日  
契約業者：(公財) 滋賀県建設技術センター

⑦ 樹冠トレイル資材単価調査業務委託 契約日：2017年5月10日

契約業者：(一財)建設物価調査会大阪事務所

⑧ 樹冠トレイル現場技術業務委託 契約日：2017年7月28日 契約業者：(株)井上エンジニアリング

⑨ 樹冠トレイル整備工事（下部工） 契約日：2017年9月15日 契約業者：(株)大山建設

⑩ 樹冠トレイル整備工事（上部工） 契約日：2017年10月19日 契約業者：(株)スガナミ

#### (4) 来館者・県民による展示評価の実施

来館者の意見を集約し、第2期の展示制作に反映する調査を実施した。

①2017年10月21日～29日（来館者のシール投票と感想シートによる調査）

【ディスカバリールーム】

- ・机、イスの高さ
- ・におい装置の構造
- ・顕微鏡の高さ

②2017年10月22日（来館者のインタビュー調査）

【ディスカバリールーム】

- ・机、イスの高さ
- ・におい装置の構造
- ・顕微鏡の高さ

#### (5) ユニバーサルデザイン評価の実施

ユニバーサルデザインの観点からの意見を第2期の展示制作等に反映させるための会議を開催した。

①2018年3月13日（田淵千恵子氏、美濃部裕道氏、渡邊孝宏氏、古閑正孝氏、古閑美恵子氏、北代元雄氏、町田義孝氏）

- ・第2期リニューアルについて
- ・現場確認
- ・その他

## Ⅲ 環境の整備

### 1 拠点としての施設整備

#### (1) 利用者用施設の整備

第2期リニューアルオープンに対応して、順次案内看板の更新などを行い、来館者に利用していただきやすい駐車場となるよう整備した。また、県立施設無料Wi-Fi整備事業により、館内に設置した5箇所のアクセスポイントの継続運用を行い、来館者の利便性の向上や利用機会の拡大につなげている。

#### (2) 情報システムの整備

##### 1) 端末機器の更新

2017年度には、博物館の情報システムを全面的に改善し、滋賀県自治体情報セキュリティクラウドを利用したシステムへの移行を行なった。これは、LBM情報システムのセキュリティ対策と監視体制の強化、さらにシステム管理のコストと労力削減を目的としたもので、2016年度に整備された滋賀県自治体情報セキュリティクラウドを利用したWeb配信およびメールサービスへの移行を実施した。また、それにともなって、収蔵品データベースおよび図書データベースについても、クラウド型の民間サービスへ移行を行い、データベースの公開を行なった。

##### 2) セキュリティ等

情報システムについては、滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの中で、常時監視を行っている。端末のセキュリティについてはウイルス等対策ソフトウェアを全機にインストールしている。

#### (3) 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の展示の企画や広報活動など博物館活動や運営を考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、定期的な来館者アンケートを年数回実施している。

本年度のアンケートは、1回目は夏休み期間の金曜日から日曜までの3日間、2回目は春休み期間の土曜日から月曜までの3日間で連続して実施した。観覧券発売時に毎日1,000枚を限度として手渡しで配布するとともに、アトリウムに記入用紙と回収箱を設置した。調査内容は、来館回数、情報源、来館目的、交通手段、滞在時間、利用場所のほか、満足度および感想や改善についての意見など選択式12項目、記述式1項目の全13項目からなる。設問のうち、来館回数、きっかけ、滞在時間、満足度、記入者自身の年齢、性別、住居域は、これまで実施したアンケート調査での共通項目となっている。くわえて、2016年7月にリニューアルした展示に対する満足度についても調査を実施した。

##### 1) 実績

今年度は夏と初春の2回実施した。

第1回 2017年8月11日(金)～13日(日)

第2回 2018年3月24日(土)～26日(月)

##### 2) 結果

回収率: 今回の調査の回答率は第1回調査が1.1～1.9%(回答総数180枚)、第2回調査が3.5～11.8%(回答総数215枚)であった。

来館回数：第1回調査、第2回調査ともに「はじめて」の割合がもっとも高く、ついで「4回以上」の割合が高かった。昨年度には、「はじめて」の割合が一時減少し、リニューアルにより主に近隣に地域からのリピート率が高くなった影響が考えられたが、本年度は「はじめて」の割合が多い状況に戻った。

年齢層・居住地・来館手段・同行者：年齢層の結果はおおむね従来通りで、30代、40代が中心であり、10歳未満の利用者割合の増加傾向も見られた。居住地は第1回調査、第2回調査で、それぞれ県内29.4%、37.7%で、県内からの利用者率がリニューアル直後であった昨年度より減少した。移動手段は例年通りに、自家用車が圧倒的に多数だった。同行者は、例年通り「家族」での来館が圧倒的に多い状況であった。

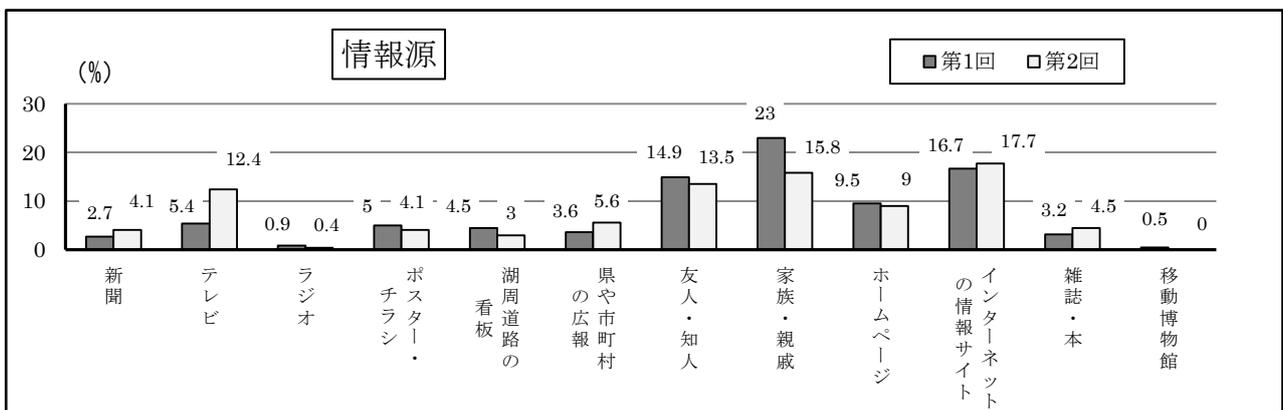
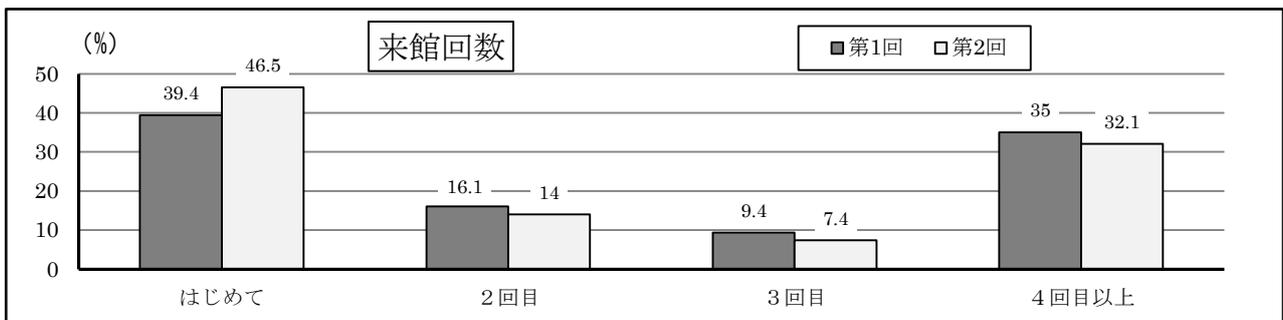
情報源：友人・知人、家族・親戚による情報が多く、例年通り口コミが最も重要な情報源であった。博物館ウェブサイトとその他情報サイトの合計は、第1回調査、第2回調査で、それぞれ26.2%、26.7%と昨年度に引き続いて需要の増加が認められ、インターネットによる効率的な情報発信の重要性が増していることが伺われる。

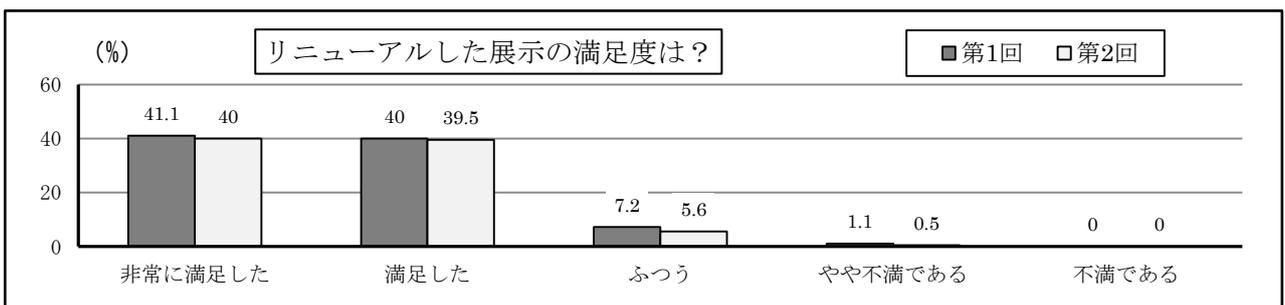
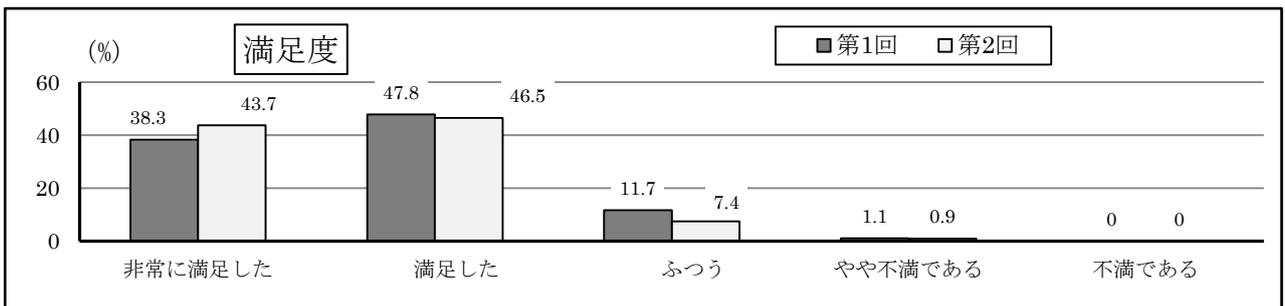
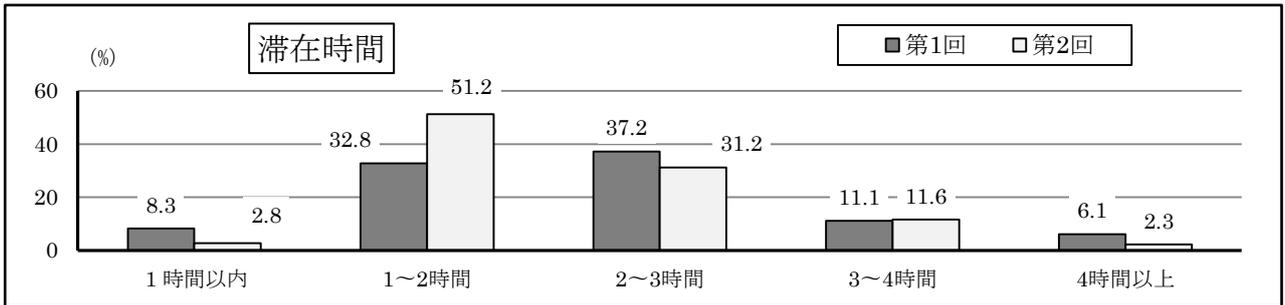
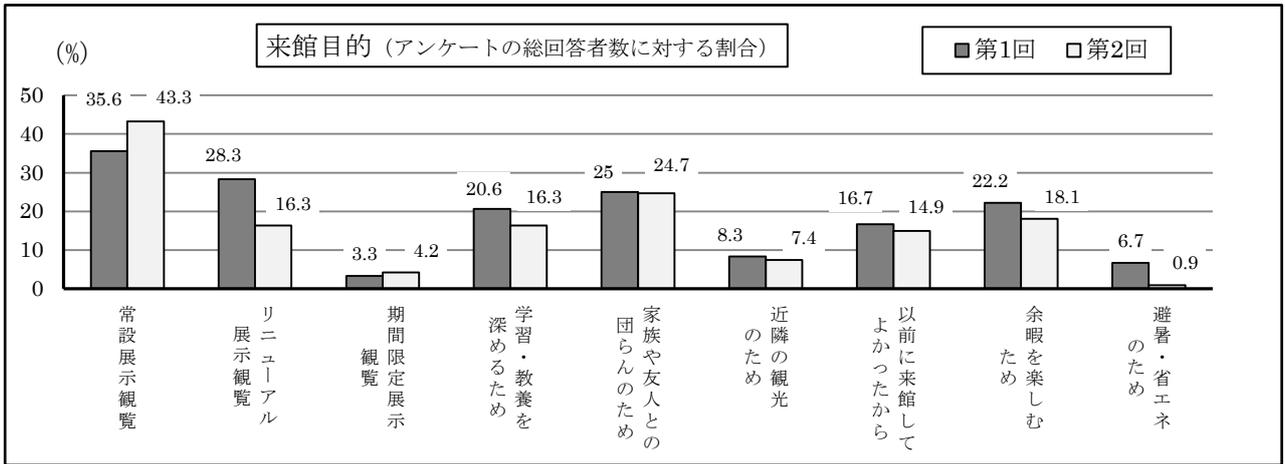
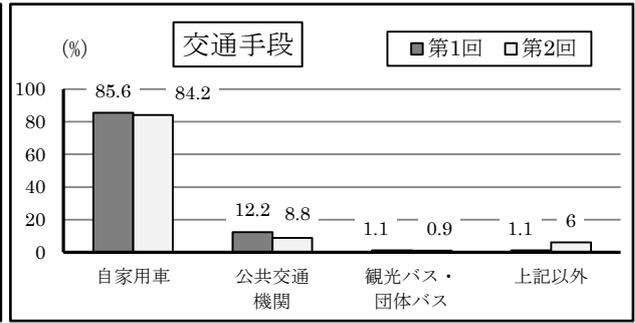
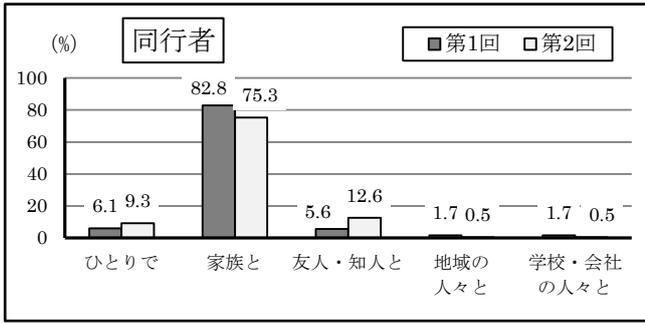
滞在時間：滞在時間は、両調査ともに、「1～2時間」、「2～3時間」が多かった。第1回調査では、これまでとは異なり、「2～3時間」が「1～2時間」よりも高い回答率となった。

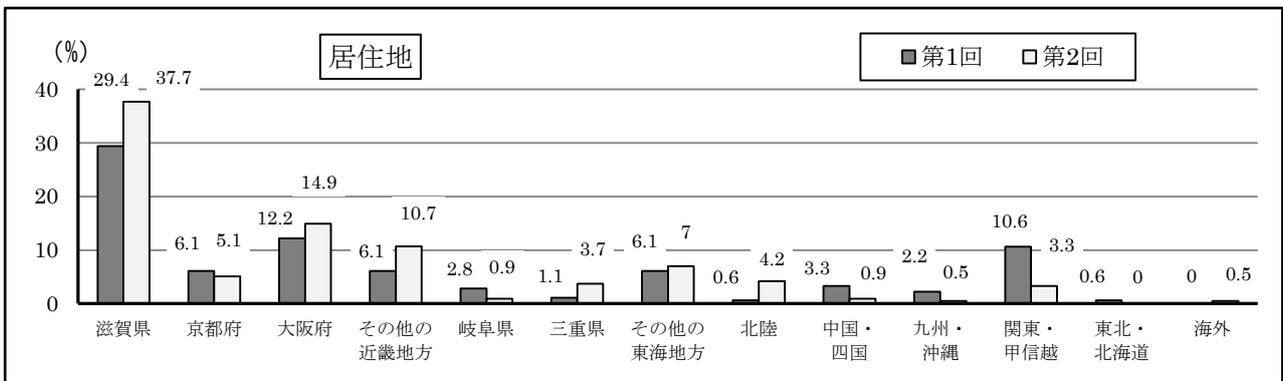
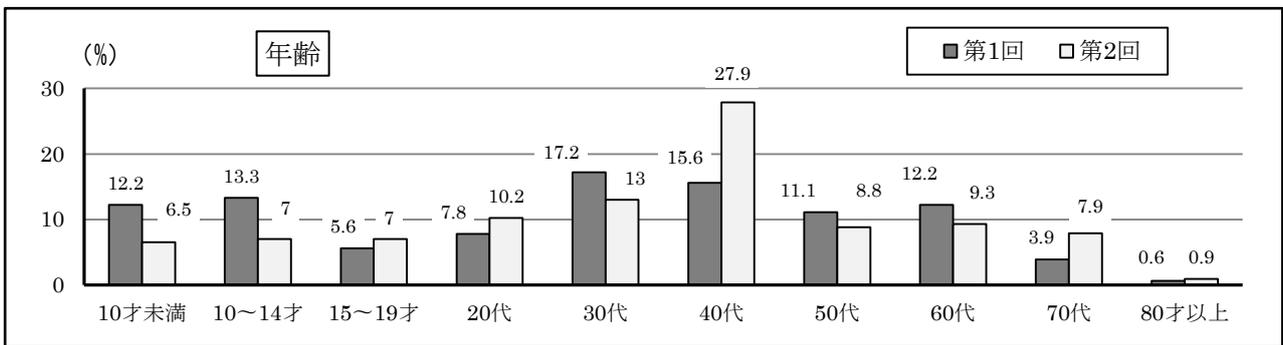
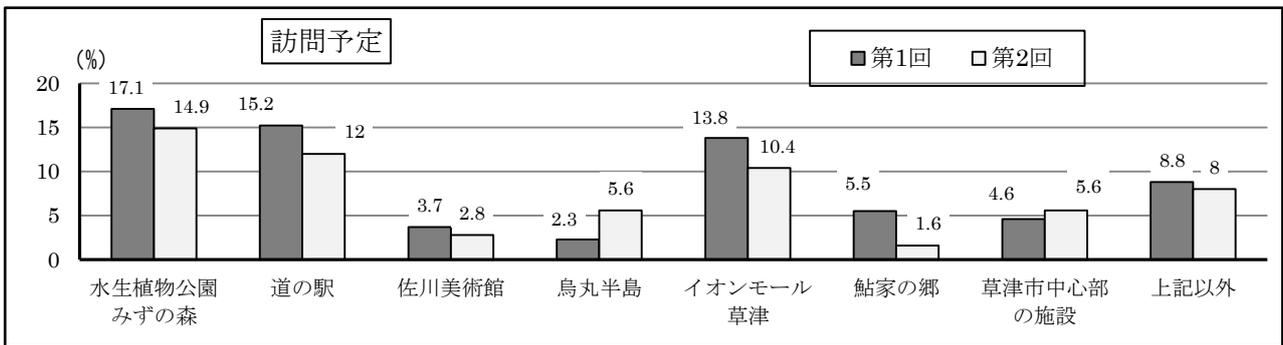
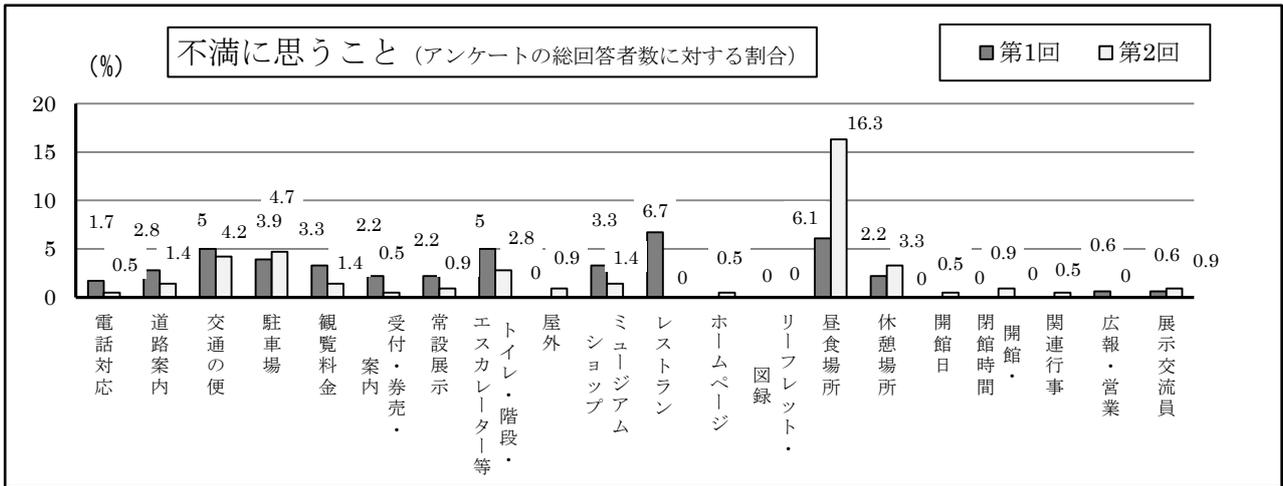
満足度：博物館の満足度については、「非常に満足した」と「満足した」を合わせると、第1回調査、第2回調査で、それぞれ86.1%、90.2%となり、高い水準を維持している。リニューアル展示の感想についても、「非常に満足した」と「満足した」を合わせて、81.1%、79.5%となり、高い評価をうけた。

不満：両調査ともに、駐車場や観覧料金、交通の便、トイレ・階段・エスカレーター、昼食場所等に対して不満とする意見が多くみられた。

(数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの)

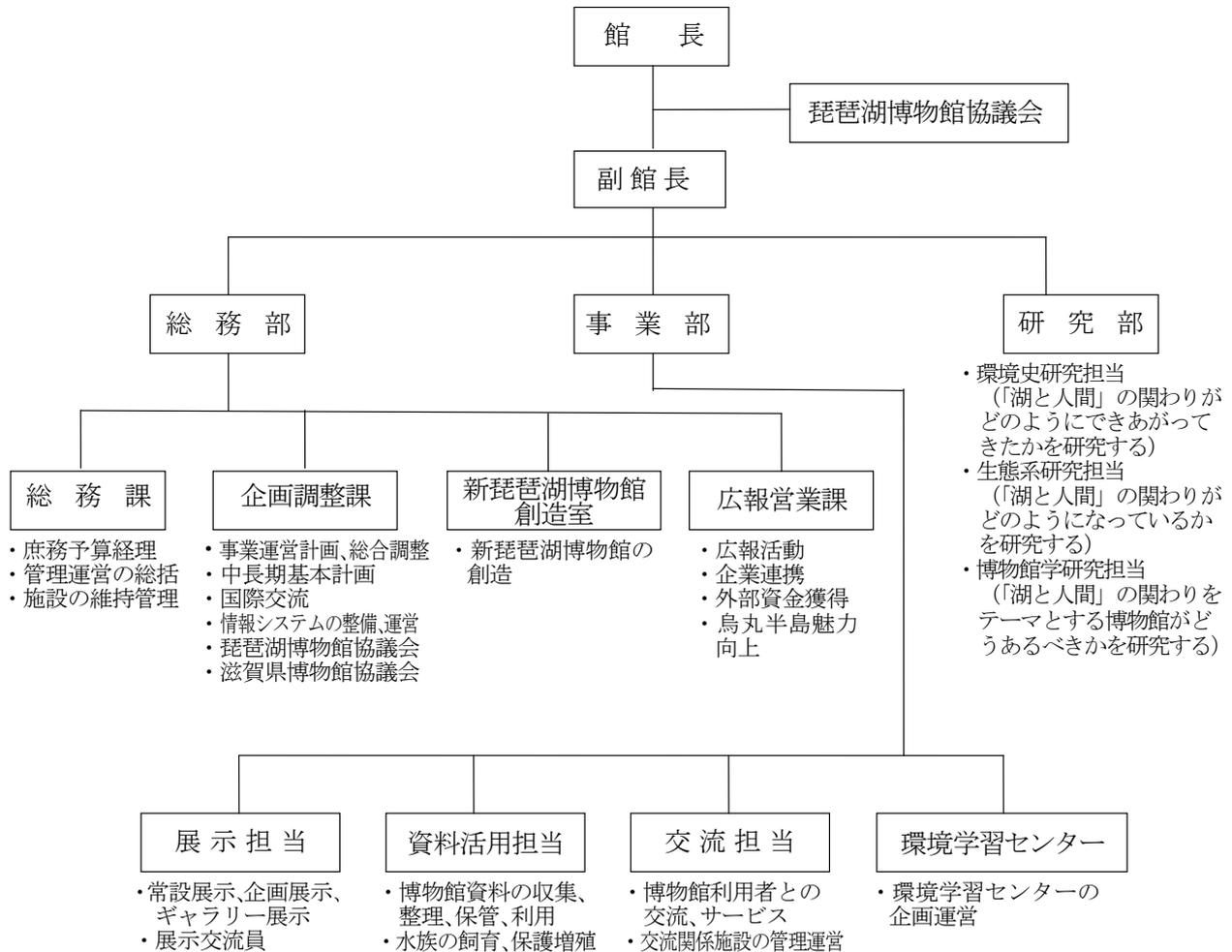






## 2 柔軟な運営組織

### (1) 組織



職員構成 (2017年10月1日現在：兼務・併任職員を含む)

区分	館長 (非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	11	30	2	44	21	65

研究職の内訳

区分	学芸	水産	農業土木	土木	林業	合計
人数(名)	26	1	1	1	1	30

(2) 職員

(2017年10月1日現在)

- 館長 篠原 徹
- 副館長 津田 清和
- 副館長 高橋 啓一
- 主席参事 藤村 俊樹

総務部

- 部長(事務取扱) 津田 清和

◇ 総務課

- 課長 磯間 貢志
- 副参事 初宿 文彦
- 主幹 萩山 幸代
- 副主幹 中尾 和美
- 副主幹 山川 祐司

◇ 新琵琶湖博物館創造室

- 室長(兼) 藤村 俊樹
- 主幹 藤田 和也
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 梶永 一宏
- (兼) 下松 孝秀
- 副主幹(兼) 原口 久輝
- (兼) 北井 剛
- (兼) 奥野 知之
- (兼) 小林 偉真
- (兼) 林 竜馬
- (兼) 澤邊久美子
- (兼) 渡部 圭一
- (兼) 大久保実香
- (兼) 妹尾 裕介

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 亀田佳代子
- 課長補佐(兼) 田中 順子
- (兼) 楊 平
- (兼) 林 竜馬

◇ 広報営業課

- 課長(兼) 藤村 俊樹
- 課長補佐 田中 順子
- 副主幹(兼) 澤村 和宏
- (兼) 金尾 滋史
- (兼) 妹尾 裕介

事業部

- 部長(兼) 桑原 雅之

◇ 展示係

- 係長(兼) 梶永一宏
- (兼) ロビン ジェームス スミス
- (兼) 片岡 佳孝
- (兼) 北井 剛
- (兼) 澤邊久美子
- (兼) 鈴木 隆仁

◇ 資料活用係

- (兼) 里口 保文
- 係長(兼) 橋本 道範
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) 松岡 由子
- (兼) 渡部 圭一
- (兼) 田畑 諒一

◇ 交流係

- 係長(兼) 大塚 泰介
- (兼) 戸田 孝
- (兼) 下松 孝秀
- (兼) 山本 綾美
- 主査(併任) 奥野 知之
- 主任主事(併任) 小林 偉真
- (兼) 大槻 達郎
- (兼) 大久保実香

環境学習センター

- 所長(事務取扱) 松田 征也
- 副主幹 澤村 和宏

研究部

○部長(兼) 山川 千代美

◇ 環境史研究係

総括学芸員 山川千代美  
 係長 専門学芸員 里口 保文  
 専門学芸員 橋本 道範  
 主査(兼) 北井 剛  
 主任学芸員 楊 平  
 学芸員 林 竜馬  
 学芸技師 渡部 圭一  
 学芸員 大久保実香  
 学芸員 妹尾 裕介  
 学芸技師 田畑 諒一

◇ 博物館学研究係

係長 専門学芸員 戸田 孝  
 専門学芸員 大塚 泰介  
 (兼) 奥野 知之  
 主任学芸員 金尾 滋史  
 (兼) 小林 偉真  
 学芸員 松岡 由子  
 学芸員 澤邊久美子  
 学芸技師 大槻 達郎

◇ 生態系研究係

係長 総括学芸員 亀田佳代子  
 総括学芸員 松田 征也  
 総括学芸員 桑原 雅之  
 総括学芸員 八尋 克郎  
 総括学芸員 芳賀 裕樹  
 専門学芸員 中井 克樹  
 専門学芸員 榭永 一宏  
 専門学芸員 ロビン ジェームス スミス  
 主任主査(兼) 下松 孝秀  
 主任主査 片岡 佳孝  
 専門員(兼) 山本 綾美  
 主任学芸員 芦谷美奈子  
 学芸技師 鈴木 隆仁

嘱託員・臨時的任用職員

田中 里美	館長秘書	草加 伸吾	交流事業
江川 久雄	広報・集客	塩谷えみ子	交流事業
北浦 孝雄	企業連携	植村 隆司	学校学習
中川 優	屋外展示運営	高木 成美	図書資料整理
片淵 綾香	展示室運営	山本 藤樹	環境学習
森 智美	展示室運営	鶴飼 菜香	環境学習
高石 清治	展示物維持補修	片山 瑞木	環境学習
大喜のぞみ	資料標本整理	小山 勝	国際交流
鳥野 妙子	資料標本整理	松村 順子	交流事業
鈴木 真裕	資料標本整理	山本謙太郎	資料標本整理
三樹友梨香	資料標本整理		

特別研究員

天野 一葉	池田 勝	柏尾 珠紀	川瀬 成吾	北村 美香	草加 伸吾	楠岡 泰
黒岩 啓子	篠原 耕平	朱 偉	瀬口 眞司	高梨 純次	辻川 智代	寺本 憲之
中野 聰志	中野 正俊	中西 康介	廣石 伸互	藤岡 康弘	矢田 直樹	Blakenmore
川那部浩哉	布谷 知夫	中島 経夫	前畑 政善	用田 政晴		

フィールドレポーター・はしかけ登録者(掲載承諾者のみ)

◇フィールドレポーター (登録者数 204名(うちスタッフ9名))

土金 慧子	楠岡 泰	山本真里子	辻 いずみ	北田 稔	小野 麻代	松本 勉
若代 隆行	若代 智子	前畑 政善	松里 香織	松里 凜	前田 雅子	中島 いずみ

野間 鉄夫	熊谷 明生	熊谷 明美	対中いづみ	宇野 啓明	酒井陽一郎	林 克子
保科 秀行	保科 雅子	保科 政秀	保科 明俊	奥村 恵子	武田 滋	村上 靖昭
笹井まち子	中野 敬二	矢野 修	矢野としこ	武田 繁	山本 篤	上田 修三
鈴木 正範	吉居 晴美	藤本 昭義	住田 健	増永裕里子	荒井 紀子	平井 政一
本田 幹雄	山本皓一郎	和田 至博	岡 亜紀	岡 隼斗	岡 奏多	角井 俊明
加藤美由紀	山本 善康	福岡 敏雄	中村 教子	市原 龍	山川 栄樹	山川 茜
山川 和馬	山川 侑夏	山川佳那子	山本 晴美	一木 彰	遠阪 聡子	中井 大介
北村 美香	秋山 廣光	小川千奈美	小川 哲仙	吉本 由花	吉本 瀧侍	吉本 凜花
蜂屋 正雄	寺田 誠	後藤 真吾	吉岡 伸子	安井加奈恵	奥村 治男	川北 浩史
濱道 秀	石井 正臣	吉野 彰一	北口 和雅	北口 颯真	千田 祥生	千田はる恵
千田 紘慈	千田 佳穂	青木 環	青木 春乃	西之園保夫	畑中 清司	片山 慈敏
井野 勝行	岡田 幹夫	中井 民子	谷村 啓子	大橋 義孝	口分田政博	加固 啓英
三谷 軌文	川南 仁	青山 喜博	藤井 康行	片岡 庄一	手良村知央	手良村昭子
手良村知功	村山 晃彦	飯田 俊宏	桐江 利雄	岡田宗一郎	岡田 葵	岡田 和美
岡田 創暉	津田 國史	角尾千寿子	筈井美智子	佐野 和子	佐野 隼也	佐野 裕也
松本偉之助	八尋 由佳	山本由里子	穴蔵 雅彦	北側 忠次	瓜生まゆ子	藤田 章子
山本 充孝	水戸 基博	水戸 涼乃	水戸 涼介	奥村恵津子	森 擴之	浅井 良英
大岡 紀彦	村野 やえ	久国 正吉	寺田 泰子	東 まち子	矢原 功	堀 英輔
久保 和友	津田久美子	勝見 政之	木本 裕也	椛島 昭紘	山崎 千晶	小林 隆夫
山元 祐人	江間 瑞恵	大河原秀康	中尾 博行	前迫羽衣子	前迫 嘉光	畠山 寿枝
筒井 聡子	河崎 凱三	杉江ミサ子	井上 修一	山口 瑞彦	酒井 啓子	熊木 武志
熊木 慧弥	向田 直人	水相 修躬	川口 健一	中嶋 佐苗	佐藤良太郎	坂口 誠
尾原 直行	間所 忠昌	土田 正文	桐畑 信夫	谷口 雅之	乾 明美	芝崎美世子
佐々木結衣	大谷 祥子	滝沢 仁希	三村 武士	小林 亮平	吉川 秀司	永谷美津恵
永谷 想生	津田ひかる	本田 英樹	川邊 咲子	五木田まきは		

◇はしかけ (登録者数 352名)

土金 慧子	楠岡 泰	藤田 成子	吉成 暁	榎本 真司	山本真里子	松田 道一
藤田 敦子	辻 いづみ	谷本 正浩	谷本 由美	北田 稔	福森 弘二	小野 麻代
戸田 博通	戸田 歌子	中川 優	木村 恵子	川田 裕元	川井 久美	川井 彩音
笹生 正則	松本 勉	若代 隆行	若代 智子	根来 健	松里 香織	松里 凜
矢野 典子	前田 雅子	芦田 弘美	桑垣 瑞	橋田 理絵	熊谷 明生	熊谷 明美
斎藤 禎量	対中いづみ	宇野 啓明	酒井陽一郎	林 克子	大西 英雄	前田 攝子
片山 康夫	武田 滋	岩本 りか	川口 涼	村上 靖昭	松川 郁子	中野 敬二
辻川 智代	中井菜美子	矢野 修	矢野としこ	土生 陽子	小松 大治	小松 連
上田 修三	斉藤 文子	村山 和夫	山野井邦彦	齊藤 眞琴	齊藤眞由美	鈴木 正範
吉居 晴美	藤本 昭義	増永裕里子	荒井 紀子	石田 勉	岡部 陽造	安原 輝
井上 聖花	山本皓一郎	和田 至博	岡 亜紀	岡 隼斗	岡 奏多	加藤美由紀
大沢 果那	山本 善康	福岡 敏雄	草加 伸吾	西村 有巧	木村 誠二	木村 爽
佐瀬 章男	市原 龍	笹山恵里奈	石井 千津	山川 栄樹	山川 茜	山川 和馬
山川 侑夏	山川佳那子	西川 美喜	一木 彰	中井 大介	北村 美香	遠藤 吉三
秋山 廣光	小川千奈美	小川 哲仙	松井 清子	吉本 由花	吉本 瀧侍	吉本 凜花
蜂屋 正雄	前田 博美	後藤 真吾	森 みさと	森 天晴	森 いのり	吉井 隆

吉岡 伸子	富田久仁枝	宮本 直興	玉利桂太朗	山本 阿子	安井加奈恵	今井沙知子
今井虎ノ介	今井 花	池田 勝	愛須美由起	濱道 秀	石田 未基	村田 博之
石井 正臣	田井中由利子	竹元 冴矢	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子	吉野 彰一
神谷 悦子	竹谷 満弘	辻 真宏	辻 実沙記	梅澤 正夫	辻本 智子	辻本 一暁
辻本紗也佳	千田 祥生	千田はる恵	千田 紘慈	千田 佳穂	古川まや子	立川 直樹
青木 環	青木 春乃	西之園保夫	堀田 修身	堀田 博美	堀田 恵子	畑中 清司
藤橋 和弘	片山 慈敏	福永 和馬	水谷 智	山田 正樹	山田 恵美	山田 和毅
三田村緒佐武	杉山 國雄	山本つや子	三谷 軌文	川南 仁	青山 喜博	藤井 康行
田中 治男	田中 雅也	片岡 庄一	手良村知央	手良村昭子	手良村知功	大堀 忠厚
肥田 嘉文	村山 晃彦	大橋 洋	寺尾 尚純	吉野千栄子	飯田 俊宏	中尾 京子
岡田宗一郎	岡田 葵	岡田 和美	岡田 創暉	津田 國史	北村 明子	金山 正之
金山美佐子	佐野 和子	佐野 隼也	佐野 裕也	鈴木 直子	八尋 由佳	岡田 徹
柳原 徳子	山本由里子	穴蔵 雅彦	飯住 達也	瓜生まゆ子	山本 充孝	水戸 基博
水戸 涼乃	水戸 涼介	山本 道子	大岡 紀彦	深田 元子	村野 やえ	久国 正吉
立石 文代	中東 朋子	岡本 航輝	五十嵐 照	五十嵐 癒	山口 幸江	寺田 泰子
矢原 功	尾崎 友輔	津田 久美子	大喜のぞみ	瀬野 美貴	栳島 昭紘	山崎 千晶
小林 隆夫	神戸 道典	吉田恵太郎	中山 法子	浜地トミ子	江間 瑞恵	大河原秀康
中尾 博行	前迫羽衣子	前迫 嘉光	畠山 寿枝	吉野まゆみ	吉野 心晴	河崎 凱三
宮崎 猛	宮崎 真	中村 重信	井上 修一	山口 瑞彦	中島 財	蘆内 和子
後長シマ子	今井 洋	遠藤 浩子	山本 藤樹	熊木 武志	熊木 慧弥	宇野 翔
向田 直人	綺田万紀子	荒川 忠彦	尾原 直行	福野 憲二	三輪 祐子	関谷 和久
川島 雅雄	間所 忠昌	服部 隆義	服部 雅也	服部 彩乃	南 和美	谷口 雅之
上田 康之	芝崎美世子	高田 昌彦	中西 寛子	中西 春陽	中西 優一	佐々木信幸
佐々木則子	佐々木満保	佐々木幹朗	佐々木結衣	武田 広志	大谷 祥子	山中 裕子
滝沢 仁希	西村 義隆	三村 武士	小林 亮平	細木 京子	石井健一郎	石井 利和
渡辺圭一郎	吉川 秀司	木原 靖郎	窪田美知留	永谷美津恵	永谷 想生	澤田 知之
木下多津江	飯田 隆行	飯田 貞美	吉田 達矢	吉田 範香	富 小由紀	小柳 清彦
中村 聡一	本田 英樹	宮田 孝	別所 宏二	別所かおる	岩西紗江子	斎藤 知行
桑田 向陽	川邊 咲子	納屋内高史	大橋 正敏			

### 3 社会的支援と新しい経営

#### (1) 利用状況 (2017年度入館者数)

##### 1) 総入館者数

期 間：2017年4月1日～2018年3月31日

合 計：415,897人

開館日数： 310日

一日平均： 1,342人

月 平均： 34,658人

#### 入館者区分別内訳

区分	個人 (人)	団体 (人)	合計 (人)	構成比 (%)
未就学児	53,764	23,566	77,330	18.6
小学生・中学生	49,273	56,737	106,010	25.5
高校生・大学生	7,487	4,694	12,181	2.9
一般	204,874	15,502	220,376	53.0
合計	315,398	100,499	415,897	100.0

年月	開館日数	有料入館 (人)				無料入館 (人)									総計 (人)	1日当り平均 (人)
		一般	高大学生	小中学生 (企画展示)	有料計	65歳以上	障害者	家族ふれあい サンデー等	体験学習	LABOR	学校行事	小中学生	その他	無料計		
2017.4	27	10,119	1,042	0	11,161	1,245	823	972	13	0	1	5,865	7,962	16,881	28,042	1,039
5	26	14,794	745	0	15,539	1,383	1,565	1,336	5	1,115	377	10,809	8,982	25,572	41,111	1,581
6	26	10,412	678	0	11,090	1,126	1,296	1,513	7	0	160	7,351	6,680	18,133	29,223	1,124
7	29	17,407	1,085	1,728	20,220	1,431	1,802	1,598	9	0	142	8,243	12,471	25,696	45,916	1,583
8	30	29,097	2,047	4,341	35,485	2,487	2,425	1,600	1	0	350	15,137	18,774	40,774	76,259	2,542
9	23	11,071	959	1,185	13,215	804	1,333	1,019	10	0	1,209	5,728	7,845	17,948	31,163	1,355
10	27	12,431	924	1,202	14,557	987	1,799	1,474	5	0	5,199	12,691	12,468	34,623	49,180	1,821
11	26	9,776	529	704	11,009	787	1,118	3,268	7	0	2,255	6,942	8,729	23,106	34,115	1,312
12	21	4,232	409	0	4,641	436	371	840	12	0	47	2,071	5,037	8,814	13,455	641
2018.1	22	6,312	570	0	6,882	560	621	1,211	3	0	90	3,268	6,905	12,658	19,540	888
2	25	7,168	585	0	7,753	531	666	1,303	6	0	116	3,975	6,912	13,509	21,262	850
3	28	8,949	919	0	9,868	938	1,088	1,486	12	0	14	4,828	8,397	16,763	26,631	951
計	310	141,768	10,492	9,160	161,420	12,715	14,907	17,620	90	1,115	9,960	86,908	111,162	254,477	415,897	1,342

\*家族ふれあいサンデー等：「関西文化の日」における無料入場者を含む

## 2) 来館者 1,000 万人達成

開館してからの累計の来館者数が、2017年8月17日に1,000万人に達した。達成記念として、セレモニーを実施した。



## 3) 学校等入館者数

年月	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総計		
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	
2017.4	全 体	10	884	8	787	4	690	0	0	0	0	22	2,361
	県 内	0	0	1	61	0	0	0	0	0	0	1	61
5	全 体	42	3,733	19	2,465	3	481	4	200	2	44	70	6,923
	県 内	13	775	2	21	1	293	1	31	0	0	17	1,120
6	全 体	35	2,583	17	2,716	1	130	1	63	9	209	63	5,701
	県 内	19	1,198	3	411	0	0	0	0	2	85	24	1,694
7	全 体	6	374	11	711	6	220	1	17	6	261	30	1,583
	県 内	0	0	2	196	3	79	1	17	2	175	8	467
8	全 体	3	112	2	136	13	334	0	0	4	128	22	710
	県 内	0	0	0	0	9	64	0	0	0	0	9	64
9	全 体	31	2,624	3	370	3	160	6	97	6	382	49	3,633
	県 内	14	1,014	0	0	3	160	3	35	1	196	21	1,405
10	全 体	130	9,965	6	336	3	329	6	148	5	299	150	11,077
	県 内	71	4,881	4	233	1	43	2	26	1	195	79	5,378
11	全 体	44	3,445	9	1,135	2	32	0	0	1	42	56	4,654
	県 内	27	2,010	4	365	1	16	0	0	1	42	33	2,433
12	全 体	7	542	1	41	3	136	2	16	3	74	16	809
	県 内	5	437	1	41	0	0	1	9	0	0	7	487
2018.1	全 体	6	473	0	0	3	91	1	7	6	347	16	918
	県 内	4	309	0	0	2	66	1	7	4	134	11	516
2	全 体	17	1,167	1	80	0	0	5	88	3	93	26	1,428
	県 内	14	983	1	80	0	0	4	71	0	0	19	1,134
3	全 体	1	105	2	445	2	68	1	12	1	25	7	655
	県 内	0	0	1	144	0	0	1	12	0	0	2	156
合計	全 体	332	26,007	79	9,222	43	2,671	27	648	46	1,904	527	40,452
	県 内	167	11,607	19	1,552	20	721	14	208	11	827	231	14,915

#### 4) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2017.4	11,989	5,563	10,490	28,042
5	20,431	7,776	12,904	41,111
6	11,251	5,428	12,544	29,223
7	21,101	9,794	15,021	45,916
8	19,594	11,121	45,544	76,259
9	14,224	5,750	11,189	31,163
10	14,779	6,830	27,571	49,180
11	13,528	7,351	13,236	34,115
12	7,017	3,135	3,303	13,455
2018.1	8,734	3,908	6,898	19,540
2	11,261	4,509	5,492	21,262
3	11,033	5,687	9,911	26,631
計	164,942	76,852	174,103	415,897
構成割合	39.7%	18.5%	41.8%	100.0%

#### (2) 広報活動

2017年8月には開館以来の累計来館者数が、1,000万人を突破した。そのほかにも有料広告や資料提供等を通じて多くの話題を提供し、メディアに取り上げてもらうことができた。また専門業者に広報業務を委託し、パブリシティ活動を中心とする広報活動を展開し、観覧者数は41万人余りとなった。広告掲載3件、資料提供62件の広報活動を行い、テレビ・ラジオ37件、新聞掲載239件、雑誌等掲載85件、またWEBでも262件取り上げられた。2018年度は、第2期リニューアルの完成に向け県外への周知、京阪神の家族連れといったターゲットを絞った広報等、さらなる広報活動を展開していく必要がある。

#### 1) 広告掲載

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
2017年 5月	JR京都駅サイネージ広告 JR京都駅改札ステッカー			京都駅	
5月	夏ビア関西版 2017	A4版	1/4	関西	9万部
6月	夏休みファミリーレジャーガイド 2017 中部版	A4版	1/4ページ	中部	17万部

#### 2) 資料提供

	提供日	件名
1	4月18日	琵琶湖博物館 ディスカバリールームイベント 『みんなで「びわこいのぼり」を作ろう!』を開催しています
2	4月19日	琵琶湖博物館のリニューアルへの御支援に対する感謝状の贈呈式を開催します
3	4月21日	琵琶湖博物館 水族展示室 『下流域の魚たち』水槽にヤナを設置しました!
4	4月25日	琵琶湖博物館 フィールドレポーター・スタッフがイチョウウキゴケの生活史に関する論文を発表しました
5	5月2日	琵琶湖博物館 韓国国立洛東江生物資源館と協力協定を締結しました
6	5月25日	「日本遺産滋賀・びわ湖」パネル展を開催します
7	6月1日	琵琶湖博物館 布藤美之氏から滋賀県最大級の昆虫標本コレクションの寄贈がありました

	提供日	件名
8	6月6日	琵琶湖博物館 ピノキオコンサート ～大人と子どものための音・学・会 at 琵琶湖博物館を開催します
9	7月6日	滋賀県立琵琶湖博物館 びわ博フェス2017を開催します
10	7月7日	滋賀県立琵琶湖博物館 第25回企画展示 『小さな淡水生物の素敵な旅』～なぜ琵琶湖と同じカイミジンコがイースター島に!?!～
11	7月14日	滋賀県立琵琶湖博物館 第29回水族企画展示 大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～ を開催します
12	7月20日	琵琶湖博物館 環境ほっとカフェ『みんなでメダカを考える会』を開催します
13	7月25日	<記者発表> 夏の琵琶湖博物館にはワクワクがいっぱい!!
14	7月25日	烏丸半島 バス割引クーポン券の発行について
15	7月25日	琵琶湖博物館 トピック展示 「布藤美之氏寄贈コレクション」を開催します
16	7月27日	滋賀県立琵琶湖博物館の累計来館者がまもなく1,000万人を突破!! 達成日予想クイズを実施します
17	8月10日	琵琶湖博物館 マミズクラゲの展示を開始しました! ～マイクロアクアリウムに淡水ヒドロ虫がそらい踏み!!～
18	8月10日	滋賀県立琵琶湖博物館 累計来館者がまもなく1,000万人になります!
19	8月16日	滋賀県立琵琶湖博物館 累計来館者が明日1,000万人になります!
20	8月17日	琵琶湖博物館リニューアルのための御寄附について寄附目録・感謝状の贈呈式を開催します
21	8月17日	滋賀県立琵琶湖博物館 累計来館者が8月17日に1,000万人になりました!!
22	9月19日	滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示 「小さな淡水生物の素敵な旅」の来場者数が3万人を突破しました!!
23	9月19日	琵琶湖博物館 松原内湖から出土した約4000年前の縄文土器を特別公開します!!
24	9月20日	平成29年度 第1回滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
25	9月25日	「遊ぶように学び/学ぶように遊ぶ」遊学につぼんシンポジウムを開催します
26	9月26日	琵琶湖博物館 リニューアルサポーター企業(株式会社 叶 匠寿庵 様)の活動紹介パネル展示、関連イベントを開催します
27	9月29日	琵琶湖博物館 リニューアルサポーター企業(近江鍛工株式会社 様)の活動紹介パネル展示を開催します
28	10月3日	琵琶湖博物館アトリウムコンサート ～私たちが奏でる琵琶湖の響き～を開催します
29	10月11日	琵琶湖博物館のリニューアルへの御支援に対する感謝状の贈呈式を開催します
30	10月27日	琵琶湖博物館環境学習センター 『びわ博 学生ミーティングー環境活動の発信・交流会ー』を開催します
31	11月1日	琵琶湖博物館『ディスカバリールーム クロージングイベント』を開催します
32	11月8日	滋賀県立琵琶湖博物館 当館の学芸員が編集、執筆した書籍が 第30回「地方出版文化功労賞」で奨励賞を受賞しました!
33	11月9日	2017年度日本トンボ学会大会(滋賀大会)で シンポジウム「2010年代の滋賀県のトンボ ～1990年代からの変遷と未来～」を開催します
34	11月10日	滋賀県立琵琶湖博物館 企業によるトンボの保全活動の展示をします
35	11月17日	滋賀県立琵琶湖博物館 11月18日(土)、19日(日)は『関西文化の日』で博物館の入館料が無料になります!
36	11月22日	滋賀県立琵琶湖博物館 水族展示 「下流域の魚たち」水槽にビワマスが入りました!
37	11月27日	琵琶湖博物館環境学習センター 『環境学習活動者交流会ービオトープ観察の実技研修会ー』を開催します
38	11月28日	琵琶湖博物館・西の湖ヨシ灯り展実行委員会共催「ヨシ灯り展 in 琵琶湖博物館」を開催します

	提供日	件名
39	12月1日	滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習センター 環境ほっとカフェ 企業・地域・学校の連携による『地域の環境と生き物』理科学習を開催します
40	12月7日	滋賀県立琵琶湖博物館 『淡海こどもエコクラブ活動交流会』を開催します
41	12月13日	滋賀県立琵琶湖博物館 水族展示 今年もトンネル水槽にサンタクロースがやってきます！
42	12月14日	滋賀県立琵琶湖博物館 『第8回 琵琶湖地域の水田生物研究会』を開催します
43	12月15日	琵琶湖・烏丸半島魅力向上活性化協議会 からすまいちばんスタンプラリー実施中!!
44	12月20日	滋賀県立琵琶湖博物館 フィールドレポーター調査の結果報告 意外なところにカイツブリ！ -市民調査で新発見-
45	12月21日	滋賀県立琵琶湖博物館 『2017年度 新琵琶湖学セミナー』を開催します
46	12月22日	琵琶湖博物館イベント 「新春！びわ博カルタ大会」を開催します
47	12月26日	滋賀県立琵琶湖博物館 水族展示 トンネル水槽の改修工事を実施します
48	1月10日	「自然と人間との共生フェスタ in 滋賀」を開催します
49	1月12日	滋賀県で初めて有形民俗文化財が登録されます (県教育委員会/琵琶湖博物館)
50	1月23日	滋賀県立琵琶湖博物館にオフリド水生生物研究所所長が来館されます
51	2月9日	琵琶湖博物館ブックレット⑤ 『近江の平成雲根志-鉱山・鉱物・奇石-』を出版しました
52	2月14日	オニの念仏、ゾウの骨に会う 滋賀県立琵琶湖博物館B展示室 「収蔵庫をのぞいてみよう-近江の信仰-」を開催中です
53	2月16日	滋賀県立琵琶湖博物館 環境ほっとカフェ『外来種対応の考え方』を開催します
54	2月22日	平成29年度第2回滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
55	3月15日	滋賀県立琵琶湖博物館 バイカルアザラシのトントが死亡しました
56	3月16日	琵琶湖博物館 ミュージアムレストラン新メニュー ついに出了！琵琶湖博物館が作った本気のびわ湖カレー
57	3月16日	琵琶湖博物館 ミュージアムショップ 新商品続々！装い新たにリニューアルオープンします。
58	3月19日	琵琶湖博物館リニューアルのための御寄附について寄附目録・感謝状の贈呈式を開催します
59	3月20日	滋賀県立琵琶湖博物館 水族トピック展示 『世界初 バイカルヨコエビの赤ちゃん誕生!!』を開催します
60	3月22日	明治150年記念関連事業 琵琶湖漁撈の貴重な記録！！希少本『近江水産図譜』を展示中です
61	3月28日	琵琶湖博物館 研究調査報告30号 「滋賀県のトンボ(2010年代)」を出版しました
62	3月30日	琵琶湖博物館 ミュージアムレストラン おいしいびわ湖を召し上がれ！装い新たにリニューアルオープンします

### 3) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
5月24日	平和堂マイデイリーライフ	仕事内容とバイカルアザラシについて	FM 滋賀	松岡由子学芸員
5月8日～10日	おうみかわら版(滋賀)	伊藤園	ZTV	金尾滋史主任学芸員

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
5月14～20	Weekly!かわら版(滋賀)	伊藤園	ZTV	金尾滋史主任学芸員
5月16	ENT	博物館の紹介	毎日放送	金尾滋史主任学芸員
5月23	ENT	博物館の紹介	毎日放送	金尾滋史主任学芸員
5月30	ENT	博物館の紹介	毎日放送	金尾滋史主任学芸員
5月30	ごぶごぶ	博物館の紹介	毎日放送	金尾滋史主任学芸員
7月1	びわ湖放送開局45周年特別番組	琵琶湖博物館での中継	びわ湖放送	高橋啓一副館長
7月2	ザ!鉄腕!DASH!! DASH 0円食堂～滋賀県～	写真提供:『ニゴロブナ』 『ホンモロコ』	日本テレビ	金尾滋史主任学芸員
7月19	ニュースほっと関西	ウナギ	NHK 総合	金尾滋史主任学芸員
7月21～24	おうみかわら版(滋賀)	「みんなで「かいこ絵日記」をつくろう!」「小さな淡水生物の素敵な旅」 「大どじょう展」	ZTV	金尾滋史主任学芸員
7月23～29	Weekly!かわら版(滋賀)	「みんなで「かいこ絵日記」をつくろう!」「小さな淡水生物の素敵な旅」 「大どじょう展」	ZTV	金尾滋史主任学芸員
7月28	金曜報道スペシャル	水中ドローンで湖底調査	テレビ大阪	妹尾裕介学芸員
8月17	おうみ発630	来館者累計1,000万人達成	NHK 大津	金尾滋史主任学芸員
8月17	キラりん滋賀	来館者累計1,000万人達成	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
8月26	手話タイム・プラスワン	琵琶湖博物館 入館者1,000万人突破	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
9月9	おさかなコロンブス 水中ドローン新発見!!	写真提供:『ビワコオオナマズ』	山陽放送	金尾滋史主任学芸員
9月22	Nスタ	マミズクラゲの生態、顔写真提供	TBS	鈴木隆仁学芸技師
10月4	偉人たちの健康診断	写真提供「イブキカモジグサ」	NHKBS プレミアム	金尾滋史主任学芸員
10月24	キラりん滋賀	リニューアルサポーター企業活動紹介	びわ湖放送	澤村和宏副主幹
11月7	森谷威夫のお世話になります	琵琶湖博物館の紹介	KBS 京都ラジオ	金尾滋史主任学芸員
11月8	VS リアルガチ最強生物	写真提供:『ニゴロブナ』	TBS	金尾滋史主任学芸員
11月18	ウドちゃんの旅してゴメン「滋賀・草津市」編	琵琶湖博物館の紹介	京都放送	金尾滋史主任学芸員
11月19	遠くへ行きたい	写真提供:『ニゴロブナ』 他	読売テレビ	金尾滋史主任学芸員
11月24	みんなのニュース報道らんない 一走れ疑問調査部	琵琶湖のふなずし	関西テレビ	橋本道範専門学芸員
11月27	よーいドン「余呉湖」	琵琶湖博物館の紹介	関西テレビ	妹尾裕介学芸員
12月2	滋賀プラス1	大学生が考える琵琶湖の環境	びわ湖放送	澤村和宏副主幹
12月3	滋賀プラス1	大学生が考える琵琶湖の環境	びわ湖放送	澤村和宏副主幹
12月9	ブラタモリ(彦根の町と地形について)	松原内湖の成因について	NHK	里口保文総括学芸員

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
12/16	BBC ニュース	水中サンタクロース	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
12/17	関西のニュース	水中サンタクロース	NHK 大津	金尾滋史主任学芸員
1/19	おうみ発 630	びわ湖漁具が登録有形民俗文化財に	NHK 大津	渡部圭一学芸技師
1/22	ニュースおはよう日本	びわ湖漁具が登録有形民俗文化財に	NHK 総合	渡部圭一学芸技師
1/22	おはよう関西	びわ湖漁具が登録有形民俗文化財に	NHK 総合	渡部圭一学芸技師
1/22	ニュース	びわ湖漁具が登録有形民俗文化財に	NHK ラジオ	渡部圭一学芸技師
1/28	BBC ニュース	滋賀創造ゼミナール	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
3/1	スペースシャワーTV (前編)		CS 音楽専門チャンネル	
3/16	キラりん滋賀	トント死亡	びわ湖放送	
3/21	朝生ワイド す・またん！ ZIP！	琵琶湖博物館の紹介	読売テレビ	妹尾裕介学芸員

#### 4) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	1	[湖岸より] <288> 内湖の水田と生物 篠原徹館長	中日新聞
4	3	びわこ虫大量発生？今月初旬までピーク 「迷惑昆虫」 駆除は住民の自助努力 市や県の担当課、琵琶湖博物館などにも問い合わせ	毎日新聞
4	5	[県版王] 「飛び出し坊や」を探せ！！「出身地」県内 436 人も	読売新聞(夕刊)
4	6	県の調査船稼働低調 年間わずか18日のケースも 外部監査報告書 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
4	11	[びわ博こだわり展示の裏話] <1> 水族展示室にできた川魚屋の秘密 店主パネル 学芸員がモデル 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
4	12	「飛び出し坊や」はいま 琵琶湖博物館に登録する市民調査員が県内全域奔走 忍者などご当地で活躍 琵琶湖博物館担当者のコメント	朝日新聞
4	13	[現代のことば] 時の流れ 琵琶湖博物館でのオサムシの展示 養老孟司氏	京都新聞(夕刊)
4	15	[湖岸より] <289> 博物館の高度な利用法 小林偉真主任主事	中日新聞
4	21	「びわこいのぼり」を作ろう 滋賀県立琵琶湖博物館	産経新聞
4	21	観光名所で謎解き隠された宝探そう ガイドブックは琵琶湖博物館などで無料配布	中日新聞
4	23	琵琶湖から考える地方自治 保全に住民の力を「流域府県と連携も大切」 嘉田由紀子元琵琶湖博物館研究顧問	毎日新聞
4	24	「びわ湖熊本県の会」設立 西岡信夫元琵琶湖博物館副館長らがきっかけ	毎日新聞
4	25	[びわ博こだわり展示の裏話] <2> バイカルアザラシ輸送大作戦！！ 保冷車 15 度木箱でいざ出発 松岡由子学芸員	毎日新聞
4	28	湖国に熊本出身の輪 県人会発足震災で絆強める 会長に就任した西岡信夫元琵琶湖博物館副館長の話	京都新聞
4	29	[湖岸より] <290> 琵琶湖に眠る遺跡 妹尾裕介学芸員	中日新聞
4	30	楽しみいっぱいGW 子どもたち笑顔あざらしに夢中 県立琵琶湖博物館	中日新聞
5	3	琵琶博が韓国研究機関と協力協定	毎日新聞
5	3	韓国の博物館と協定 琵琶博人材交流など連携 篠原徹館長が調印式に臨む 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
5	6	古新聞でかぶと作り 琵琶湖博物館	読売新聞
5	7	行ってみよう博物館 日本最大の湖を知り尽くせ 滋賀県立琵琶湖博物館	東京新聞
5	7	湖岸を散策俳句楽しむ 草津景色や生き物、題材に 琵琶湖博物館や近くの湖岸沿いを散策	京都新聞
5	9	[びわ博こだわり展示の裏話] <3> 変わりゆく「現在」を見せる工夫 暮らしを彩るはやり物 大久保実香学芸員	毎日新聞
5	10	学芸員は大いそがし 地方創生大臣の発言で注目 琵琶湖博物館の「学芸員の机」の展示の紹介	朝日小学生新聞
5	12	「生活実験工房たんぼ体験」の案内	読売新聞 (しが県民情)
5	13	琵琶博と韓国機関協定 共同研究や展示検討	読売新聞
5	13	[湖岸より] <291> 東アジアで新たな交流目指す 桑原雅之総括学芸員 / [バリの教訓] 3 企業不参加発展に壁 中井克樹専門学芸員の話	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	13	びっくり土間にシロマダラ 金尾滋史主任学芸員の話	京都新聞
5	16	[バリの教訓]4 茨城へ市民参加促す 中井克樹専門学芸員の話	中日新聞
5	16	[わたしの作品]びわこはくぶつかんに行ったよ	京都新聞
5	18	ウグイ 40 匹放し春のヤナ漁再現 片岡佳孝主任主査のコメント	朝日新聞
5	19	謎多き準絶滅危惧種研究 “水陸両用” コケ主婦迫る 琵琶博の県民調査員器官形成など論文に フィールドレポーター前田雅子さんの話	京都新聞
5	19	労使協定 限度超の残業、計14 職場 県が自主点検業務見直し	毎日新聞
5	19	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「滋賀と京都にイルカがいた時代」）	朝日新聞(夕刊)
5	23	[びわ博こだわり展示の裏話]〈4〉 カヤネズミの飼育係奮闘記 特製ケースが巢の楽園に 澤邊久美子学芸員	毎日新聞
5	27	[湖岸より]〈292〉 「生きている日本遺産」探して 渡部圭一学芸技師	中日新聞
5	28	[滋賀プラス1]新聞版 催し・講座案内 琵琶湖博物館のイベント 「『日本遺産滋賀・びわ湖』パネル展」「ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！」「みんなで湖魚料理をつくろう！（コアユ・シジミ編）」「からすま半島で昆虫を観察しよう」	各紙
5	28	県内の日本遺産をパネルで魅力紹介 琵琶湖博物館	中日新聞
5	29	レタス丸ごと？どう食べる 琵琶湖博物館近くのカフェ「イントロ」	京都新聞
5	31	豊かな水辺景観知って 草津でパネル展 文化や歴史紹介 芳賀裕樹総括学芸員のコメント	読売新聞
6	2	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「滋賀と京都にイルカがいた時代」）	朝日新聞(夕刊)
6	3	会議前に琵琶湖視察 名古屋の河村市長ら 琵琶湖博物館では高橋啓一副館長が展示品を紹介	読売新聞
6	5	[出発点 琵琶湖赤潮から40年]〈18〉生活者の視点で取り組む 三位一体 嘉田由紀子元琵琶湖博物館研究顧問	朝日新聞
6	6	[びわ博こだわり展示の裏話]〈5〉 水槽以外の見せ方に注目 写真や映像よりリアルに 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
6	7	もはや文化 滋賀の「飛び出し坊や」多様化 琵琶湖博物館が調査	産経新聞
6	7	琵琶湖のカイツブリ あのお菓子を携え歴史語る 琵琶湖博物館の展示室の水槽で泳ぐカイツブリの写真	朝日新聞
6	9	70年収集昆虫2万点超 丁寧に保存 絶滅危惧種ギフチョウなど 彦根・布藤さん、琵琶湖博物館に寄贈	朝日新聞
6	10	[湖岸より]〈293〉 妖精のような魚「ゴロミヤンカ」 松岡由子学芸員	中日新聞
6	10	人々と共に歩む 気配りに感動、勉強熱心 前畑政善元上席総括学芸員の話	京都新聞
6	16	琵琶湖の上を遠足 大津市の園児が目的地の琵琶湖博物館のある烏丸半島まで30分の船旅	朝日新聞
6	16	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「滋賀と京都にイルカがいた時代」）	朝日新聞(夕刊)
6	18	サギにふん概拝観中止 100カ所営巣で被害モミジ真っ白、悪臭も 名勝・野洲の兵主大社庭園 亀田佳代子総括学芸員の話	京都新聞
6	19	彦根の男性琵琶博へ2万6千点 「チョウ博士」全標本寄贈	京都新聞
6	20	[びわ博こだわり展示の裏話]〈6〉 本当のスギ花粉知っていますか？ 少し曲がったツノ 愛らしく 林竜馬学芸員	毎日新聞
6	20	懐かしい昭和の琵琶湖 写真60枚 地元の協力 大津北村さん、来月4日から琵琶湖博物館で写真展	朝日新聞
6	24	[湖岸より]〈294〉 生息数激減のアユモドキ展示 松田征也総括学芸員	中日新聞
6	25	誕生100年 各地で行事 「周航の歌」未来へ高らかに 式典では篠原徹館長が琵琶湖を詠んだ歌や俳句を引用しながら自然と文化を解説	読売新聞
6	25	琵琶湖周航の歌誕生100年高島で記念式典 篠原徹琵琶湖博物館館長と周航の歌研究者の飯田忠義さんが記念講演	毎日新聞
6	26	[びわ湖ラン]自然感じる烏丸半島 風車や県立琵琶湖博物館や市立水生植物公園みずの森	毎日新聞
6	29	しがキャンパるユニーク商品「びわこ文具」開発担当女性に聞く 琵琶湖固有種の魚のイラストに琵琶湖博物館学芸員のアドバイス	毎日新聞
7	1	[湖岸より]〈295〉 きょうあす全日本博物館学会 戸田孝専門学芸員	中日新聞
7	1	路線バスでピワイチGO2日間かけ3社20本乗り継ぎ 琵琶湖博物館では2、3時間の余裕を設ける	京都新聞
7	9	琵琶湖の自然描いて覚えて びわ博フェス	読売新聞
7	9	作って知って琵琶湖のお魚「びわ博フェス」	朝日新聞
7	9	琵琶湖や自然を知って 博物館でフェス 家族連れら楽しむ	産経新聞
7	11	[名品手鑑]〈16〉県立琵琶湖博物館 滋賀の博物館・美術館探訪 必見湖底遺跡の貝塚展示 全体像分かる貴重な縄文土器 妹尾裕介学芸員 / [びわ博こだわり展示の裏話]〈7〉 琵琶湖に流れ込む川のさかなたち 下流域の営み水槽で再現 桑原雅之総括学芸員	毎日新聞
7	11	[とことんサーチ]湿地帯の名残 淀の競馬彩る コース内側の全面なげ池？ 中井克樹専門学芸員のコメント	日本経済新聞(夕刊)
7	13	路線バスでピワイチGO2日間かけ3社20本乗り継ぎ 琵琶湖博物館では2、3時間の余裕を設けるピワイチ 8月通常1万円が4000円に 3社共同新企画	毎日新聞
7	14	兵主大社の庭園拝観中止 サギふん害対策協議 亀田佳代子総括学芸員のコメント	京都新聞
7	15	[湖岸より]〈296〉 小さな淡水生物の素敵な旅 ロビン・スミス専門学芸員	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	19	国体や琵琶博のリニューアル、新生美術館の新設など大規模事業見直し三日月知事が示唆	朝日新聞
7	20	生き物の姿 琵琶湖博物館で学ぼう 企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、水族企画展示「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」の案内 金尾滋史主任学芸員のコメント	中日新聞
7	20	博物館学芸員の仕事<上>未来のため「自由な学び」を 妹尾裕介学芸員	毎日新聞
7	25	[名品手鑑]<17>多賀町立博物館 滋賀の博物館・美術館探訪 独自に進化アケボノゾウ 全身骨格化石 93年に発掘 琵琶湖博物館開設準備室が研究調査への協力	毎日新聞
7	29	[湖岸より]<297> 交流が生む連携プレー 大塚泰介専門学芸員	中日新聞
7	31	琵琶湖博物館1千万人達成日はいつ？来月から予想クイズ	産経新聞
8	1	[びわ博こだわり展示の裏話]<8> 五感で体験リアルな“におい”かぐと危険？カワウすむ 森 亀田佳代子総括学芸員	毎日新聞
8	3	[時の回廊]かすがい模様湖の主役 琵琶湖最後の丸子船 滋賀県草津市 用田政晴名誉学芸員の話	日本経済新聞
8	3	来館者1000万人目はいつ？？予想クイズ抽選で正解者50人に記念品 県立琵琶湖博物館	毎日新聞
8	4	[遊・You・友]布藤美之氏寄贈コレクションの開催案内	朝日新聞
8	4	来館者まもなく1000万人 開館21年の琵琶湖博物館、研究進み水族展示も人気 篠原徹館長のコメント	中日新聞
8	5	バス乗り継ぎビワイチ 3社協力今月限定の臨時便も	中日新聞
8	12	[湖岸より]<298> 滋賀県の3種類の石 里口保文総括学芸員	中日新聞
8	12	「発見」の夏休みに 企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」水族企画展示「大どじょう展」、「かいこ絵日記」をつくらう！の開催案内	産経新聞
8	14	県内絶滅チョウ標本も 琵琶博で展示布藤さん収集品	京都新聞
8	15	ひっそり滋賀県庁 お盆集中休暇 琵琶湖博物館などの一般利用者がある施設は通常通り	京都新聞
8	15	写真を絵画化独特の奥行き 琵琶湖博物館で展示会	産経新聞
8	16	リフレッシュしてね 県職員が夏季集中休暇 県立琵琶湖博物館などはほぼ平常通りの勤務態勢	産経新聞
8	18	琵琶湖博物館1000万人 20年10ヵ月で達成 津田清和副館長が式典であいさつ、記念品などを贈呈	毎日新聞
8	18	県立琵琶湖博物館 来館1千万人 認定書や記念品などを手渡される 津田清和副館長の話	朝日新聞
8	18	琵琶博来館1000万人96年オープン 認定書や記念品などを贈られる 津田清和副館長の話	読売新聞
8	18	琵琶湖博物館来館1000万人達成 名古屋の寺井さん一家 式典で認定書や記念品を贈呈される 津田清和副館長の挨拶	中日新聞
8	18	琵琶博1000万人 淡水最大級 開館21年で達成 来館の小学生に花束や記念品が贈られる 津田清和副館長の挨拶	京都新聞
8	18	琵琶湖博物館入館者1000万人突破 リニューアル後、年3割増に「2000万人を目指す」 津田清和副館長の話	産経新聞
8	18	[展覧会]「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」の開催案内 / アミンチュてれびBBC プロジェクト紹介 「海と日本プロジェクト in 滋賀県」で水の「守り人」の活動探る 琵琶湖の漁師への聞き取りや琵琶湖博物館等への訪問を予定	読売新聞（しが県民情報）
8	20	[告知板]「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」の開催案内	朝日新聞
8	20	夏休み思い出できたよ 生き物とれた 草津「下物ピオトープ」で琵琶博と県庁が生き物を観察するイベントを共催	中日新聞
8	22	[びわ博こだわり展示の裏話]<9> 長～いハッタミミズ どうすれば全身見せられる？ 大塚泰介専門学芸員	毎日新聞
8	25	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「滋賀と京都にイルカがいた時代」）	朝日新聞（夕刊）
8	26	[湖岸より]<299> 湖面に広がる水生植物ヒシ 山川千代美総括学芸員 / メダカのニセモノ要注意 特定外来種「カダヤシ」ピオトープ生息逃がさないで <写真資料提供：『メダカ』『カダヤシ』>	中日新聞
9	5	[びわ博こだわり展示の裏話]<10> 生き物コレクション 迫力と美しさを追求 八尋克郎総括学芸員	毎日新聞
9	6	[なるほどドリ]「めだかの学校」廃校相次いでいるの？ 野生種県内からも減少「第3の外來魚」の遺伝子かく乱心配 大阪経済法科大特任准教授川瀬成吾琵琶湖博物館特別研究員を講師に「みんなでメダカを考える会」開催	毎日新聞
9	7	[近江商人物語]<11>琵琶湖と八幡の町 琵琶湖博物館展示の丸子船の写真	中日新聞
9	8	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「滋賀と京都にイルカがいた時代」）	朝日新聞（夕刊）
9	9	[湖岸より]<300> 琵琶湖地域の文化を世界へ 橋本道範専門学芸員	中日新聞
9	22	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「滋賀と京都にイルカがいた時代」）	朝日新聞（夕刊）
9	23	[湖岸より]<301> 小さな生き物を大きく見せる 鈴木隆仁学芸技師	中日新聞
9	26	[びわ博こだわり展示の裏話]<11> 神出鬼没 不思議なマミズクラゲ 研究重ね、長期連続展示 松田征也総括学芸員	毎日新聞
9	26	[とことんリサーチ]琵琶湖 「水止めたるか」実際どうなる…滋賀水浸し？笑えぬ冗談 芳賀裕樹総括学芸員の話	日本経済新聞（夕刊）

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
9	29	嘉田由紀子前知事元琵琶湖博物館研究顧問衆院選に立候補	京都新聞(夕刊)
9	30	[湖岸より]<302> 湖と森を感じる博物館へ 林竜馬学芸員	中日新聞
10	6	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「小さな淡水生物の素敵な旅」)	朝日新聞(夕刊)
10	14	[湖岸より]<303> 琵琶湖で音楽と共に楽しむひととき 妹尾裕介学芸員	中日新聞
10	20	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「小さな淡水生物の素敵な旅」)	朝日新聞(夕刊)
10	27	微小生物不思議パワー 琵琶博企画展カイミジンコ、クマムシ… 鈴木隆仁学芸技師のコメント	読売新聞
10	27	[遊・You・友]「生きもの総合調査20周年記念フォーラム」開催案内	朝日新聞(夕刊)
10	28	[湖岸より]<304> 博物館田んぼ行事と近江米 下松孝秀主任主査 / 湖国の生き物講演で知ろう あす琵琶湖博物館	中日新聞
10	28	[実一つけた!]水辺の観光テーマにシンポ 来月滋賀琵琶湖博物館で開催 金尾滋史主任学芸員のコメント	毎日新聞(夕刊)
10	30	ふなずし文化、世界に発信 地方出版文化功労 琵琶博・橋本さん奨励賞 橋本道範専門学芸員のコメント / 湖国の生物多様性守れ 琵琶博で研究者らフォーラム 八尋克郎総括学芸員の話	京都新聞
10	30	ふなずし文化を研究 滋賀の学芸員奨励賞 橋本道範専門学芸員のコメント	中日新聞
10	30	「ふなずし 世界に発信」琵琶湖博物館の学芸員著者が奨励賞受賞、講演 橋本道範専門学芸員のコメント	日本経済新聞
10	31	[びわ博こだわり展示の裏話]<12> あえて燃やさない 本物のヨシたいまつ 工夫凝らし美しい姿で 渡部圭一学芸技師 / 絶滅危機県民も関心を 生きもの総合調査20周年記念フォーラム琵琶湖博物館で開催	毎日新聞
11	2	「ふなずし文化を世界に発信うれしい」「地方出版文化功労」奨励賞 琵琶湖博物館の橋本道範専門学芸員講演、コメント	産経新聞
11	3	[遊・You・友]「びわ博学生ミーティング」開催案内	朝日新聞(夕刊)
11	11	[みちのものがたり]宮沢賢治の「足跡」(岩手県) 高橋啓一副館長の話	朝日新聞
11	11	[湖岸より]<304> 琵琶湖岸の海浜植物 大槻達郎学芸技師	中日新聞
11	13	地球史「千葉時代」誕生へ 国際審査伊破り命名「チバニアン」 里口保文総括学芸員の所属するチームが申請	産経新聞(夕刊)
11	14	地質学の「チバニアン」国際審査唯一の候補に 77万～12万6千年前	朝日新聞
11	14	[びわ博こだわり展示の裏話]<13> 水槽の水を冷やす生命線 設備生き物飼育に必要 金尾滋史主任学芸員 / チバニアン地質年代に 77万～12万6000年前国際機関内定	毎日新聞
11	14	「千葉時代」命名へ大前進 市原の77万年前地層国際学会の審査通過	中日新聞
11	14	県の試験研究成果一堂に 草津琵琶博で8機関のポスター展示	京都新聞
11	19	幻の水生昆虫情報求む! みなくち子どもの森自然館学芸員河瀬直幹琵琶湖博物館特別研究員	毎日新聞
11	24	アミンチュてれびBBC番組ガイド “水の道”約150キロヲ巡る チームに分かれ琵琶湖博物館で壁新聞も制作	読売新聞(しが県民情報)
11	25	[湖岸より]<306> 琵琶湖に固有な魚たちの歴史 田畑諒一学芸技師	中日新聞
11	26	探してますババハタルトビケラ甲賀100年以上目撃なし みなくち子どもの森自然館学芸員河瀬直幹琵琶湖博物館特別研究員のコメント	読売新聞
11	28	[びわ博こだわり展示の裏話]<14> 学芸員の仕事紹介研究スタジアム 来館者と交流、参加の場 榎永一宏専門学芸員 / 「ふなずしの歴史」奨励賞 地方出版文化功労賞 琵琶湖博物館橋本道範専門学芸員のコメント	毎日新聞
11	30	流れに逆らい群れでスイスイ 旬のオイカワ琵琶湖博物館で展示 金尾滋史主任学芸員のコメント	京都新聞
12	4	外来植物大量に駆除 たかしまの琵琶湖岸、研究者ら 中井克樹専門学芸員のコメント	京都新聞
12	6	ヨシ紙通して琵琶湖知って 琵琶湖博物館で年賀状など作成	産経新聞
12	7	[キーパーソン]ふなずし通説に新たな息吹 橋本道範専門学芸員	産経新聞
12	9	[湖岸より]<307>琵琶湖のあるべき姿を伝える 片岡佳孝主任主査	中日新聞
12	12	[びわ博こだわり展示の裏話]<15> 小さな生き物を飼育する特別な水槽 わがまま仕様工夫凝らす 鈴木隆仁学芸技師	毎日新聞
12	16	県内観光客初の5000万人突破 昨年大河ドラマ、映画効果大きく 琵琶湖博物館24位	毎日新聞
12	17	水中サンタびっくり草津琵琶湖博物館	読売新聞
12	17	「アザラシ見に来たらサンタ。びっくり」Xマス楽しいひととき琵琶湖博物館	京都新聞
12	22	テーマは「湖と生きる」 成安造形大付属研「近江学10号発行」琵琶湖博物館学芸員らも寄稿	中日新聞
12	23	[湖岸より]<308> アメリカザリガニ再び登場 中井克樹専門学芸員	中日新聞
12	25	水槽にサンタ登場!琵琶湖博物館子どもたち手振る	中日新聞
12	26	[湖国この一年2017]④8月17日琵琶湖博物館の来館者が1千万人を達成	京都新聞
12	27	琵琶湖の生態系再生へ オムロン野洲事業所 琵琶湖博物館から親魚を譲り受けたイチモンジタナゴが天然に比べて大きく育つ	日刊工業新聞
12	29	[イベント]「からすまいちばんスタンプラリー2017」の案内	読売新聞(しが県民情報)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	30	新春ガイド[イベント]「びわ博カルタ大会」の案内	朝日新聞
1	3	琵琶湖のいろは カルタで学ぼう 琵琶湖博物館で「新春！びわ博カルタ大会」を開催 榊永一専攻学芸員らが琵琶湖の自然や同館の研究活動について知ってもらおうと作成	読売新聞
1	4	滋賀を再発見 びわ博カルタ ふなずしは近江の味だよ食べてみて	中日新聞
1	10	湖沼の未来考えて 取り組み報告や討論 琵琶湖博物館でシンポジウム開催	中日新聞
1	12	烏丸半島の3施設（県立琵琶湖博物館・水生植物公園みずの森・道の駅草津グリーンプラザからすま）でスタンプラリー	産経新聞
1	13	[湖岸より]<309> ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほitori 高橋啓一副館長 / たくましいカイツブリ 巧みに繁殖、人を恐れず 琵琶湖博物館県民調査員が報告書 報告書をまとめた前田雅子さんのコメント	中日新聞
1	16	[びわ博こだわり展示の裏話]<16> 触って感じる琵琶湖の水温 実体験から着想 感動共有 芳賀裕樹総括学芸員	毎日新聞
1	16	カイツブリ ヨシない場所でも 木の枝など巧みに利用 琵琶湖博物館、生息を調査	産経新聞
1	19	[遊・You・友]「ILEC30周年記念シンポジウム「湖沼・水辺の保全・活用に向けた世界の取り組み」 琵琶湖博物館ホールでの開催案内	朝日新聞(夕刊)
1	19	[講演・講座]「新琵琶湖学セミナー 琵琶湖博物館ブックレットから見えてくる研究の新たな展望」の開催案内	読売新聞(しが県民情報)
1	20	琵琶湖の漁業 変遷示す民俗文化財文化審が答申 琵琶湖博物館が保管する かごや、船大工用具 2437 点県内では初めて登録有形民俗文化財に指定	読売新聞
1	20	輪島の海女漁 重要無形民俗文化財に 琵琶湖の漁・船大工用具は登録有形に 収集ひんを保管する琵琶湖博物館 渡部圭一学芸技師のコメント	朝日新聞
1	20	琵琶湖の漁具 国文化財に 琵琶博保管、船大工用具含む 2437 点「登録有形民俗」で文化審答申	京都新聞
1	20	琵琶湖の漁業・船大工用具 有形民俗文化財登録へ 多種多様な 2437 点 県立博物館「漁の様子知るきっかけに」 琵琶湖博物館担当者のコメント	中日新聞
1	20	文化審議会答申 琵琶湖の漁業を支えた用具、有形民俗文化財登録へ 県立琵琶湖博物館が収集保管	産経新聞
1	20	琵琶湖の漁 伝統と変遷 漁業用具が国文化財に 琵琶湖博物館のコメント	毎日新聞
1	20	鳩海離れ？子育てに波高く カイツブリ琵琶湖から内陸へ 琵琶湖博物館フィールドレポーターが調査 亀田佳代子総括学芸員のコメント	毎日新聞(夕刊)
1	22	再整備遅れる滋賀近美 所蔵品、県内外で存在感 琵琶湖博物館など約 10 館に約 700 件 / ハス群落復活 魚つかみエリア 昭和の良き琵琶湖再び 琵琶湖博物館などのある烏丸半島近く・下物ビオトープ 県、18 年度本格整備へ	京都新聞
1	23	カイツブリ意外な営巣地 ヨシ群落以外の池沼 琵琶博調査、環境変化内陸部で繁殖 亀田佳代子総括学芸員のコメント <写真資料提供：『カイツブリ』>	読売新聞
1	23	カイツブリ巧みな繁殖術 ヨシ帯以外でも樹木利用し営巣 県立琵琶博の県民レポーター調査 博物館のコメント	京都新聞
1	27	[湖岸より]<310> 「樹冠トレイル」の完成に向けて 北井剛主査	中日新聞
1	27	つがやま市民教養文化講座「ふなずし研究のこれまでとこれから」	産経新聞
1	28	草津・国際湖沼環境委 30 周年記念シンポ 豊かな水辺未来に 琵琶湖博物館で開催	京都新聞
2	6	[びわ博こだわり展示の裏話]<17> 滋賀の哺乳類大集合 譲り受けた刺製修復活用 澤邊久美子学芸員	毎日新聞
2	6	美しく面白い近江の鉱石 半世紀以上採集元県職員が本出版 17 ヲ所、歴史にも触れ「琵琶湖博物館ブックレット」のシリーズで紹介	京都新聞
2	10	[遊・You・友]びわ湖セミナー「琵琶湖の環境と魚、そして人」前畑政善名誉学芸員 開催案内	朝日新聞(夕刊)
2	10	[湖岸より]<311> 知ってる？イタチムシ 鈴木隆仁学芸技師	中日新聞
2	10	県教委方針 利用希望ない場合「うみのこ」解体も 県議会では部品を琵琶湖博物館に展示するなどの意見	京都新聞
2	12	琵琶湖の水産資源回復 研究成果発表 来月。大津でセミナー 神戸学院大教授前畑政善琵琶湖博物館名誉学芸員が基調講演	京都新聞
2	24	[湖岸より]<312> オフロード水生生物研究所との連携 芳賀裕樹総括学芸員	中日新聞
2	27	[びわ博こだわり展示の裏話]<18> 地味だけどスゴイ！淡水の貝 指先で触れる貴重な質感 松田征也総括学芸員	毎日新聞
2	27	琵琶湖在来種回復取り組み成果紹介「琵琶湖の環境と魚、そして人」神戸学院大教授前畑政善名誉学芸員	中日新聞
2	28	魚の老廃物 DNA 分析 生息河川特定時間を短縮 京大・中川特定助教きょう米科学誌に発表 ハスの生息場所は琵琶湖博物館の調査では確認できていなかった新たな報告 <写真資料提供：『ハス』> / 県議会二月定例会議 温室ガス 7.8%減少 削減目標達成までの取り組みの一例として夏休み中に琵琶湖博物館で温暖化に関する自由研究講座を開催	中日新聞
2	28	水中の DNA で魚推測 京滋の河川、簡単に分布調査 京大助教ら発表 琵琶湖博物館で魚を実際に観察して把握した 44 種のうち 38 種を確認	京都新聞
3	1	読者プレゼント 琵琶湖博物館ペア入館券	京都新聞
3	2	[ソフィア 京都新聞 文化会議]<596> ヒトと災害の関係を見直す 元琵琶湖博物館館長川那部浩哉京大名誉教授	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	4	琵琶湖魚介豊かさ復活を 大津でセミナー生息環境の課題や研究紹介 神戸学院大教授前畑政善名誉学芸員が基調講演	京都新聞
3	4	瀬田川流域暮らしの記憶 昭和40年代中心ダムに沈んだ建物「懐かしの瀬田川写真 河川と暮らした地域の記憶」を北村美香特別研究員が作成	読売新聞
3	6	全身金色ありがたや 長浜の松田さん「弁天ナマズ」発見 琵琶湖博物館の話	中日新聞
3	9	「下物ビオトープ」再整備 草津シャワー室や遊歩道 近隣に琵琶湖博物館などの観光施設	読売新聞
3	9	琵琶湖博物館催し物案内（「琵琶湖の湖底をのぞいてみよう！」）	産経新聞
3	10	[湖岸より]<313> “エリ漁”と漁師の知恵 松田征也総括学芸員	中日新聞
3	13	[びわ博こだわり展示の裏話]<19> 見たまま理解してほしい蟹気楼 元の形と対比 映像活用 戸田孝専門学芸員	毎日新聞
3	16	アザラシ・トント天国へ 琵琶湖博物館のコメント <写真資料提供：『トント』>	読売新聞
3	16	びわ博飼育のトント天国へ バイカルアザラシ <写真資料提供：『トント』>	毎日新聞
3	16	アザラシ「トント」天国へ 県立琵琶湖博物館35歳の高齢 <写真資料提供：『トント』>	京都新聞
3	16	バイカルアザラシ トント天国へ 琵琶湖博物館のコメント<写真資料提供：『トント』>	産経新聞
3	16	高齢アザラシ「トント」天国へ 琵琶湖博物館の話 <写真資料提供：『トント』> / 琵琶湖の外来種オオバナミズキンバイ 重機で根ごと駆除 県主催で中井克樹専門学芸員が現状や作業状況を説明	中日新聞
3	18	ご長寿アザラシ トントが旅立つ 国内3番目、原因調査中 琵琶湖博物館の話 <写真資料提供：『トント』>	朝日新聞
3	21	県立琵琶湖博物館 ロシアのバイカル湖固有種 ヨコエビ人口飼育成功、展示 金尾滋史主任学芸員のコメント <写真資料提供：『アカントガンマルス・ヴィクトリイの幼体』>	京都新聞
3	21	謎多きバイカルヨコエビ幼体展示 琵琶湖博物館5月6日まで <写真資料提供：『バイカルヨコエビの幼体』>	産経新聞
3	23	外部監査指摘琵琶湖博物館の委託管理業務など23件 再委託など県に改善求める / 「野生動物研修会 琵琶湖や各地の海を泳ぐイノシシ」開催案内	産経新聞
3	23	びわ湖カレー登場 来月から琵琶湖博物館湖南農業高生と開発	中日新聞
3	24	[湖岸より]<314> 屋外展示を使った博物館の活用 奥野知之主査	中日新聞
3	25	学芸員監修グッズ熱視線 琵琶博ショップ新装オープン 亀田佳代子総括学芸員監修の「くすみボタン」などの新商品が注目	読売新聞
3	25	[滋賀プラス1]新聞版 催し・講座案内「描かれた湖国の生き物と風景」	各紙
3	27	[びわ博こだわり展示の裏話]<20> カタツムリ移り変わる殻の色柄 多様な地域性独特な魅力 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
3	27	琵琶博工事費500万円を寄付 大津の釣り具製造会社 / 湖国食材でびわ湖カレー マーマレード隠し味に湖南農高生ら琵琶博新メニュー考案	京都新聞
3	30	びわ湖カレーいかが 琵琶湖博物館に新メニュー湖南農高生が協力	朝日新聞
3	30	湖国を世界農業遺産に 湖魚育む水田、伝統漁など柱 県、推進協議会を設立総会で橋本道範専門学芸員が講演	京都新聞
3	31	[湖岸より]<315> 世界初!!バイカルヨコエビの幼体展示 金尾滋史主任学芸員	中日新聞
3	31	びわ湖カレールーに隠し味 琵琶博湖南農高のマーマレード	読売新聞

## 5) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	ILEC設立31周年記念「湖と生きる-琵琶湖から世界へ 未来へ!」、「はしかけ登録講座」「新琵琶湖学セミナー」の案内	博物館研究 vol.52 No.4 (No.586号)
4	「2017年琵琶湖フォトコンテスト作品展～伊藤園お茶で琵琶湖を美しく。～」、「カブトを作ろう!」「田んぼ体験(5月)」「はしかけ登録講座」「みんなで湖魚料理をつくろう!(コアユ・シジミ編)」「タンポポ調査に出かけよう!」「ドキ土器!おしゃれもようを楽しもう!」「『くつきの森ユリノキまつり』森の観察会」「里山探検 田んぼの生き物見つけ隊」の案内	れいかる(湖国文化情報)5・6月号 vol.98
4	リニューアルして大幅パワーアップ!琵琶湖の生き物のすべてがわかる博物館	しが探検ミュージアム4・5月 vol.1
4	「バイカルアザラシのことを知ってみよう」「タンポポ調査に出かけよう!」「ドキ土器!おしゃれもようを楽しもう!」の案内	教育しが 4月号 vol.62
4	五感で学べる&楽しめる!進化する琵琶湖博物館	日帰りドライブびわ(関西版)2017-2018
4	「伊藤園フォトコンテスト写真展2017」の案内	滋賀報知(4/20)
4	バイカルアザラシをみられるのは関西でココだけ!琵琶湖博物館がリニューアルOPEN	るるぶ滋賀びわ湖 長浜・彦根'18
4	「こどもの日」の県立施設の無料開放	ままこっと 春号 vol.3
4	春の琵琶湖クルーズ AROUND SPOT! 琵琶湖博物館	遊・悠・West 関西版 春号

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	穏やかな風を受けてサイクリング琵琶湖日帰りコース 琵琶湖の生き物、植物に出会う！琵琶湖博物館	KELLY 6月号 No. 359
4	春のおでかけ特集 2016年夏リニューアル！琵琶湖のすべてがわかるミュージアム琵琶湖博物館	Kids Do 滋賀版
4	遊びどころと見どころ満載！草津を楽しもう！「湖と人間の未来を考える琵琶湖博物館」	KuSaTsu 観光ガイドマップ
5	「ドキッ器！おしゃれもようを楽しもう！」「みんなで湖魚料理をつくろう！」「里山探検 田んぼの生き物見つけ隊」の案内	博物館研究 vol.52 No.6 (No.588号)
5	「5月6月の特別展」琵琶湖フォトコンテスト作品展～伊藤園 お茶で琵琶湖を美しく。～の案内	全科協 NEWS vol.47 No.3 (No.274号)
5	湖と淡水魚の関係を学ぼう滋賀県立琵琶湖博物館	まっふる家族でおでかけ東海北陸 '17-'18
5	ニューオープン&リニューアルした話題のスポット 日本でここだけの新展示も2016年7月リニューアル	まっふる滋賀・びわ湖(長浜・彦根・大津'18)
5	魚が聞いている音に耳をすませ楽しめる水中散歩琵琶湖博物館	SINRA 5月号
5	日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」織田信長と白洲正子の視点で紹介琵琶湖博物館でパネル展	滋賀報知 (5/31)
6	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、水族企画展示「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」、「水草を観察しよう！」「初心者のためのふなずし作り体験」「びわこ×アート びっくりバードランド」の案内	博物館研究 vol.52 No.7 (No.589号)
6	かわいい！の旅水族館・動物園 琵琶湖博物館	Gran Resort 6月号
6	「ピノキオコンサート～大人と子どものための音・学・会 at 琵琶湖博物館」、企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、水族企画展示「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」、「からすま半島で昆虫を観察しよう」「初心者のためのふなずし作り体験」「びわこ×アート びっくりバードランド」「田んぼ体験(7月)」「短冊に願いをかこう！」「みんなで「かいこ絵日記」をつくろう！」「水草を観察しよう！」の案内	れいかる(湖国文化情報) 7・8月号 vol.99
6	[琵琶湖新時代へ]おすすめ！琵琶湖博物館 滋賀県知事三日月大造	滋賀報知 (6/22)
6	びっくりわくわくこんにちほ略して「びわ湖」の魅力満載 琵琶湖博物館	滋賀たび 2017summer
6	新展示ぞくぞく！淡水生物に特化したミュージアム琵琶湖博物館 琵琶湖博物館ペア入館券プレゼント	とことことん 2017夏号 vol.23
6	体験しながら琵琶湖を勉強琵琶湖博物館	関西ファミリーWalker 2017夏号
6	日本最大級の淡水生物の展示に注目！琵琶湖と生き物、その周辺の環境を五感で学ぼう！ 常設展示ペア招待券プレゼント	夏休みファミリーレジャーガイド2017 中部版(有料広告のページもあり)
7	[情報BOX]「ピノキオコンサート～大人と子どものための音・学・会 at 琵琶湖博物館」の案内	滋賀プラス1(県広報誌) 7・8月号 vol.168
7	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、水族企画展示「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」、「みんなで「かいこ絵日記」をつくろう！」の案内	博物館研究 vol.52 No.8 (No.590号)
7	夏休みわくわくエコ体験！環境学習イベント情報「水草を観察しよう！」「田んぼ体験 昆虫採集」の案内	広報くさつ 7.1号 No.1178
7	水生植物を身近に 芦谷美奈子主任学芸員	読売Life(京都・滋賀・福井)
7	[ちょこっと講座]ふなずしについて、[でんごんばん]「初心者のためのふなずし作り体験」の案内 / [でんごんばん]「みんなでメダカを考える会」の案内	にゅーすもりやま No.650 No.651
7	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、水族企画展示「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」琵琶湖博物館ブックレット4「琵琶湖の漁業いま・むかし」の案内	Duet 2017 夏 vol.124
7	「びわ博フェス2017を開催します」の案内	滋賀報知 (7/6)
7	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、水族企画展示「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」、「初心者のためのふなずし作り体験」「びわこ×アート びっくりバードランド」「顕微鏡で観察しよう プランクトンでピンゴ」「葉っぱの形に注目しよう！」「骨にふれてみよう！」の案内	広報鳥丸 第48号
7	常設展示ペア招待券プレゼント	教育しが 7月号 vol.63
7	「みんなで「かいこ絵日記」をつくろう！」の案内	RuSC(ラスク) 8月号 vol.45
8	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、水族企画展示「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」、「田んぼ体験(9月)」の案内	博物館研究 vol.52 No.9 (No.591号)

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
8	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、水族企画展示「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」、「アトリウムコンサート～私たちが奏でる琵琶湖の響き～」、「顕微鏡で観察しよう プランクトンでビンゴ」「ピワマスの採卵現場見学」「はしかけ登録講座」「田んぼ体験(9・10月)」「葉っぱの形に注目しよう!」「骨にふれてみよう!」の案内	れいかる(湖国文化情報) 9・10月号 vol.100
8	琵琶湖博物館1千万人達成予想クイズ実施	滋賀報知(8/3)
8	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、水族企画展示「大どじょう展」の案内	日経サイエンス 9月号
8	夏の絶景ドライブ琵琶湖博物館の紹介	東海じゃらん 9月号
8	水フェスタ 金尾滋史主任学芸員の指導で川の学習	かつべだより 8月号
8	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、水族企画展示「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」の案内	にゅーすもりやま No.653
8	県へ10,000円以上の寄付で琵琶湖博物館の常設展示ペア招待券プレゼント	「しが棚田ボランティア」チラシ
8	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」の案内	Leaf 京都・滋賀 モーニングとランチ
8	開館20周年でリニューアルが進む滋賀県立琵琶湖博物館 篠原徹館長、桑原雅之総括学芸員、亀田佳代子総括学芸員	ミュゼ vol.118
9	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、「田んぼ体験(10月)」の案内	博物館研究 vol.52 No.10 (No.592号)
9	見どころいっぱい!家族でたのしい琵琶湖博物館へ 琵琶湖博物館ペア入館券プレゼント	とことことん 2017秋号 vol.24
9	日本最大級の淡水生物展示!琵琶湖博物館 琵琶湖博物館ペア入館券プレゼント	秋びあ(関西版)
9	琵琶湖博物館の紹介	湖国ドライブガイド vol.1 (滋賀トヨペット)
9	おいで～な滋賀 体感フェアスタンプラリー	おいで～な滋賀 チラシ
9	琵琶湖を五感で味わい尽くせる盛り沢山の琵琶湖博物館	おでかけ moa 10月号
9	見どころいっぱい!琵琶湖博物館へ行こう! 琵琶湖博物館ペア入館券プレゼント	Leaf 11月号 京都・滋賀 おでかけ特集
9	暮らしを守る琵琶湖(その2)「琵琶湖博物館研究調査報告6号」嘉田由紀子知事元琵琶湖博物館総括学芸員	烏梅 第22号 2017年秋 叶匠壽庵
10	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」「田んぼ体験(11月)」の案内	博物館研究 vol.52 No.11 (No.593号)
10	企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、「アトリウムコンサート～私たちが奏でる琵琶湖の響き～」、「みんなで湖魚料理をつくろう!(フナ・ピワマス編)」「田んぼ体験(11・12月)」「秋の色さがしをしよう!」「綿にふれてみよう!」の案内	れいかる(湖国文化情報) 11・12月号 vol.101
10	湖と人間のより良い共存関係を目指して 滋賀県立琵琶湖博物館	マイ奈良
10	琵琶湖の生き物に興味津々!滋賀県立琵琶湖博物館	KELLY 12月号
11	うおーたんの琵琶湖新時代!うみのご探検隊 琵琶湖の生態系を支えているプランクトンについて学ぼう!鈴木隆仁学芸員、[ほっとサロン]「琵琶湖博物館チケットとバイカルアザラシのぬいぐるみセット」プレゼント	滋賀プラス1(県広報誌) 11・12月号 vol.170
11	「綿にふれてみよう!」「琵琶湖地域の水田生物研究会」「田んぼ体験(12月)」の案内	博物館研究 vol.52 No.12 (No.594号)
11	暮らしを守る琵琶湖(その3) 嘉田由紀子知事元琵琶湖博物館総括学芸員	烏梅 第23号 2017年冬 叶匠壽庵
11	ミュージアムへ行こう!琵琶湖博物館など約690施設が入館無料	「関西文化の日」チラシ
12	博物館における多言語対応 楊平主任学芸員	博物館研究 vol.53 No.1 (No.595号)
12	「お魚モビールを作ろう!」「昔の暮らしを体験しよう!」「田んぼ体験(2月)」、新琵琶湖学セミナー「琵琶湖博物館ブックレットから見えてくる研究の新たな展望」(全3回)の案内	れいかる(湖国文化情報) 1・2月号 vol.102
12	見どころいっぱい!琵琶湖博物館へ行こう 琵琶湖博物館ペア入館券プレゼント	とことことん 2017冬号 vol.25
12	関西で初めて!バイカルアザラシに会えるスポット琵琶湖博物館	F.U.N vol.144 (冬号)
12	[でんごんぱん]「ヨシ灯り展 in 琵琶湖博物館」「田んぼ体験(しめ縄づくり)」の案内	にゅーすもりやま No.659
12	冬のびわ湖をまるごと楽しもう!湖南エリアおススメ観光スポット琵琶湖博物館	びわ湖浪漫クルーズ 冬号(12～2月)
12	新世紀ミュージアム 琵琶湖博物館の紹介	(月刊)みんぱく 12月号 vol.41 No.12 (No.483号)

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
1	[情報 BOX]「新琵琶湖学セミナー（全3回）」の案内	滋賀プラス1（県広報誌）1・2月号 vol. 171
1	三日月知事就任後の主なトピックス「県立琵琶湖博物館第1期リニューアルオープン」	滋賀報知（7/6）
1	「新琵琶湖学セミナー 琵琶湖博物館ブックレットから見えてくる研究の新たな展望（全3回）」の案内	Duet 2018 冬 vol. 126
2	「ひな祭り紙芝居」「琵琶湖の湖底をのぞいてみよう！」「はしかけ登録講座」「新琵琶湖学セミナー」の案内	博物館研究 vol. 53 No. 3 (No. 597号)
2	400万年の歴史が生んだユニークな生態系滋賀県立琵琶湖博物館	一度は行きたい全国の水族館
2	泳ぐ魚と仲間になれる？トンネル水槽に大感激♪ 琵琶湖博物館	まっふる家族でおでかけ関西（'18-'19）
2	さまざまな水棲生物たちを育む母なる湖・琵琶湖を体感！ 琵琶湖博物館	ブリッジ絆 vol. 36
2	「ひな祭り紙芝居」「琵琶湖の湖底をのぞいてみよう！」「里山体験教室」「はしかけ登録講座」「新琵琶湖学セミナー第3回」の案内	れいかる（湖国文化情報）3・4月号 vol. 103
2	[でんごんぼん]琵琶湖博物館探検・体験・発見イベント「昔のくらしを体験しよう！」「田んぼ体験」「森の宝物さがし」の案内	にゅーすもりやま No. 661
2	淡水のみに生息する珍しいアザラシ！琵琶湖博物館	びあこどもとおでかけ365日（2018-2019 関西版）
2	琵琶湖博物館入館券プレゼント	パリッシュ
3	[情報 BOX]「はしかけ登録講座」の案内	滋賀プラス1（県広報誌）3・4月号 vol. 172
3	「近美×びわ博 描かれた湖国の生き物と風景」「虹色びわこいのぼりを作ろう！」の案内	博物館研究 vol. 53 No. 4 (No. 595号)
3	「近美×びわ博 描かれた湖国の生き物と風景」「講演会 生きる、描く、湖国の風景 -描かれた近江の景観史を中心に-」たいけんびじゅつかん「銅版画で水の中の世界を描こう」、「春の草花でしおりを作ろう！」「プランクトンを見よう！」「田んぼ体験（5月）」「はしかけ登録講座」「みんなで湖魚料理をつくろう！（コアユ・シジミ編）」「里山探検 田んぼの生き物見つけ隊」の案内	れいかる（湖国文化情報）5・6月号 vol. 104
3	見どころいっぱい！琵琶湖博物館へ行こう 琵琶湖博物館ペア入館券プレゼント	とことことん 2018 春号 vol. 26
3	今年は続々リニューアルに期待大 琵琶湖博物館常設招待券プレゼント	春びあ（関西版）
3	[でんごんぼん]環境ほっとカフェ「外来種対応の考え方～厄介な生きものはルールも厄介？～」の案内	にゅーすもりやま No. 664
3	琵琶湖博物館 バイカルアザラシ「トント」死亡 金尾滋史主任学芸員のコメント	滋賀報知（3/29）
3	環境意識を刺激する琵琶湖博物館の伝える技術 篠原徹館長	かけはし 2018 春号 vol. 286
3	2017年の展示 琵琶湖博物館の紹介	展示学 第55号

### (3) 予算

2017年度歳入 (円)

科目	予算額 (当初)
使用料及び手数料	200,839,000
財産収入	760,000
諸収入	18,576,000
合計	220,175,000

2017年度歳出 (円)

事業名	事業内容	予算額 (当初)
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	327,730,000
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	130,516,000
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 展示交流空間再構築事業	110,551,000
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、 フィールドレポーター	26,347,000
環境学習推進費	環境学習センターの運営	2,945,000
合計		598,089,000

#### 1) 企業連携 (寄附)

115件 27,573千円

リニューアルサポーター	31件	21,287千円
水槽サポーター	43件	2,960千円
メンバーシップ	37件	2,950千円
キャンパスメンバーズ	4件	376千円

## 4 存在基盤の確立

### (1) 琵琶湖博物館協議会

#### 第1回

開催日時 2017年9月27日(木) 13:11～15:12

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題
- ① 前回協議会での意見等について
  - ② 平成29年度前半の各種行事・事業連携について
  - ③ 新琵琶湖博物館創造基本計画行動計画 平成29年度取組状況
  - ④ 第2期リニューアルの進捗について

#### 第2回

開催日時 2018年2月27日(火) 13:10～15:41

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題
- ① 前協議会の意見等について
  - ② 平成29年度の各種行事・事業連携について
  - ③ 新琵琶湖博物館創造基本計画行動計画 平成29年度取組結果
  - ④ 第2期リニューアルについて
  - ⑤ 第3期リニューアルについて

#### 第11期委員

(任期：2016年9月1日～2018年8月31日)

氏 名	区分	現 職 (2018年3月現在)
北島 泰雄	学校教育	草津市立第二小学校校長
下澤 辰次	学校教育	高島市立今津中学校校長
橋詰 純子	社会教育	カワセミ自然の会
鹿田 由香	家庭教育	滋賀子育てネットワーク代表
菊池 玲奈	環境保全	結・社会デザイン事務所代表
中田 春美	文化財保護	近江歴史回廊倶楽部会員
山西 良平	学識者	西宮市貝類館顧問
土井 通弘	学識者	就実大学人文科学部 教授
吉田 準	学識者	日本放送協会大津放送局放送部部長
中坊 徹次	学識者	京都大学名誉教授
中川 毅	学識者	立命館大学総合科学技術研究機構古気候学研究センター長(教授)
横地 富重	その他	(株)ダイフク CSR本部 環境品質グループ長
田淵 千恵子	その他	手話通訳士
佐久間 寿子	その他	公募委員
加藤 みゆき	その他	公募委員

### (2) 企画・計画

#### 1) 新琵琶湖博物館創造基本計画 行動計画

現在、琵琶湖博物館は、2020年まで6年間に及ぶリニューアルの途上にある。このリニューアルによって琵琶湖博物館が目指すべき姿を示したものが2014年3月に策定した「新琵琶湖博物館創造基本計画」である。

この計画の実現に向けて、具体的な達成目標と進捗計画を記した「新琵琶湖博物館行動基本計画 行動計画」を2017年3月に策定した。

計画は「常設展示の再構築」「交流空間・交流機能の再構築」「利用者の利便性・快適性を高める施設整備」「多様な主体との連携」「広報・営業活動の強化」「資料を利用しやすい博物館への進化と飼育生物の計画的繁殖」「『湖と人間』の関係を考える研究の推進」の7つの柱からなり、全体で66の目標と、各年度における進捗目標を掲げている。

## 2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

今年度も昨年度に引き続き「タイムリーな広報、ターゲットに応じた広報、切れ目のない広報」を戦略として広報を展開してきた。広報用チラシ・ポスターの配布、ホームページによる情報発信、広報担当職員による県内外小中学校訪問などを行ってきた。従来の報道機関に加え、プレスリリースの配信・掲載サービスを利用した資料提供や、JR京都駅のマルチビジョンを使った広告、京阪電鉄の駅のPRラックへのチラシの封入、京阪神地域へのリビングの折り込み広告の投函など、広域的な広報活動を行った。また地元のwebを利用してイベントの告知等を行い、県内への広報活動も行った。

これらの活動については、随時広報戦略会議を開き、リニューアルを見据えた広報戦略について検討を行った。

## IV 2017年度をふり返って

### 1 研究部

琵琶湖博物館は1996年4月に設立し、10月に開館してから、今年度21年目に突入した。今年度は2016年度に策定した新琵琶湖博物館創造基本計画の研究活動方針に沿って、行動計画の研究事業を進めた。それは、研究部では今後も研究活動は博物館の根幹であると位置づけ、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探る研究を継続して行く。その方向性として(1)琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進(2)「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究(3)「木から森へ」の博物館学の追求を掲げ、2020年度までの行動計画を実現していくものである。

その創造基本計画に従い、2018年7月に第2期交流空間のリニューアルオープンを目指して、今年度はこれまで20年間の当館ならではの学際的・地域的研究、また他の研究機関や地域の人びととともに調査研究した成果および研究調査に基づいた資料の集積を活かし実施設計を行った。

研究活動方針の1つである、琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程など東アジア水系の特徴を明らかにする研究を2016年から進めている。そのために、琵琶湖博物館とMOUを締結している中国科学院水生生物研究所・博物館との情報交換やセミナーを開催した(2017年4月滋賀)。また、韓国洛東江生物資源館との情報交換や合同セミナー、研究における相互交流に向けた検討会を実施した(2017年5月滋賀)。それを受けて8月には国際シンポジウムに参加し琵琶湖地域の研究成果を発表し、研究協力のスケジュール調整を行った。もう1つの方針である、古代湖としての琵琶湖の価値を高めるため、湖の形成とその環境変化、固有種の成立、種分化や進化、湖辺での暮らしや歴史的な人と湖との関わり捉える研究に取り組んでいる。マケドニア共和国のオフリド水生生物研究所とのMOUの推進を図るため、同研究所所長および研究員を招聘し、第1回目の情報意見交換および今後の共同研究、事業について検討協議した(2018年1月滋賀)。今後、「古代湖」や「東アジア水系」の特徴や価値を見出す比較研究を推進するには、国際協力協定を結んでいる海外の博物館、研究機関との資料交換や共同研究など協力関係を継続して密接にとっていく必要がある。

今年度の研究発信は、学術論文18件、専門分野の著述43件、一般向けの著述93件、学会発表は126件であった。研究成果の発信数は論文数において過去にない、低い水準に留まった。その一方で、学会や研究会での発表が増加したことから、今後論文としての公表が見込まれる。また、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えるために、中日新聞連載コラム「湖岸より」などへの執筆のほか、琵琶湖博物館ブックレットシリーズの刊行を継続している。今年度は第4号「琵琶湖の漁業 いま・むかし」第5号「近江の平成雲根志」第6号「タガメとゲンゴロウの仲間たち」を発刊し、今後も継続してその充実を図っていきたい。新琵琶湖学セミナーでは「琵琶湖博物館ブックレットから見えてくる研究の新たな展望」と題し、ブックレットの刊行にちなんだ内容を深く理解してもらうための一般向けの講座を開催した。今回のセミナーでは、第1号、第3号、第4号の執筆者および関連する研究の最前線について、学芸員や外部研究者が講義を行った。1月、2月、3月の3回に渡って、内部・外部の講師による6本の発表を行い、合計189名の参加があった。今後も、研究成果をわかりやすく伝える研究発信をセミナー形式で行っていくことが望まれる。また、研究発信のひとつである第25回企画展示は、「小さな淡水生物の素敵な旅」と題し、7月15日から11月19日まで開催した。観覧者数は49,128人でたいへん好評であった。

今年度は2016年度に受けた滋賀県立試験研究機関に対する外部監査の主な指摘事項、1) 評価体制に関すること、2) 劇物・毒物等薬品類の管理体制や運用に関すること、3) 研究機器類の管理と運用に関することについて、改善を進めた。1) 「滋賀県立琵琶湖博物館研究評価実施要綱」に従い、研究評価を行う。2) 「滋

賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程」に従い、年1回の棚卸の実施（2017年9月）と帳簿管理（2018年1月）、廃棄処理（2018年2月）など適切な運用を行う。3）研究備品の管理については、重要研究備品のチェックを行い（2018年3月）、使用しない機器類の譲渡（2017年12月）や使用不可能な機器類等の洗い出しを行い、「滋賀県立琵琶湖博物館研究用備品等運用および管理に関する要項」の策定への準備を進めた。

研究予算としては、年々県費による研究費が減少する中で、これまで科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んできた。今年度の科学研究費については1件の新規採択があり、継続を合わせて6件という結果であった。博物館活動の根幹となる研究の先細りに危機感を持つ。今後も科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していくとともに、新規の採択率をあげていくこと、さらに科学研究費以外の外部助成に積極的に応募するなど研究費の確保を行っていく必要がある。また、特別研究員の受け入れが18名になり、当館が行う研究調査が幅広く推進されてきているが、共同利用室のスペースや博物館への研究成果の還元の仕事など課題が残る。今後、特別研究員と連携した琵琶湖博物館の研究推進や研究成果の共有、研究不正の防止体制づくりを視野に入れた、他の館外研究者の受け入れ制度全体を見直す必要がある。最大の課題としては、2020年度までリニューアル期間が継続することで、通常業務に加え一人あたりの業務量が増加していることが挙げられる。研究時間の確保が難しい現状であり、研究成果が上がらないことにつながりかねない。今年度は研究専念日として週1日確保を目標に、各学芸員が曜日を設定し実施する試みを行った。結果として、実質は続くリニューアル対応などで研究専念が取得しにくい状況ではあったが、意識改革としては効果があったと思われる。また、琵琶湖博物館協議会での指摘もあり、研究時間の現状把握として、2018年1月中の任意1週間、無記名によるアンケート調査を行った。9サンプルの回答から1日約2時間の研究時間が確保されている結果となった。しかしながら、個人差や担当業務、季節によってかなり異なることが予想され、今後時期を変えてアンケート調査を行い、年間通じての現状調査を行い、研究時間の確保等、研究環境の改善を進めることが重要課題となるであろう。

## 2 事業部

### (1) 展示

昨年7月14日にリニューアルオープンしたC展示室と水族展示室の効果があり、各展示室はたいへんな賑わいとなった。C展示室に設置されたオピニオンボードには、「今年2回来ました」や「また来たい」などの来館者の感想が書かれていた。このように来館者が増えたことはうれしい状況であるが、展示交流員の増員はされておらず、展示室運営における今後の重要な課題の一つである。

第25回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」は、淡水の水生微生物がかわった、しかも素晴らしい生息場所の分散方法について紹介した。展示では、小さな生き物を顕微鏡での観察や、拡大した静止画や動画などの映像をつかった解説のほか、生息場所の拡大に必要なアイテムを展示した。生活の場を広げていくための彼らにとっての旅についてのボードゲームや、小さな生き物たちが持つ隠された能力をアメリカンコミック風のスーパーヒーローは、スミス学芸員によるもので、来館者からの人気が高かった。

第2期リニューアルに向けての工事がいよいよ開始され、ディスカバリールーム、図書室、新空間は12月1日から、企画展示室は12月25日から閉室となった。また樹冠トレイル工事のため、屋外展示の一部が10月21日から立ち入り禁止となった。来年度のリニューアルオープンが待たれるところである。

### (2) 資料の整備・活用

2017年度は、第2期リニューアルに向けて着実な資料の整備と飼育の管理を進めてきた。これまで長年多くの利用者に図書を提供してきた開架図書約9,000冊を撤収し、「おとなのディスカバリー」コーナー制作に備えた。また、当館が管理するサーバーの更新に伴い、独自に設計していた収蔵資料管理データ・ベースから、汎用性の高い既製品のデータ・ベースへシステムへの移行を行った。図書についても、別の既製品のデータ・ベースへと移行している。これらはインターネットで公開し、利用者の便を図っている。

しかし、未整理の資料や未公開の資料がまだまだ多く、今後も地道に整理と公開の活動を進めてゆく必要がある。特に、資料の収蔵環境については、施設整備が思うに任せないなか、2013年度にとりまとめた資料収蔵環境の調査・情報共有・対策の検討・改善提案を基に、総務課の施設および設備の維持管理担当とも連携して、環境改善に努めている。その一環として、IPM 対応についても全館的に推進している。

なお、3月15日、バイカルアザラシ・トントが死亡した。35歳であった。ご冥福をお祈りしたい。

### (3) 交流・サービス活動

博物館周辺や県内各地で、計15件の観察会等を実施した。うち6件は、他団体との共同事業としての実施であった。また、3種類の講座を計7回行い、4,588人を集めた。依頼に応じて講義や観察会などを行う地域連携事業は、館内が46件、館外は計45件を数え、県内各地および県外まで広く展開した。

学校行事で来館した入館学校数は527校、児童生徒数は40,452人で、前年度より9校、1,965人増加した。特に県外中学校の増加が著しかった(21校、2381人増加)。体験学習を実施した学校数は125校で前年度より1校減少したが、受講人数は9,771人で76人増加した。全体として県内学校の実施が減少し、県外学校の実施が増加した。

フィールドレポーターはアンケート型調査として「カイツブリに会いに行こう」「橋の名前を調べましよう」の2件を行い、前者の結果は新聞報道などもなされ注目された。登録者数は204名であった。

「はしかけ」制度の登録者は年度末時点で352名であった。活動グループ数は22で増減がなかったが、年度末時点で次年度に向けて設立準備中のグループが2つあった。

## 3 総務部

### (1) 来館者の状況

2017年度は、前年度からのC展示室および水族展示室のリニューアルオープンから引き続き、多くの来館者を迎えることができた。企画展示「小さな生き物の素晴らしい旅」(7月15日～11月19日)、びわ博フェス(7月8,9日)などを開催し、2017年度の来館者は415,897人となったが、目標としていた57万人を下回る事となった。

### (2) 来館者サービスの向上

現在進めている「新琵琶湖博物館創造計画」において、2020年までにかけて展示交流空間の再構築を行い、新しい博物館の創造を目指している。

これに併せて、「リニューアルサポーター制度」や「メンバーシップ制度」、「水槽サポーター制度」を創設し、企業や団体を始め、一般の方からも新しい琵琶湖博物館の創造に向けて支援を頂くこととし、積極的な働きかけの結果、多くの賛同を得ることができた。さらに「キャンパスメンバーズ制度」を新設し、学生の来館者に向けてのサービスの向上にも努めた。

「倶楽部LBM」の普及に努め、6,215人(H28 5,878人)の方に入会いただいた。

### (3) 広報戦略

2016年7月に第1期リニューアルオープンしたが、さらに琵琶湖博物館の魅力を周知し、更なる来館者の増加を図ることを目的に、広報活動を展開した。

広報業務については、専門的な知識や豊富な実践経験を持つ民間業者に委託した。業務委託にあたっては、「2017年度には51万人を目指すものであること」「訴求するターゲットは、京阪神地域(淀川流域)に居住する未就学児や小学生がいる家族とすること」とし、パブリシティ活動や駅、交通機関での広告掲示、ウェブを活かした広報等を展開した。

#### (4) 施設整備

第2期リニューアルオープンに対応して、順次案内看板の更新などを行い、来館者に利用していただきやすい駐車場となるよう整備した。また、県立施設無料Wi-Fi整備事業により、館内に設置した5箇所のアクセスポイントの継続運用を行い、来館者の利便性の向上や利用機会の拡大につなげている。

#### (5) 国際提携

当館が相互協力協定を締結している中国水生生物研究所の一部門である水生生物博物館の張館長と技術員1名が4月18・19日に当館を訪問し、研究情報の交換を行った。

4月21日には韓国国立洛東江生物資源館との間で相互協力協定を締結した。7月19日～21日には安館長以下3名が当館を訪問し、情報交換と今後の計画についての話し合いを行った。

昨年度(1月17日)に相互協力協定を締結したマケドニア共和国オフリド水生生物研究所のサラフィロスカ所長と研究員1名が1月25日～30日に当館を訪問し、情報交換と今後の計画についての話し合いを行った。

このほか、海外の複数の施設や団体から環境学習等についての実務レベルでの交流の申し入れがあり、交渉を進めている。

#### (6) 新琵琶湖博物館創造

琵琶湖博物館は、「湖と人間」のよりよい共存関係を築くことを目的に1996年に開館した。以来、環境学習の拠点として、展示・交流活動を通じて、琵琶湖の価値を再発見し、琵琶湖や地域に関心をもつ人づくり・地域づくりに努め、着実に成果をあげてきた。

この間、新たな環境課題の顕在化、暮らしと環境に対する県民の考え方の多様化により地域での取り組みも活発化していた。しかしながら当館で進展した調査・研究、蓄積した知見、収集された多くの資料や標本を伝える大規模な展示更新が行われていない状況であった。

県政の課題や高度化・複雑化した情報をわかりやすく知りたい、体験・交流の機会を求める県民のニーズに応え、琵琶湖博物館が拠点施設として次の時代に向けて「湖と人間」のこれからのかわり方を問い続けていくために、展示と交流の情報発信力を高めるとともに、次世代を担う人材を育成する交流機能を充実する必要があった。

こうしたことから、2012年度にリニューアルの方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」をまとめ、2013年度に「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定し、2020年度までの間に3期に分けて、段階的にリニューアルを実施することとなった。

2014年度において、体感型・参加型展示や実物資料を多く取り入れた発信力の高い展示となるよう第1期リニューアル(C展示室、水族展示)の実施設計を行い、2015年度に展示および建設工事に着手し、2016年7月の第1期リニューアルオープンによりC展示室と水族展示の再構築を図った。

また、2016年度において、参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点となるため第2期リニューアル(交流空間)の実施設計を行い、2017年度に展示および建設工事に着手し、2018年3月には交流空間の一部であるミュージアムショップ、わくわく体験スペース(企画展示室)のリニューアルオープンを行った。

琵琶湖博物館 年報 22号

2017年度

平成30年（2018年）8月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地

電話 077-568-4811